

來貢 [名] 來朝して貢を奉るること

來診 [名] 醫師の來り診察すること

來信 [名] きた書狀

來臨 [名] 人のわが家に來ること

來談 [名] 訪ひ來て話すこと

來訪 [名] 人の來り訪ふこと

來聘 [名] 來朝に同じ

來命 [名] 書中に申越されたるおほせこと

來歴 [名] 物事のへきたりし次第

來往 [名] 來ること往くと

來港 [名] 港へ來りつく

來盟 [名] 來りて盟を結ぶこと

來侵 [名] 他より來りて侵し撃つこと

來寓 [名] 他より來りて住ふこと

來屬 [名] 他より來りてつき従ふこと

來襲 [名] 他より來り襲ふこと

雷擊 [名] 雷の落つること

雷同 [名] 他の思慮もなく他の論に同意すること

禮拜 [名] 禮して拜むこと

磊落 [名] 細事に拘はらぬ氣質

辣腕 [名] すばしこくはたらきあること

亂軍 [名] 軍勢入り亂れて戰ふこと

亂雜 [名] 物事の入り亂れること

亂心 [名] きちがひ

亂醉 [名] 酔ひ亂れること

亂暴 [名] あべれちらすこと

亂發 [名] みだりに發砲すること

亂筆 [名] みだりに書き下すこと

亂兆 [名] 騒動のきざし

亂入 [名] 亂れ入ること

卵生 [名] 卵にて生ずること

濫造 [名] みだりに造り出すこと。濫製(ラ)

濫用 [名] みだりに用ふること

濫發 [名] みだりに發すること

濫殺 [名] みだりに殺すこと

濫罰 [名] みだりに人を罰すること

爛醉 [名] 深く酒に酔ふこと

爛熳 [名] 花の咲き亂れたる状態を言ふ語

爛爛 [名] 光り輝く状態を言ふ語

爛然 [名] 明らかなる状態を言ふ語

懶慵 [名] ものうきこと

落書 [名] 門壁などにいたすこと

落涙 [名] 涙を落す

落居 [名] おちつき

落魄 [名] おちぶるること。落拓(ラクタク)

落索 [名] 食ひ残り飲み残の(あら)を言ふ

落手 [名] 受けとること

落成 [名] 工事の出來上ること

落膽 [名] 氣を落すこと

落命 [名] 死ぬること

落選 [名] えらびに漏れること

落花 [名] 散り落る花

樂天 [名] 命を樂しむこと

絡繹 [名] つらなりつづくこと

老屈 [名] おいかむこと

老實 [名] まめやかなること

老羸 [名] 年老いてよわること

老衰 [名] 年老いて衰ふこと

老成 [名] おとなびたること

老練 [名] 上手なこと

老耄 [名] おいぼるること

朗吟 [名] 詩歌などを聲高く吟ずること

朗讀 [名] あきらかに讀く上ること

浪浪 [名] さまよふこと

狼藉 [名] 亂暴すること

狼狽 [名] うろたへること

牢脱 [名] 牢を脱けて逃げる

來會 [名] 來り集まること

來着 [名] 來りつくこと

來住 [名] 他より來りて住ふこと

埒明 [句] 仕事はかどると

亂行 [名] みだりなる行跡

亂逆 [名] むほん

亂脈 [名] 物の亂れたると

亂潰 [名] みだれつひゆる

濫賞 [名] みだりに優美を與ふること

濫出 [名] みだりに出すと

濫觴 [名] 物事のほじまり

欄外 [名] 書物の内にあるしきりの外

覽觀 [名] 見ること

落掌 [名] 落手に同じ

落城 [名] 城のおちいると

落飾 [名] 髪を下して佛門に入る

落丁 [名] 紙を綴じ漏らしたるもの

落着 [名] 物事の定り決する

牢破 [名] 牢を破りて逃ぐ

牢拂 [名] 牢の罪人を悉く放つこと

老若 [名] 老人と若者と

老獠 [名] 物事になれて狡獪なること

勞力 [名] ほれをり

【む】

無 [名] なきこと

宜 [副] ウべに同じ

群 [自] 多く集まる

蒸 [自] 熱を含む。いきる

徒 [名] 益なきこと

群 [名] むらがること

旨 [名] こころ

宗 [名] おもだちたるもの

叢 [名] むらがること

斑 [名] 同様ならぬこと

向 [自] おもむく

剝 [自] 皮離れて脱け出づ

噎 [自] 氣喉に塞る

無意 [名] 意思なきこと

無爲 [名] 爲すことなきこと

無位 [名] 位なきこと

無一 [名] ことなき

無智 [名] 智慧なきこと

無恥 [名] 恥つることなき

無理 [名] 道理なきこと。強て行ふこと

無我 [名] 我意なきこと

無瑕 [名] きずなきこと

無垢 [名] 清淨なること

無辜 [名] 罪なきこと

無手 [名] からて

無期 [名] 期限なきこと

無味 [名] 趣味なきこと

無比 [名] くらぶるものなきこと

無似 [名] おろかなること

無疵 [名] きずなきこと

無貳 [名] 二心なきこと

無資 [名] もとでなきこと

無下 [副] ひたすらに

無手 [形] 勢はげし

向 [他] 向はしむ

昔 [名] 過ぎにし時。年久しき前に

空 [名] 中に物なし

報 [名] むくゆること

潜 [名] もぐること

寧 [副] 彼より此をと擇ぶ意をいふ

峯 [他] 攫みて抜きとる

咽 [自] 聲支へて塞る

結 [名] 結びたること。事の結びたること

掬 [他] 掌をくぼめてすくひ

無論 [名] 論するまでもなし

無祿 [名] ふしあはせなること

無法 [名] 道にはすること

無謀 [名] 考のなきこと

無邊 [名] はてのなきこと

無毒 [名] 毒なきこと

無茶 [名] 物事に筋の立ぬこと

無賃 [名] 賃錢を出さぬこと

無慮 [副] おほよそ

無類 [名] たぐひなきこと

無學 [名] 學問を知らぬこと

無用 [名] いらぬこと

無慾 [名] 慾心なきこと

無代 [名] 代料を求めぬこと

無斷 [名] ことばりておこなはぬこと

無體 [名] 侮り強ふること

無雙 [名] ならぶなきこと。表裏の同様に

無痛 [名] 痛みのなきこと

無念 [名] 口惜しく思ふこと

無口 [名] 物言はぬこと

無役 [名] 役賃なきこと

無給 [名] 給料を與へぬこと

無形 [名] 形のなきこと

無稽 [名] 根據なきこと

無限 [名] かぎりなきこと

無藝 [名] 何の藝もなきこと

無文 [名] かざりなきこと

無効 [名] ききめなきこと

無根 [名] 根據なきこと

無言 [名] ものいはぬこと

無益 [名] 益なきこと

無縁 [名] 死後縁者の用ふものなきもの

無點 [名] 漢文の振りがなきもの

無慙 [名] 慈悲の情なきこと

無算 [名] かぞへきれぬこと

無産 [名] 資産のなきこと

無才 [名] 才氣なきこと

無罪 [名] 罪なきこと

無疵 [名] 疵なきこと

無銘 [名] 作者の名のなき者

無闇 [名] 理非を分たすに

無實 [名] 罪なきに罪ありとせらるること

無聊 [名] 面白からぬこと

無心 [名] 物にかけかまはぬこと

無筆 [名] 學問を知らぬ事

無錢 [名] 金錢を持たぬ事

無籍 [名] 戸籍に名の記してなきこと

無性 [名] 雌雄の區別なきこと

無稅 [名] 税金のなきこと

無數 [名] 數の限りなきこと

無能 [名] 馬鹿のこと

夢想 [名] 夢に想ひ見ると

夢魘 [名] 夢中おそはるること

無官 [名] 役のなきこと

無窮 [名] きはまりなきこと。無疆(ムキヤ)

無益 [名] ムエキに同じ

無極 [名] 天地間に萬物の始

無明 [名] まだ生ぜざる始

無職 [名] 佛敎の言葉。光明なく暗きこと

無宿 [名] 定まれる職業なきこと

無常 [名] 住むべき家なきこと

無力 [名] 生滅の常なきこと

無情 [名] 威力なきこと

言語 【む】

憤然 [副] 急に怒氣を發するさまにいふ語

僻氣 [名] 物事につきて意見定まらずに折にふれて異なること

浮腫 [自] 水腫などにて脹る

慘然 [形] 憐むへし。苛酷なり。

汚穢 [形] きたなし

蟲氣 [名] 子供にクワイチユウの虫の起ること

無慈悲 [名] 憐みなきこと

無何有 [名] 何事も何物もなきこと

逆 [自] 吐氣を催す

言四

無上 [名] うへなきこと。最も勝れたること

無狀 [名] 亡狀に同じ

無病 [名] 丈夫なること

鞭打 [他] 鞭にて打つこと

夢中 [名] 夢を見てる中

徒事 [名] 無用なること

徒食 [名] 三食の外に物を食ふこと

徒口 [名] 益なきはなし

徒書 [名] いたすらに書くこと

徒死 [名] 無益に死すると

睦 [形] 仲が好いこと

憤 [自] 子供不満足にて泣いて泣く

難 [形] 事入りくみて解き難し

群 [自] 多く一處に集まる

貪 [他] 飽くまでほしがる

室咲 [名] 草木の窹の中に養はれて早く花を開くもの

懊惱 [名] おもひ煩つて

無屈 [名] 屈書をださぬこと

無住 [名] 寺に住持なきこと

無量 [名] はかりなく限りの知られぬこと

徒物 [名] 無用のもの

群立 [自] 一つに集りて立つ

群居 [自] むらがり居る

煩雜 [形] うるさし

睦言 [名] むつまじく語り合ふこと

叢消 [名] 雲などのまばらに消ゆること

叢立 [名] 一むらになりて立てること

聳取 [名] むこを迎ふること

聳入 [名] むことなり婦の家に行くこと

聳料 [名] 豫て聳にと思ひ設けたる人

胸勘定 [名] 心の中にて
胸算用(ムナザンヤウ)

無茶苦茶 [名] 入り亂
別なきこと

無形名詞 [名] 形なく
の名を題す名詞

武者修行 [名] 武士の
通歴して武術を鍛練すること

武者振着 [自] 取りつ

【う】

得 [他] 我手に入る

宇 [接] 建物を數ふるに用ふ
る語

羽 [名] 五音の一音最も高き
もの

上 [名] 高き方。勝れたるこ
と。貴きこと

宜 [副] 肯ふ意を示すにいふ
語

内 [名] ソトノ反

打 [名] ちかたの札を手のう
ちより場にうちだす

氏 [名] 他の苗字の下に添ふ
る敬語

賣 [名] 賣ること

汝 [代] 人をいやしめて呼ぶ
語

空 [接] 物の中の空虚なるこ
と

鬱 [名] 氣の寒ぐこと

裏 [名] 表ならぬ方

末 [名] はし。はて。

生 [他] 胎内の兒を出す

熟 [自] 熟す

倦 [自] 仕事にぬく

績 [他] 麻苧を細く裂き長く
合せてよる

埋 [他] ウヅムに同じ物を物
の下に入れてかくす

運 [名] 人の身にめぐり來る
善惡の象

餓 [自] 腹がへる

植 [他] 物を地に埋めて立つ

浮 [自] 水面にあがりて沈ま
ぬ

受 [他] 他より來るを身に取
る

甘 [名] うまきもの

初 [名] 生れのままして飾り
無きと(ウヒ)とも云

餓 [名] ひもじきこと

憂 [形] 心苦し。つらし

失 [自] なくなる

虚 [名] ウツロに同じ

雨意 [名] あま模様

雨後 [名] 雨降りの後

雨餘 [名] 雨の霽れた後

有爲 [名] 佛教の語。三界
輪廻の境界

有無 [名] あると無きと。
否と應と

迂路 [名] まわり道

迂餘 [名] まわり遠きこと。
巧に言ひまわす

虚言 [名] いっぱりごと

大人 [代] 貴人又は師匠學
者を敬ひ稱する

奪 [他] 強て取る

疎 [形] 親しからず。おぼろ
げなり

疎 [自] 忌み嫌ふ。(ウトン
ズ)

潤 [名] くもること。光澤な
きこと

浮 [他] 浮くやうになす

浮 [自] 心を遊に奪はる

浮 [副] 氣附かずに

穿 [他] 孔をあく。身に着る

嗽 [名] 湯水を含みて口中を
清むること

轉 [別] いよいよ。ますます

憂 [名] 憂ふること。心配。
害となること

歌 [他] 聲をあげ節をつけて
歌を唱ふ

嬉 [形] 快く喜ばし

鬱 (うつす) [自] 氣むすぼる

賣 (うれる) [自] 商ひ行ばる

寫 (うつし) [名] うつすこと。うつしたるもの。他物を形どり作ること

移 (うつす) [他] これをかれに變ふ

移 (うつり) [名] 傳はること。贈物の返禮に其器に入れて戻す品物

映 (うつす) [他] かしこの影をここに

現 (うつつ) [名] 幻なること。

空 (うつろ) [名] 中の空しきこと

恨 (うらみ) [形] 殘念に思ふこと

甘 (うまし) [形] 味好きこと。技に巧みなり

噂 (うはさ) [名] 世上に言ひふらす話

美 (うまし) [形] よし。快し

動 (うごく) [自] ゆれて靜かならず。居る處が變る

餒 (うてる) [自] 炎暑などに魚などの腐ること

後 (うしろ) [名] 前の反語。しりへ

薄 (うす) [形] まからず

胡亂 (うるん) [名] 怪しく疑しきこと。胡散(ウサン)

上手 (うばて) [名] 技藝などの他より勝れたること

上荷 (うはに) [名] 船の上の方に積む荷

上邊 (うはべ) [名] 上に見ゆる處

浮氣 (うはき) [名] 心浮きて居て物事に移り易きこと

浮名 (うきな) [名] 評判。噂

有用 (うよう) [名] 物事の役に立つこと

有德 (うとく) [名] 德行あること

有得 (うとく) [名] 富み榮ゆること

有緣 (うゑん) [名] 因えんあること

內氣 (うちき) [名] 遠慮深きこと

內端 (うちば) [名] 物事を控目にすること。内裏(ウチウラ)

內輪 (うちわ) [名] 一家親類。仲間同士

鳥合 (とりがは) [名] よりあつまり

鳥有 (とりいう) [名] なにもなきこと

迂遠 (うゑん) [名] まわり遠きこと

湯煮 (うでる) [他] エデルの訛

憂身 (うきみ) [名] うきめに當りてある身

憂目 (うきめ) [名] つらきこと

梅見 (うめみ) [名] 梅の花を見て賞すること

薄手 (うすて) [名] 淺き手疵

薄着 (うすぎ) [名] 季候寒き時に薄き衣服を着ると

親族 (うから) [名] 身うちの人

打手 (うちて) [名] 打つ人
打見 (うちみ) [名] うはべより見たる様子
打火 (うちび) [名] キリビに同じ
賣直 (うりね) [名] 買手に賣り渡す
己等 (うぬら) [代] 汝等
鬱氣 (うつき) [名] 氣の結ばること
盤紆 (うわら) [自] 高く低く又は右に左に曲りめぐ
呻吟 (うなる) [自] 苦しみてウンウ(ウメク)ン聲を出すこと
裏手 (うらて) [名] 裏の方
雲氣 (うんき) [名] 雲の動く狀

運氣 (うんき) [名] シアハセに同じ
運祚 (うんそ) [名] しあはせ。天運
云爲 (うんゐ) [名] 言ふことと行ふこと
云爾 (うんじ) [句] しかいふ
溫氣 (うんき) [名] あつさ
兔毛 (うさぎ) [名] 事物の極めて小きに譬へて云ふ
鵜呑 (うののみ) [名] 鵜の魚を呑むが如く食物を丸呑にすること
羽化 (うけ) [名] 仙人になること
受身 (うけみ) [名] 他より動作を受くること
産湯 (うぶゆ) [名] 生れたる兒に始めてゆあみさすこと

烏合 (とりがは) [名] よりあつまり
鳥有 (とりいう) [名] なにもなきこと
迂遠 (うゑん) [名] まわり遠きこと
湯煮 (うでる) [他] エデルの訛
憂身 (うきみ) [名] うきめに當りてある身
憂目 (うきめ) [名] つらきこと
梅見 (うめみ) [名] 梅の花を見て賞すること
薄手 (うすて) [名] 淺き手疵
薄着 (うすぎ) [名] 季候寒き時に薄き衣服を着ると
親族 (うから) [名] 身うちの人

埋木 (名) 木の隙又は孔な
めてつくるふこと

潤 (他) 水氣を含む。富む。利
を得

煩 (名) わづらはし

麗 (形) つやありてうつくし

伺 (他) 問ふ。訪ふの敬語

窺 (他) のぞく

疑 (他) 不審に思ふ

嘯 (自) 口をすぼめて聲を出
す

訴 (他) 口に適はずと思ふこ
とを言ひ出ること

俯 (自) 頭を前へ垂れて下へ
向く

埋 (自) 物の下又は中にかく
る

美 (形) みことなり

魘 (自) 恐るべき夢に襲はれ
て聲をあぐ

頷 (自) 首を動して承諾した
る意を示す

促 (他) 催し立つ。せかす

占 (他) 占を行ふ

羨 (他) 他の好きを見て我も
その如くにあらぬを
思ひ惱む

恨 (形) 怨むべし

敬 (他) 尊みて謹しみあつ
か

諾 (他) 心に受けてゆるす

動 (他) 動かす

失 (他) なくす

薄 (自) 薄くなる

舂 (自) 臼の中に物を入れて
搗く。日山の端に入
らんとす

上書 (名) 書状書物などの
表に文字を書く

上側 (名) 物の上の方

上染 (名) 染め上ぐるこ
と

上澄 (名) 上の方の清みた
る水

上面 (名) 上の方

上塗 (名) 最上の面を塗る
こと

上剝 (名) 塗物などの上の
方の剝ぐること

上腫 (名) 上部のふくれ

上向 (名) 上に向くこと

上役 (名) 己れより上に立
つ役人

上下 (名) 上と下と

上様 (名) 華族の家にて臣
下などの主人を
敬ひて稱する語

打上 (他) 打ちて上の方に
あがらしむ

打明 (他) 包まず語るこ
と

打合 (名) 互に打つこと

打方 (名) 銃砲をうつこと。
碁を打つこと

打勝 (他) カツに同じ

打返 (名) 金物を鍛へ改む
ること

打聞 (名) 聞くこと

打傷 (名) 撲たれたなどして
受けたる傷

打消 (名) 打ち消すこと

打込 (他) 打ちて入る

打据 (他) 打倒す

打出 (名) 打ち出すこと。
相撲芝居などの
終り

打付 (他) ながつ。なげ
やる

打解 (自) 互に心を打ち明
して親しむ

打止 (名) をほり。しまひ

打止 (他) 打ち中てて殺す

打負 (自) マクに同じ

打水 (名) 庭先などに打つ
水

打遣 (自) 捨て置く

打寄 (自) 打ちかけて来る

打分 (名) 碁の勝負などに
兩方一番宛勝つ
て分れること

打割 (他) たたきわる

内入 (名) 負債の内の幾分
を返すこと

内内 [名] 外人に示さぬ内
内側 [名] 物の内の側
内借 [名] 前金に借ること
内金 [名] 總金高の中の若干
内外 [名] 内と外と
内規 [名] 箱などの内側の寸法
内幕 [名] うちわ。内證事
内股 [名] 股のうち側。内
内譯 [名] 金錢の總高の内訳を小分けしてその筋譯を記すこと

討入 [名] 攻め入ること
討死 [名] 戦ひながら死ぬこと
討取 [他] 武器にて殺す
雨中 [名] 雨の降るなか
雨注 [名] 雨の注ぐが如き
賣上 [他] 賣り終る
賣掛 [名] 物を賣りてその代料を收めぬこと
賣先 [名] 品物を賣るべき先の相手
賣買 [名] うるとかふと
賣切 [他] 悉く賣 盡す

賣食 [名] 業なくて諸道具活計を立つること
賣込 [名] うりこむこと
賣聲 [名] 物を賣らん爲呼歩く聲
賣代 [名] 商品の直段
賣据 [名] 藏などもそのまに据えおきて賣ること
賣高 [名] 賣り上げたる金高
賣出 [名] 賣り出すこと。賣り始むること
賣物 [名] 賣るべき品
賣出 [自] 賣れ行きよくな
賣口 [名] 賣れて行く相手

鬱悒 [名] 氣ふさぐこと鬱憂(ウツイウ)
鬱結 [名] 氣の結ばるること
鬱散 [名] うつ氣を散ずること
鬱滯 [名] とどこほること
鬱憤 [名] 積るいきどほり
鬱勃 [名] 心の中に籠りたる思
鬱悶 [名] 心寒きて悶ふること
鬱積 [名] 氣の結ばるること鬱屈(ウツクツ)
裏打 [名] 紙などの裏に更紙を貼りて厚くすること
裏表 [名] 裏と表と。うら

裏書 [名] 紙の裏に文字を書くこと
裏切 [名] 同志の者の背外れの反對に立つこと
裏口 [名] 家の後の出入口
裏附 [名] すべて裏のつきたるもの稱
裏判 [名] 文書などの裏に證として押す判
裏腹 [名] 脊と腹と。うら表
雲翳 [名] くもり
雲烟 [名] 雲と烟と
雲間 [名] くもま
雲霓 [名] 雲の立ち上ると

雲集 [名] 雲の如く集まること
雲泥 [名] 天と地と
雲際 [名] 雲の際。雲畔(ウツバン)
雲散 [名] 雲の如くに散ること
運行 [名] めぐりゆくこと
運漕 [名] 船にて物を運ぶこと
運輸 [名] もちはこび
運籌 [名] 計をめぐらすこと
運送 [名] はこぶこと
運搬 [名] もら運ぶこと

運賃 [名] 物を運ぶ賃錢

運轉 [名] 回り回ること

運動 [名] 身體を動かすこと

運筆 [名] 筆の運び

運命 [名] 運に同じ

運用 [名] はたらかす

馬繼 [名] 馬にて旅行する時馬を乗り替ふる處

馬面 [名] 顔の長き人を嘲りていふ語

馬乘 [名] 調馬師

請合 [他] 儻なりと證人に立つ

請賣 [名] 間屋より商品を賣り捌くこと

請負 [他] 請負仕事として引請く

請書 [名] 仰を承りたる由を記せる證書

請出 [他] 代金を出して我方へ引取ること

請人 [名] 引請に立つ證人

請判 [名] 保證の判

受込 [名] ひきうけ

受付 [名] 引け受ると。官署などにて來人の書を取次ぐ處

受繼 [自] うけとりて引きつぐ

受取 [名] 物を受取りたる由を記す證書

受引 [他] ウケガフに同じ

受持 [名] 擔當すること

受作 [名] こさくに同じ

浮張 [名] 屏風の骨丈に糊を付けて間を虚にして軽く浮かせて張る法

浮彫 [名] 彫物の浮かして浮刻(ウケボリ)

植付 [名] 植え立つ

植分 [名] 苗を分けて植ふること

腕前 [名] はたらきぶり

腕組 [名] 兩腕を胸の前にて打交へて組むこと

腕立 [名] 我力を頼みて人に向はんとする

腕盡 [名] 力のあらん限りを盡して闘はんこと

腕扱 [名] その技量の仲間れたること

浮雲 [名] 空中に浮びただよふ雲

浮立 [自] うかれいづ

埋種 [名] 隙を填むる料

埋立 [名] うめたつること

後手 [名] 兩手を脊にまはすこと

後見 [名] 陰にて他を見つつけ扶くること

狼狽 [自] あはて惑ふ

彷徨 [自] 迷ひ歩く

虚拔 [他] 多くの中より間を隔てて抜き出す

謔語 [名] 熱などに浮かすとを語ること

自惚 [名] うねぼるること

魚釣 [名] 魚を釣ること

歌口 [名] 和歌の詠み風

歌好 [名] 和歌を好む人。端歌等を好む人

轉寝 [名] カリネに同じ

嘘言 [名] そら言

移氣 [名] かはり易き心

埋火 [名] 爐などの火を灰にていけたる物

渦卷 [自] 渦をなしてめぐる

卷曲 [自] ウネルに同じ

頂垂 [自] 頂を前へ出して頭を低る

芸窓 [名] 學びの窓

蘊奥 [名] おくそこ

迂回 [名] 遠まわりすると

迂闊 (名) まわり遠きこと。心の行き届かぬ。

産聲 (名) 兒生れて始めて啼く聲。

蠢爾 (自) うじうじと動く。

紆曲 (名) まがりくねり。

有情 (名) 生きて情あるもの。

初産 (名) 初めて兒を生む。

初陣 (名) 初めて軍に出る。

薄薄 (副) すこし。ほのか。

薄鈍 (名) 少し馬鹿な人。

薄綿 (名) 衣服に薄く入れたる綿。

白歌 (名) 白をつきなながらうたふ歌。

内戾脚 (名) ワニアシに同じ。

内弟子 (名) 己が家に同居せしめおこ弟子。

嘘言者 (名) うそごとを言ふ人。

受太刀 (名) まげ色になること。

有卦無卦 (名) 有卦に入れば七年間吉事多く無卦に入れば七年間凶事多し。

疑 (形) 不審なり。

嬉 (自) 嬉しく思ふ。

浮 (副) 心つかずに。ぼんやりと。

蹲 (自) 膝を折りて居る。

堆 (形) 積りて高し。

羨 (形) 羨むべし。

麗 (副) 晴れてのどやかに。

恭 (形) 行儀よくあり。

打明 (他) 包ます語る。

打合 (名) 豫め語らひおく。

打落 (他) たたき落す。

打返 (他) くりかへす。

打碎 (他) うちこぼす。

打毀 (名) たたきこぼす。

打殺 (他) たたきこぼす。

打擲 (他) ながる。

打倒 (他) うちこぼす。

打違 (自) 互に彼と此とを違ふ。

打散 (他) 攻め走らす。

打付 (副) さしあてて。

打續 (自) ツツクに同じ。

打鳴 (他) 打ちて鳴らす。

打拂 (名) うち拂ふこと。

打任 (他) マカスに同じ。

打破 (他) うちこぼす。

打別 (他) ヲケヲケに同じ。

打棄 (他) スツルに同じ。

打延 (他) ノパスに同じ。

賣行 (他) 物をうりながら行く。

賣詞 (名) 他を怒らせんためになげと言ひ出す言葉。

賣捌 (名) うりひるむ。

賣拂 (他) 賣却す。

賣弘 (他) 廣く世間に賣る。

賣減 (他) 商賣に損をしてもとてを減す。

賣渡 (名) 賣り渡すこと。

漆塗 (名) 漆にて器物を塗ること。

漆負 (名) 漆にかぶれること。

鬱鬱 (副) 草木などの茂れるに言ふ言語。鬱鬱 (ウツウツ) 鬱蒼 (ウツソウ)。

鬱陶 (形) 氣閉ぢて開けず。

鬱晴 (名) 鬱氣を散すると。

蔚然 (副) 物の盛りたるさまを言ふ。

呻聲 (名) うなるこゑ。

裏表 [名] ウラウヘに同じ

裏返 [名] うらがへすこと

浦傳 [名] 海邊に沿ひたる道を行くこと

雲脚 [名] 雲あし

雲從 [名] 雲の如く多く從ふ

雲上 [名] 雲の上の方。禁中の稱

愠色 [名] いかれる色

馬煙 [名] 馬の走りて起る塵埃

生立 [名] 生れたばかりなること

生付 [名] 生れながらにし

生落 [他] 兒を生み終ふ

請拂 [名] 請受ると仕拂ふと

請戻 [他] ウケダスに同じ

受渡 [名] 受くると渡すと

受答 [名] 問を受けてその答ひをなすこと

腕揃 [名] 技能ある人の揃ふこと

腕力 [名] 腕の力

腕較 [名] 力くらべ。技くらべ

腕試 [名] 力だめし

腕捲 [名] 袖口を捲きあげて肘をあらはすこと

浮浮 [副] 心の浮かれ立つさまをいふ

浮立 [自] 水面に浮み出づ

浮沈 [名] 盛なると衰ふる

埋合 [他] 利益にて損を償ふ

倦疲 [自] 弱り果つ

後押 [名] 後より押すと。かげになりて助

後向 [名] 後を向けて居ること

後方 [名] 後の方

後指 [名] 人の後より指をさして譏ること

初初 [形] 未だ物事に馴れず羞しげなり

薄明 [名] 微に明るきこと

薄赤 [形] うすく赤し

薄曇 [名] 少しくもること

薄暗 [形] 少しくらし

彷徨 [副] 路に迷ひてうろつくさま

空覺 [名] 未熟に覺えたること

上空 [名] 他人の意見などを少しも氣に留めぬこと

疎疎 [形] 甚だ疎し

討漏 [他] 殺し漏す

討果 [他] 討ち殺す

潤色 [名] 潤ひて光澤のさえぬ色

潤聲 [名] 泣き出さんばかりの聲

浮浮 [副] 心の落ちつかぬさま

蠕蠕 [副] 虫などの蠢く状態

嘘話 [名] そら言

内輪揉 [名] 内部の紛議

承 [他] 受け聽くの敬語

討滅 [他] 攻めて亡す

討從 [他] 討ちて我に従はしむ

討解 [自] ウチトクに同じ

打違 [副] すぢちがひに

伺濟 [名] 伺ひたること

生合 [自] その時に生る

生變 [自] 死したる動物の魂が他の動物に變りて生る

後合 [名] 互に後を向きて脊を合すること

後暗 [形] 後の方心もとな

嘘八百 [名] 多くの虚言

浮世話 [名] 世の中の物語り

右往左往 [名] あちらこちら

有爲轉變 [名] 世上の易き事

【の】

乗 (自) 上にのぼる。だまさ
飲 (他) 嚙まずして喉へ下す
退 (自) しりぞく。去る
述 (他) ものいふ
載 (他) 書きのす
伸 (他) のげすに同じ
熨 (他) ヒノシにて布帛の縮
遅 (形) みに伸し平らかにす
呪 (他) 詛の字をも用ふ

延 (他) のげしむ。ながびか
上 (自) 高き方へ進む
逃 (自) 逃ぐ。まぬかる
除 (他) 取り去る
覘 (自) 物陰より窺に見る
望 (名) のぞみ見ること
臨 (自) 下をのぞきて見る
殘 (他) あまり
乘氣 (名) 心のはやみに進
伸立 (自) 伸びて高くなる

能事 (名) 効能のある事業
能化 (名) 能く人を教化す
則 (他) 手本にす。(ノットル)
宣 (他) 言ふの敬語
望 (形) 好まし
罵 (他) 怒りて悪口をいふ
長閑 (副) 空晴れて靜に
後方 (名) 後の時
後後 (名) あと
後程 (名) のちの時

乗上 (他) 船を淺瀬に乗す
乗合 (名) 舟車などに衆と
乗打 (名) 馬車駕籠などに
乗替 (自) 乗りながら上る
乗掛 (自) 乗りながら上る
乗替 (他) とりかへて乗る
乗切 (自) 乗りつむ
乗組 (自) 舟に乗り合ふ。
乗越 (他) 乗りたるままに
乗入 (自) 馬に乗りて物の
乗捨 (他) 乗りおたる物を
そのまゝに捨て置く

乗出 (自) 乗りて出で始む
乗附 (自) 馬を馳せて到着
乘取 (他) 攻め込みて敵の
糊着 (名) 糊にて物を着く
農耕 (名) 田畠を耕すこと
能辯 (名) 辯舌の巧みなる
能筆 (名) 文字を書くに巧
濃厚 (名) 色又は液體など
濃淡 (名) こきとうすきと
仰反 (自) 仰ぎて背へ反る

不殘 (副) すべて。ことごと
偃蹇 (自) 恣に延びひろが
飲殘 (名) 牛ば飲みて殘し
飲拔 (名) 大酒を飲む人を
飲乾 (他) 少しも残さず飲
吞込 (他) 呑みて喉に入る
伸立 (自) のびて高くなる
宣 (副) のたまふには
延詰 (副) 心ゆるやかに
登詰 (他) 登りて極點に至

延拂のへばらひ [名] 日限を延べて償
 長閑のどやかに [副] ノドカニに同じ
 乗移のりうつる [自] 替りて乗る
 乗掛のりかか [自] 乗り始む
 乗廻のりまはす [他] 馬などにのりあ
 乗溢のりこぼる [自] こぼれあふるま
 覘込のぞきこむ [他] よく覗く
 膿潰のうくわい [名] うみついえる
 残惜のこりおし [形] 思ひ残りて惜し
 飲廻ののみまわし [名] のみ廻すこと

飲潰ののみつぶす [他] 酒を飲みて空し
 伸上のしあがる [自] のびあがる。伸
 伸縮のひちぢむ [名] のぶとちぢむと
 延延のびのびと [副] 心ゆるやかに
 望のぞく [副] 願ふには
 殘多のこりおほし [名] 心あとに残りて
 昇降のぼりくだり [名] のぼるとくだる
 蚤取眼ののみとりまたこ [名] 物をさがす
 懶惰者のらくらその [名] なまけもの

苦くる [名] くるしみ。ほれをり。
 愚ぐ [名] おろかなること
 口くち [接] 器具を數ふるに用ふ
 軀く [接] 佛像などを數ふるに
 繰くる [他] 廻らして引出す
 剗く [他] 機械にて廻らしてほ
 吳くる [他] つかはす
 暮くる [自] 日が入りて空暗くな
 科くわ [名] しな。ほど

課くわ [名] うけもち。役にあて
 寡くわ [名] 數の少きこと
 顆くわ [接] 玉果、印などを數ふ
 塊くわい [名] かたまり
 朽くつ [自] 枯れくさる
 組くむ [自] 仲間になる
 汲くむ [自] すくひとる。酒を飲
 酌くわく [他] 盃に汲みとりて飲む
 群ぐん [名] むらがりたること
 空くう [名] そら。とりとめなき

紵く [他] 絲の縫目の見えぬ様
 限くま [名] 水の岸に曲りたる處
 食くふ [他] 噛みて呑む。活計を
 構くま [他] いとなむ。かまふ
 悔くわい [他] 過を覺りて後に憂ふ
 癖くせ [名] 偏りたる習慣
 具ぐ [自] そなはる。そろふ
 愚意ぐい [名] 愚案に同じ
 愚痴ぐち [名] おろかなること
 愚圖ぐづ [名] 性質鈍きもの

驅鼠くそ [名] れずみを追ふと
 供奉くぶ [名] 行幸の時などに
 口義くぎ [名] 口訣に同じ
 公事くじ [名] おほやげごと
 黑くろ [自] 黒くす。巧に欺く
 委くわい [形] 詳かなり
 加くは [他] 物に物を添ふ
 銜くはふ [他] 上齒と下齒とにて輕
 配くはい [他] 分けてやる
 窪くぼ [他] 中を低くす

苦くろし [形] 痛みて眼まし
 狂くるひ [名] くるふこと
 包くるむ [他] 包み巻く
 化くわす [自] 形變る
 和くわす [自] まじりあふ。心やは
 會くわい [名] 衆人の寄り合ふこと
 懷くわい [名] おもひ
 魁くわい [名] かしら
 回くわい [接] 事のかさなる度数を
 示すに用ふる語
 月くわつ [接] 年の内の一を數ふる
 に用ふる語

歡くわん [名] よろこび
 寬くわん [名] ゆるやかなること
 卷くわん [接] 書物の冊數を示すに
 用ふる語
 願くわん [名] れがひ。いのり
 碎くだく [他] やぶる。こぼる
 下くだす [名] おろす。さぐ。おと
 件くだり [名] 前文にありし物事を
 さして言ふ語
 降くだる [自] 降參す
 行くわい [名] 書き下したる文のた
 てのならば
 崩くづす [他] 破る。こぼす

頹くづれ [名] 終りて人の散り行く
 こと
 屈くつ [自] かがむ。まがる
 暮くらし [名] すぎはひ。なりはひ
 暗くらし [形] おろかなり
 食くわふ [他] クフに同じ
 較くらぶ [他] 物と物とを並べてそ
 の差異を見ること
 位くらゐ [接] ほど。だけ。ばかり
 軍ぐん [自] 陣取りす
 薰くわん [自] かなり
 薰くゆる [自] ふすぶる

寓ぐす [自] 住ふ
 括くわく [名] 統ぶること
 括くわく [他] 束ぬ。しぼる
 潜くわん [自] 物の下間などに入り
 込む
 含くわむ [他] ふくむ。ふくましむ
 悔くわい [名] 悔むこと。人の死を
 甲ふこと
 臭くさし [形] 悪しき匂あり
 臭くさし [接] 少し其様子の見ゆる
 意をいふ語
 腐くさり [名] くさること
 腐くさす [他] そしる。けなす

組くみ [自] 仲間に入る
 挫くち [自] 折る。曲る。傷つく
 扶くち [他] 穿ちえぐる
 縊くびる [自] 自から喉を縊りて死
 ぬ
 括くびる [自] 兩端ふくれて中狭く
 あり
 曇くもり [名] 雲のかかること
 燻くぶ [他] 烟を立たしむ
 苦勞くらう [名] くるしみつかる
 苦學くがく [名] 苦辛して學問す
 苦界くがい [名] 人間界。遊女の
 境界

苦痛くつう [名] 痛み苦しむこと
 苦樂くらく [名] くるしみとたの
 しみと
 苦辛くしん [名] 難義をすること
 苦役くえき [名] おひつかはるる
 苦節くせつ [名] 身を苦しめて操
 を立つること
 苦悶くもん [名] くるしみ悶ふる
 こと
 苦戰くせん [名] 難義な戰
 苦腦くなう [名] なやみ
 苦論くろん [名] 役にたたぬ議論

愚弄 (名) 欺きなぶること
 愚鈍 (名) 心のにぶきこと
 愚存 (名) 他に對して己の所存の謙稱
 愚昧 (名) おろかにて理に味きこと。愚蒙 (ケモウ)
 愚見 (名) 己が見識の謙稱
 愚考 (名) 己が考の謙稱。愚案 (ケアン)
 愚札 (名) 己が手紙を言ふ謙辭
 愚策 (名) 役にたためること
 愚筆 (名) 己が書又は文章の謙稱
 過譽 (名) 程を越えて譽むること

過誤 (名) あやまち
 過度 (名) 程を越ゆること
 夥多 (名) おびただしきこと
 供養 (名) 亡魂に物を供へて回向すること
 供物 (名) 神佛に供ふる物
 句題 (名) 和歌の題に三代抽きて出すもの
 句切 (名) くのきれめ。きり
 句讀 (名) 文章の讀切りに句點をうつこと
 句點 (名) 文章の句のしるしにつくる點
 屈指 (名) 指をり數ふるほど名高き人

弘通 (名) 佛教の語教法の廣く世に弘まること
 弘誓 (名) 佛語佛の弘く衆生を濟んとする誓
 拗戾 (自) ひかみまがる。ねる
 紆曲 (自) うねうねする
 軍議 (名) いくさの評議
 軍事 (名) 軍に係ること
 軍費 (名) 軍の費用
 軍紀 (名) 軍隊の紀律
 軍備 (名) 軍の用意
 軍資 (名) 軍事の用度

軍務 (名) 軍事のつとめ
 軍機 (名) 軍の機密
 訓示 (名) をしへ示すこと
 訓諭 (名) をしへさとす
 羣議 (名) 多勢の評論
 羣下 (名) したじたのもの
 羣起 (名) むらがり起ること
 羣疑 (名) 大勢の疑
 羣飛 (名) むらがり飛ぶこと
 空理 (名) 事實に遠き理

偶語 (名) 相並びて談話をなすこと
 寓意 (名) 他の者にかこつてその意を顯す事
 區區 (副) まちまちに。小く
 區分 (名) わかち。區別 (クベツ)
 區域 (名) さかひのかぎり
 區分 (名) かぎりわかつこと
 口訣 (名) 言葉にて傳ふべき肝要のこと
 口傳 (名) 業にて傳ふること
 口授 (名) 口にて教へ授くること
 口舌 (名) 物言ひ争ふこと

工夫 (名) 方法を求め計ること
 口説 (他) くとくとどしく繰返して説く
 口調 (名) ことば調子
 功德 (名) よきしわざ。善き行ひ
 功力 (名) 佛方の語。いさをし
 朽目 (名) 朽ちたる部分
 驅逐 (名) おひはらふこと
 驅除 (名) かりのぞく
 驅役 (名) 後より追ひ責め
 火氣 (名) 火の氣

華美くわび (名) 花やかにて美しきこと

具眼ぐがん (名) 物事の是非を見分くるはたらきあること

臭氣くさみ (名) 悪しき臭

工夫くふう (名) 方法を求め計ること

工合くあひ (名) 物事の組立ちたる有様

工面くめん (名) 才覚。身代

汲場くみば (名) 水などを汲む處

具申ぐしん (名) くばしくのぶるも具ぐ(アチン)

食氣くひけ (名) 物を食ひたがる心

窃取くすね (他) ひそかに盗む

實直くすぢ (自) 質朴に見ゆ

詐騙さぼん (自) 強談をなす

周圍しゅうゐ (名) めぐり。まわり

工手間くでま (名) 大工などの手間賃

黒くろ (自) 黒くなる

企くは (他) 思ひ立つ

加くは (自) ある上に添はる

窪くぼ (自) 中低くなる

苦くる (名) くるしむこと

狂くるは (他) 狂ふやうにする

確くわく (別) しかと。たしかに

會くわい (自) よりあふ

管くわん (他) とりしまる

冠くわん (自) 元服す

關くわん (自) かけはる

觀くわん (自) 佛教の語。さとる。あきらむ

寬くわん (自) ゆるやかになる

暗くら (他) 暗くす。見えなくす

耘くら (自) 田島の雜草を除く

薰くゆ (他) 煙を立つ

燻くすぶ (自) 燃えずして煙のみ立つこと

黒燒くろやき (名) 焼き焦して黒くすること

桑摘くはつみ (名) 桑の葉を摘みとること

桑原くはばら (感) 雷鳴の時に唱ふる語(桑原は菅原家の領地の名)

國柄くにから (名) 國のなり立ち

國換くにかへ (名) 移封

國者くにかもの (名) 田舎もの

口開くちあけ (名) 物の口を開くことと事のほじまり

口合くちあひ (名) 話口に合ふこと

口入くちいれ (名) こなたの用事をこなしたへ言ひ入ること

口占くちうら (名) 他の物言にて其心の程を試すこと

口重くちおと (名) 物言ひ敏からず

口書くちがき (名) 罪人の白状せることを書きとめ

口輕くちかろ (名) よく物言ふこと

口利くちき (名) 巧に物言ふ人

口切くちきり (名) 事のほじまり

口癖くちくせ (名) 言ひ慣れて癖となりたること

口先くちさき (名) 心に思はぬことを飾りて言ふこと

口付くちつき (名) 口のすがた。物言ふ様子

口過くちすぎ (名) 世渡り。くらし

口出くちだし (名) 人の談話中に差交ふること

口止くちど (名) 口外するを誠しむること

口馴くちな (自) 常に言ひ馴る

口前くちまへ (名) 物言ひぶり

口忠くちまめ (名) まめに物言ふこと

口前くちまへ (名) 物言ひぶり

口別くちわけ (名) 物を類によりて別別にすること

口惜くちをし (形) 残念なり

口幅くちは (名) 思ひ切りたることとを言ふこと

愚直ぐちよく (名) ばかしやうちき

繰上 (他) 次第にとへあぐ
繰りて終る

繰延 (他) 順に次へ送る

繰入 (他) 次第に次に入る
繰込(クリコム)

繰替 (他) 彼と是とを替て
用ふ

繰越 (他) 次第に次に送り
やる

繰言 (名) 同じ言を繰り返
し言ふ事

繰引 (名) 次第次第に引き
上ること

車座 (名) 環の如く圍みて
すわること

廻轉 (自) ぐるぐるとまわ
る

廻轉 (副) 廻り、又巻き結
ぶ状にいふ語

圍繞 (副) 物の周圍を廻る
状にいふ語

外事 (名) 外國に關したる
事件

外務 (名) 外國に關したる
事務

外部 (名) そとがは

外侮 (名) 外國より受くる
あなどり

外議 (名) そとがはのうは
さ

願意 (名) 願の趣

願慕 (名) 願ひ慕ふこと

歡喜 (名) よろこぶこと

歡呼 (名) 喜びて叫ぶこと

歡娛 (名) 喜び楽しむこと

頑固 (名) かたくななるこ
と

頑愚 (名) かたくなにてお
ろかなること

管理 (名) 取締り

喚起 (名) 呼び起すこと

玩味 (名) よく味ひ辨ふる
こと

勸化 (名) 勸進に同じ

完備 (名) 全く備ふること

還附 (名) 元の持主に返す
こと

緩歩 (名) ゆるやかに歩む
こと

緩和 (名) やばらかなること

火炎 (名) ほのほ火焔(ク
ロエン)

火災 (名) 火事。火難(クラ
ナン)

火勢 (名) 火の勢

火候 (名) 火加減。火急。

過激 (名) 極めて激しきこ
と

過小 (名) 小きに過ぐるこ
と

過言 (名) 言ひ過し

過失 (名) あやまち

過怠 (名) あやまちおこた
り

過大 (名) 大に過ぐるこ
と

過當 (名) 程を超ゆるこ
と

過半 (名) なかばすぎ

過分 (名) 分限に過ぎたる
こと

過敏 (名) 極めて敏きこ
と

過慮 (名) 思ひすぎること

過料 (名) 罰金のこ
と

快癒 (名) 病の癒ゆるこ
と

快氣 (名) 病癒えて心さわ
やかなること

快事 (名) 心よきこ
と

會議 (名) 衆人會合して評
議すること

會話 (名) 相對して談話す
ること

會費 (名) 集會の爲要する
費用

會規 (名) 集會の規則

回顧 (名) かへりみるこ
と

回避 (名) 裁判官又書記が
ある事情により
被告事件の審理に立會ふこ
とをさぐるこ
と

怪異 (名) あやしき事

怪訝 (名) 不審議に思ふ事

怪事 [名] あやしきこと

懷古 [名] 古を懷ひて

魁偉 [名] 大にすぐれたる

魁梧 [名] 體の大なること

悔悟 [名] 過を悔ゆること

光駕 [名] 他の訪ひ來ること

光輝 [名] ひかりかがやく

光被 [名] 威光の遠く及ぶ

皇威 [名] 天皇の御威光

皇基 [名] 朝廷のもとぬ

惶懼 [名] おそるること

荒蕪 [名] あればつること

廣義 [名] 廣き意義

廣坐 [名] 大勢居並ぶこと

官規 [名] 官府の規律

官途 [名] 官に仕ふる道

官費 [名] 政府より出す入

官暇 [名] 役の暇

過用 [名] 用ひすぎること

過眼 [名] 眼にふるること

禍害 [名] わざわひ

禍心 [名] 惡心に同じ

禍福 [名] わざはひとさい

禍根 [名] 禍のもと

禍亂 [名] 世のみだれ

禍災 [名] 災難に同じ

花信 [名] 花の開きたるを

瓦解 [名] 瓦の如く解くる

瓦裂 [名] 瓦の如く裂るる

瓦合 [名] よりあひせい

化合 [名] 元素と元素と混
のとなること
化成 [名] 形を變へて他物
のとなること
化生 [名] うまれかほること
化誘 [名] 教へ導くこと
化育 [名] 善きに導くこと
化膿 [名] 腫物に膿を持つ
畫才 [名] 畫をかく才
畫餅 [名] 事の何の用にも
立ぬこと
訛言 [名] なまりことば
訛聞 [名] 聞きあやまり

訛傳 [名] 訛りたる傳説
科目 [名] 學問の品わけ
課役 [名] 人夫に出る役目
課程 [名] 務むべき事の程
課業 [名] しごとさだめ
課求 [名] わりつけをと
たつること
果報 [名] しあはせむくひ
果斷 [名] 決心のはやきと
果決(クワケツ)
果敢 [名] 事をおしきりて
行ふこと

華胄 [名] 貴き家すぢ
華奢 [名] 花やかに風流な
華押 [名] カキハンに同じ
華麗 [名] 花やかに美しき
華説 [名] 根なしごと
欸語 [名] うちとけて語る
寰宇 [名] あめが下。世の
乖違 [名] たがひそむこと
患部 [名] 身體の病ある部
關知 [名] あづかり知るこ

観破 [名] みぬくこと

環視 [名] とりまきて見る

環堵 [名] 小き家

潤歩 [名] 股を張りて歩む

臥内 [名] ふしど。ねとこ

寡聞 [名] 物事を聞き知る

寡人 [他] 王侯の他人に對して己が名に代ふ謙稱

活氣 [名] 勢あること

活路 [名] 助かるべき路

猾智 [名] わるがしこきこ

軍功 [名] いくさのいさを

軍書 [名] 戦陣の事を記せる書物

軍勢 [名] 一群のつばもの

軍籍 [名] 兵役の義務あるもの

軍營 [名] 軍隊の陣取して居るところ。陣(カンゼン)

軍監 [名] 軍めつけ

軍屬 [名] 陸海軍に出入する文官

軍隊 [名] 一群にまとまれる軍兵

軍團 [名] 軍兵の一群にまとまれるもの

軍政 [名] 軍事に関する政

草臥 [名] 歩き又は働きなどして弱ること

被下 [他] 賜はる

吳吳 [副] いくへにも。かへすかへすも

晩方 [名] 日の暮れんとす頃

暮向 [名] 年の暮に向ふ頃

靴擦 [名] 靴ずれでできた傷

屈撓 [名] まげたむること

屈伏 [名] 力屈して従ふこと

屈託 [名] その事をのみ氣にかけてうれふ

屈折 [名] 折れまがること

軍談 [名] 戦陣に係りたる話

軍配 [名] 戦争の指圖。いくさのかけひき

軍法 [名] いくさの方法

軍律 [名] 軍人に係る法律

軍門 [名] 軍營の門

軍港 [名] 軍用のみなと

軍代 [名] 陣代に同じ

軍役 [名] 軍ある時に宛てらるる課役

軍用 [名] 軍ある時に用ふるもの

軍旅 [名] いくさ

屈伸 [名] のぶとちぢむと

鞍替 [名] 藝妓娼妓の場所を轉ずること

鞍擦 [名] 馬の鞍にすれてきたる傷

闇暗 [名] 暗きやみ

君恩 [名] 君のめぐみ

君側 [名] 君のそば

君命 [名] 君のおほせ

君前 [名] 君の前

軍學 [名] 兵學に同じ

軍樂 [名] 軍隊に用ふる音楽

軍令 [名] 軍隊に出す號令

軍制 [名] 軍のさだめ

軍裝 [名] 軍のよそほひ

軍需 [名] 軍の費用

群居 [名] むらがりて居ること

群書 [名] 多くの書物。群籍(アンセキ)

群行 [名] 一群になりて行くこと

群臣 [名] 多くの臣下

群民 [名] 多くの民

群雄 [名] あまたの英雄

群儒 [名] 多くの儒者

群盲 [名] 多くの盲人

群賢 [名] あまたの賢人

群黨 [名] よりあひなかま

群内 [名] 一群の内

勳功 [名] てがら。勳績(クンセキ)

勳等 [名] 勳勞あるものを賞するため設

勳勞 [名] てがらとほれを

訓導 [名] 教へ導くと小學校の教員の資格

訓點 [名] 漢文につく返點ふりかななど

訓讀 [名] 漢文に國語をあてて讀むこと

訓蒙 [名] 童蒙を教へること

訓令 [名] 行政官より發する命令の一種

訓戒 [名] をしへ戒むこと

訓電 [名] 官府より電信に發する命令

訓練 [名] をしへ練ること

訓譯 [名] 外國の語に國語をあて譯すること

薰風 [名] よきかほりの風

薰陶 [名] よき方へ教へ導くこと

薰香 [名] よきにはひ

薰染 [名] よき教に染むこと

薰墨 [名] 他人の手紙を敬ひ呼ぶにいふ語

薰蕕 [名] 善と惡と。正と邪と

燠製 [名] いぶして製すること

空間 [名] 上下左右前後の廣き場所の稱

空所 [名] 何もなき所

空說 [名] れなしこと

空虛 [名] 何もなきこと

空談 [名] 無用の話

空腹 [名] 腹のへること

空漠 [名] 何もなくてひろびろとせること

空論 [名] よりどこなき議論

空竭 [名] 物の盡きはつること

空想 [名] むなししく思ふこと

空隙 [名] 物と物とのすきま

寓居 [名] かりすまぬ

寓言 [名] 假に事を設けて作りたる話

寓目 [名] 目に觸るること

偶數 [名] 二にて整除し得べき數

區劃 [名] しきり。さかひ

暈取 [名] 彩色にて際を立つ

紵縫 [名] 縫目を表にださぬ様に縫ふこと

草分 [名] 草茂き所を分け行くこと。すべ

草刈 [名] 草刈ること

草取 [名] 草を取り除くこと

草葺 [名] 茅又藁などにてふきたること

種種 [名] いろいろ。さまざま

釘締 [名] 合せたる者の離れぬ様に釘にて打ちたる釘付(クギツケ)

公卿 [名] 殿上人

苦行 [名] 佛法修行のつらき行を勤むること

組上 [名] 組みて成る

組合 [名] 仲間になること

組入 [名] 彼と此との中間に入る

組打 [名] 敵と引組みて勝負を争ふこと

組敷 [名] 敵と引組みて下に敷く

組立 [名] 組みて成る。成りたつ

汲出 [名] 汲みて出す

汲取 [名] 汲みて器などに移しとる。汲分

櫛卷 [名] 女の髪を櫛に結びおくもの

串刺 (名) 物を串に刺し貫くこと

闡取 (名) くじを引きて事を定むること

具状 (名) 委しく事情を記して官につぐ

苦情 (名) 難義なわけがら

食込 (自) 商賣などに資本漸く減ず。食入

食料 (名) くひもの

食切 (他) 齒にて噛み切る

食頃 (名) 食ふによき頃

食過 (名) 分量を過して多く食ふ

食初 (名) 小兒の生れて初めて食に付く祝

食付 (自) 密着して離れず

食詰 (自) 糊口の道がなく

食逃 (名) 物を食ふて代を拂はず逃ぐる

食分 (他) 二つ食ひて味を辨へ知る

喰止 (他) ふせぎとむ

雲脚 (名) 雨雲の垂れたる

雲形 (名) 物の模様などに雲のたなびける

雲切 (名) 雲の絶間

雲行 (名) 雲の行くさま

曲事 (名) 道にはづれたる

倉敷 (名) 倉に荷物を入れ置く時の損料

口真似 (名) 人の物言をまねて言ふ

嗽 (自) 水にて口の中を濯ぶ

覆 (他) 倒にたふす

梳 (他) 櫛にて髪をけづる

黒烟 (名) 黒く見ゆるけぶ

黒光 (名) 黒く光ること

國語 (名) ところの言葉

國訛 (名) 國國の言葉のなまり

國拂 (名) 罪ありて其國より追放せらるる

口當 (名) 口に適當したる味

口移 (名) 物を己が口に含みて他の口へやる

口固 (名) 口止に同じ

口口 (副) 一同揃つて言ふこと

口車 (名) 言葉の言廻しにて人を誘ふこと

口答 (名) 目上の者に言葉返してはりあ

口籠 (自) 音聲口の中に籠りて物言ひ分明

口號 (名) 何となく物言ふこと

口傳 (名) クデンに同じ

口直 (名) 服薬したる後に菓子杯を食ふ

口走 (自) 言ふまじきことを思はず言ふ

口塞 (名) 口止に同じ

口任 (名) 口にまかせて物言ふこと

鯨取 (名) 海上に出でて鯨を捕ふること

繰合 (他) 用事をかれこれとやりくり

繰出 (他) 次第に出す

繰返 (他) 同じ事を度々仕直す

繰廻 (他) 次第次第にかへて用ふ

繰戻 (他) 順にもとの方へ戻す

車錢 (名) 車を雇ふ賃

車裂 (名) 支那古代の刑名

車止 (名) 車の通行を止むること

願立 (名) 神佛に誓をたてて祈り願ふこと

罐詰 (名) 食用を永く貯ふる爲に詰めたるもの

莞爾 (副) 笑を含むさまに

頑張 (自) いちばる

外援 (名) 外よりのたすけ

外界 (名) 心理學語、心の外の凡ての事物

外寇 (名) 外國より攻め來る

外來 [名] 外より来ること
 外交 [名] 外國の交際
 外感 [名] 心理學の語、神經の外より来る感覺の總稱
 外形 [名] 外にあらはれたる形
 外見 [名] 外のみえ
 外信 [名] 外國より来る音信
 外電 [名] 外國より来る電報
 外船 [名] 外國の船
 外物 [名] 外のもの
 外聞 [名] 聲聞

外面 [名] そとがは。外方(グワイハサ)
 外用 [名] 外部に用ふる
 外貌 [名] そと見え
 外難 [名] 外より起る難儀
 外賓 [名] 外國より来る客
 外憂 [名] 父方の親族にかかるとる思慮
 外任 [名] 外の事にあたる
 外勤 [名] そとのつとめ
 外藩 [名] とざま大名
 外征 [名] 外國を征伐すること

外兵 [名] 城外の兵。外國の兵
 外間 [名] ほかほか
 外敵 [名] 外國の敵
 會合 [名] よりあひ
 會計 [名] 金錢の出入などを計ること
 會戰 [名] 合戦に同じ
 會單 [名] 爲替手形
 會見 [名] 相會して見合ふこと
 會飲 [名] 相會して酒を飲むこと
 會讀 [名] 數人集て同じ書物を讀かはすこと

會約 [名] 會の規約
 會同 [名] よりあふこと
 會談 [名] より合ひて談話すること
 懷胎 [名] はらむこと。懷妊(グワイニン)
 懷舊 [名] 昔ありしを思ひ出す
 廻國 [名] 諸國を廻歷すること
 廻漕 [名] 船にて物を運送すること
 廻轉 [名] めぐること
 廻禮 [名] 家々を廻りて禮をする
 廻達 [名] 順次に送りつくること

回想 [名] 思ひまはすこと
 回收 [名] 奪はれたるものを取り返す
 回答 [名] 返事に同じ。回報(グワイハフ)
 回歷 [名] 年の改ること
 回祿 [名] 火事にて焼けること
 回天 [名] 世のめぐり變ること
 回蹕 [名] 還幸に同じ。回鑾(グワイラン)
 回旋 [名] めぐること
 回遊 [名] めぐりあふこと
 回航 [名] 船の海外より歸り來ること

回牒 [名] 官府の回答文
 快晴 [名] 空のよく晴れたること
 快哉 [名] こころよきこと
 快報 [名] 快き知らせ
 快走 [名] はやく走ること
 快方 [名] 病氣のよき方に向ふこと
 快談 [名] 心よく話すこと
 快舉 [名] こころよきくはだて
 快辯 [名] はやく辯舌
 快樂 [名] 心よき樂しきこと

快行くわいかう [名] はやく行くこと

快速くわいそく [名] はやくきこと

快戦くわいせん [名] 心よく戦ふ

快適くわいてき [名] 心地よきこと

拐帶くわいたい [名] もちにげ

怪談くわいだん [名] げげものばなし

怪物くわいぶつ [名] あやしきもの

怪聞くわいぶん [名] あやしき評判

怪説くわいせつ [名] あやしき説

怪腕くわいわん [名] あやしき腕前

怪誕くわいだん [名] 説話のあやしきこと

恢炙くわいしや [名] 評判の高きこと

恢復くわいふく [名] もとへもどすこと

恢弘くわいこう [名] 心の大なること

乖戾くわいれい [名] そむき戻ること

談諧くわいかい [名] おどげばなし

灰燼くわいじん [名] もえさし

灰滅くわいめつ [名] ほろぶること

潰崩くわいほう [名] くずるること

潰決くわいけつ [名] 堤などのくづる

潰走くわいそう [名] くづれて走ること

潰爛くわいらん [名] くずれただるる

潰亂くわいらん [名] くづれみだるる

蒼蔚くわいすう [名] 草木の茂れること

蒼萃くわいすう [名] あつまること

悔恨くわいこん [名] くひうらむこと

悔責くわいせき [名] 己が過をくひ責むること

晦冥くわいめい [名] 雨風にて日光のくらくなること

晦蒙くわいもう [名] くらきこと

光臨くわうりん [名] 光駕に同じ

光景くわうけい [名] ありさま。けしき

光彩くわうさい [名] 鮮かな光

光澤くわうたく [名] ひかりつや

光耀くわうえう [名] 光りかがやくこと

光榮くわうえい [名] よきしあはせ

光宅くわうたく [名] 世をしろしめすこと

光華くわうくわ [名] うつくしきひかり

皇居くわうきよ [名] 天皇の御住居

皇恩くわうおん [名] 天皇の御恩

皇學くわうがく [名] 國學に同じ

皇室くわうしつ [名] 天皇の御家

皇國くわうこく [名] 日本國の稱

皇宗くわうそう [名] 天皇の世世の御祖

皇業くわうげふ [名] 天皇の天下を經營し給ふ御業

皇族くわうぞく [名] 天皇の御一族

皇統くわうとう [名] 天皇の御血統

皇典くわうてん [名] 皇國の書

皇靈くわうれい [名] 代代の天皇のみたま

皇駭くわうがい [名] 恐れ驚くこと

皇運くわううん [名] 天皇の御運

皇考くわうかう [名] 世を去り給ひし天皇の御父君

皇天くわうてん [名] 大きな天

皇德くわうとく [名] 天皇の御徳

皇算くわうざん [名] 天皇の御年齢

惶遽くわうそん [名] おそれてあはつること

廣言くわうげん [名] 憚るをなく口に任せて物言ふこと

廣告くわうこく [名] 廣く世上に告げ知らせること

廣大くわうだい [名] 廣く大なること

廣遠くわうえん [名] 廣く遠きこと

廣袤くわうぼう [名] ひろさ

黄昏くわうこん [名] 夕方

黄泉くわうせん [名] よみぢ

黄白くわうはく [名] 金錢

宏業くわうげふ [名] 宏大な業

宏大くわうだい [名] ひろく大なるこ

宏博くわうはく [名] ひろきこと

宏濟くわうさい [名] ひろく世を濟ふ

宏麗くわうらい [名] 甚だうるはしき

宏才くわうさい [名] 大なる才

宏遠くわうえん [名] 志の遠大なるこ

宏壯くわうさう [名] 立派なること

曠日くわうじつ [名] 空しく日を送る

曠世くわうせい [名] 世間に稀なるこ

荒鴻くわうこう [名] 未開の世

荒廢くわうはい [名] あれすたること

荒瘠くわうせき [名] やせたる地

荒絶くわうぜつ [名] 遠くかけへだた

荒唐くわうたう [名] しまりなきこと

荒淫くわういん [名] 女色耽ること

荒耽くわうたん [名] 酒色にふけるこ

活計くわつけい [名] くりすぎ。すぎ

活躍くわつやく [名] いきいきとして

活劇くわつげき [名] いきてはたらく

活眼くわつがん [名] 敏活に物を見分

活用くわつよう [名] 活かして使ふこ

活潑くわつぱつ [名] 勢よきこと

活物くわつぶつ [名] 生きて動く物

活動くわつどう [名] いきいきとして

潤達くわつたつ [名] 心の中廣くて小

潤遠くわつえん [名] まはりどほきこ

刮目くわつめく [名] 目をこすりて見

官有くわんいう [名] 政府の所有

官海くわんかい [名] 政府の事務の弘

官等くわんとう [名] 官吏の等級。官

官許くわんきょ [名] 政府のゆるし

官權くわんけん [名] 政府の權勢

官營くわんえい [名] 官府にて營むこ

官署くわんしよ [名] 役所

官制くわんせい [名] 政府のさだめ

官設くわんせつ [名] 政府にて設置す

官選くわんせん [名] 政府にて選ぶこ

官房くわんぼう [名] 大臣の事務を取

官線くわんせん [名] 政府にて設けた

官版くわんばん [名] 政府にて發行す

官服くわんふく [名] 官吏の制服

官幣くわんぺい [名] 官府より全國の

官邊くわんぺん [名] 神祉格式により

官沒くわんめつ [名] 政府に取り上る

官能くわんのう [名] はたらき

勧誘くわんいゆう [名] すすめ誘ふこと

勸解くわんかい [名] 裁判所にて原告

勸學くわんがく [名] 學問をすすめは

勸告くわんこく [名] 理由を告げて勸

勸進くわんじん [名] 勧めまゐらすこ

勸説くわんせつ [名] すすめ説きつく

勸戒くわんかい [名] すすめ戒ること

觀經くわんきやう [名] 經を讀むこと

觀察くわんさつ [名] その容子を見て

觀測くわんそく [名] その容子を見て

觀法くわんぽう [名] 人相を見る法

観念 くわんねん (名) あきらめ。決意

勸業 くわんげふ (名) 農工商の業を勤むること

観覽 くわんげん (名) 見ること

観劇 くわんげき (名) 芝居を見ること

觀望 くわんぼう (名) 様子によりて去就を定めんとす

還幸 くわんかう (名) 天皇の外より還御(クワンギヨ)

還納 くわんなふ (名) 政府より受けたるものを返すこと

還曆 くわんれき (名) 六十一歳の稱。本卦回

還送 くわんそう (名) 返し送ること

還旋 くわんせん (名) めぐること

管轄 くわんかつ (名) 統べ治むること

管見 くわんけん (名) 管の沖より天を伺ふか如き狭き見識

管絃 くわんげん (名) 絲竹。音樂の一行はれこと

管守 くわんしゆ (名) 番人

管内 くわんない (名) 管轄する區域の内

元來 げんらい (副) もとより

關係 くわんけい (名) かりあひ

關防 くわんぼう (名) 關所を設けて敵を防ぐこと

關聯 くわんれん (名) かりあふこと

關鍵 くわんけん (名) 文法上の語、文章の締める所

關涉 くわんせふ (名) かりあふこと

換刑 くわんけい (名) 罰金を納むること能はざるもの禁錮等に換へて處罰する

換易 くわんえき (名) かふること

換用 くわんよう (名) とりかへて用ふること

換言 くわんげん (名) ことばを易へていふこと

換算 くわんさん (名) 換へて計算すること

歡迎 くわんげい (名) よろこび迎ふること

歡心 くわんしん (名) うれしく思ふこと

歡待 くわんたい (名) 深切に取り扱ふこと

歡樂 くわんらく (名) 喜び楽しむこと

歡聲 くわんせい (名) 喜ぶ聲

歡顏 くわんげん (名) うれしき顔

歡醉 くわんすい (名) 心地よく酔ふこと

歡容 くわんよう (名) よろこぶかたち

完結 くわんけつ (名) 全く終ること

完全 くわんぜん (名) 全きこと

完整 くわんせい (名) 全く整ふこと

完成 くわんせい (名) 全く成就すること

完濟 くわんさい (名) 残らず濟ますこと

寬仁 くわんじん (名) 寛大にて仁心あること

寬恕 くわんじよ (名) 心ゆるやかに人を宥(クワンイウ)すること

寬大 くわんだい (名) 心の廣くゆるやかなること

寬典 くわんでん (名) ゆるやかなること

寬厚 くわんこう (名) 心ゆるやかに深切なること

寬容 くわんよう (名) 心ゆるやかに人を容れて用ふること

患所 くわんじよ (名) 病源のあるところ

患憂 くわんいう (名) なやむこと

慣手 くわんじゆ (名) なれて巧なること

慣用 くわんよう (名) なれて用ふること

慣例 くわんれい (名) はしきたり。なら

慣習 くわんしゆ (名) 習慣に同じ

貫屬 くわんぞく (名) 戸籍のある土地

貫徹 くわんてつ (名) 貫き通すこと(クワンツツ)

貫穿 くわんせん (名) つらぬくこと

卷頭 くわんとう (名) 卷物書物などの始めの稱。卷首(クワンシユ)

卷帙 くわんぢつ (名) 書物。卷册(クワンサツ)

卷舒 くわんじゆ (名) 巻くと舒ぶること

卷藏 くわんざう (名) 己が才智をかくし晦すこと

願書 くわんじゆ (名) 願のすぢを記したる文書

願望 くわんぼう (名) れがひのぞみ

願力ぐわんりき [名] 立願して其目的を貫んとすること
 灌溉くわんがい [名] 水をそそぐこと
 灌莽くわんまう [名] 草木の茂ること
 冠絶くわんぜつ [名] すぐれてあること
 緩怠くわんたい [名] おこたがり
 緩慢くわんまん [名] てぬるきこと
 緩舒くわんじよ [名] ゆるやかなること
 玩物ぐわんぶつ [名] 玩具に同じ
 玩弄ぐわんろう [名] もてあそぶこと。玩好(ゲワンカ)
 玩索ぐわんさく [名] もてあそび索むること

玩閱ぐわんえん [名] もてあそび見ること
 玩讀ぐわんだく [名] もてあそび讀むこと
 環海くわんかい [名] 海の四方を圍めること
 環衛くわんゑい [名] その周りにつき添ひて警護すること。環擁(クワンヨウ)
 環拜くわんばい [名] その周りを圍みて拜すること
 頑鈍ぐわんどん [名] かなたくなること
 頑陋ぐわんろう [名] やかたくなにいてい
 頑冥ぐわんめい [名] かなたくなにて物事の理の分らぬ
 煥發くわんぱつ [名] かがやきあらはるること
 鶴首くわくしゆ [名] 首をのばすに似

鶴唳くわくれい [名] 鶴のなきごゑ
 火力くわりよく [名] 火の力
 火光くわくわう [名] 火の光り
 火中くわちゆう [名] 火の中
 過食くわしよく [名] 食ひ過ぐるること
 過量くわりやう [名] 量のすぎたること
 過剩くわじやう [名] 勘定して後の残り
 過賞くわしやう [名] 分に超えて賞むること
 畫策くわさく [名] 計をめぐらすこと。工夫すること
 臥病ぐわびやう [名] 病氣にて臥すこと

臥床ぐわしやう [名] ふしど。臥躰(ゲ)
 欸待くわんだい [名] よくあつかふこと
 欸接くわんせつ [名] よくつきあふこと
 欸通くわんつう [名] よしみを通すること
 魁首くわいしゆ [名] かしら
 獲得くわくどく [名] 得ること
 渦中くわちゆう [名] うづの中
 攫取くわくしゆ [名] つかみとること
 乖戾くわいれい [名] そむきもどること
 煩縟くだんじゆ [名] 繁多にして厭し

崩書くつしがき [名] 漢字を草書に書くこと
 屈曲くつきよく [名] 折れ曲ること
 屈從くつじゆう [名] わが意をおさへてつき従ふこと
 屈辱くつじよく [名] はづかしめ
 屈竟くつせいやう [名] つまる處。極めて勝れたること
 暮向くらしむき [名] 生活の有様。暮方(クラシカタ)
 藏開くらひらき [名] 新年の吉日を選ひて藏を開くこと
 藏廻くらまはり [名] 古道具などを買ひ歩くもの
 軍中ぐんちゆう [名] いくさのなか
 軍略ぐんりやく [名] 軍の方法

郡會ぐんくわい [名] 一郡内の事に關する會議
 呶呶くたし [形] 言葉煩はし
 群衆ぐんしゆう [名] 群れ集りたる人
 空空くうくう [副] 心なしに
 偶中ぐうちゆう [名] 偶然と中ること
 空中くうちゆう [名] そらのうち
 腐縁くされえん [名] 長からぬ縁
 組頭ぐみがしら [名] 一組の長
 酌交しやくかう [他] 互に酒盃をとりやりす
 食倒くひたう [名] 徒食すること
 食潰くひつぶす [他] かせがすに空く食ふ

食外 くひはづ [自] 食ふべき時を失ふ

切齒 くひしぼる [他] 齒と齒とを強くかみしむ

緩急 くわんきふ [名] 急變に同じ

完了 くわんれう [名] をはること

口利口 くちりくち [名] 物言の巧なること

口賢 くちかしこし [形] 物言ひ振かしこと

口穢 くちざたなし [形] あしさまに言なしてあり

口喧 くちやかまし [形] こと多くて煩し

口慰 くちなぐさみ [名] 食時の間に菓子などを食ふこと

車懸 くるまがかり [名] 兵法に先手二番分ちて續きて攻むること

光明 くわうみやう [名] ひかり

荒涼 くわうりやう [名] 物すさまじきこと

擴張 くわくちやう [名] おしひろむること

擴充 くわくじゆう [名] おしひろめみたすこと

觀賞 くわんしやう [名] 見物してほむること

觀光 くわんくわう [名] わが國威を外國に示すこと

勸賞 くわんしやう [名] 賞めて勵ますこと

勸請 くわんじやう [名] 遠地の神佛を移して安置すること

勸懲 くわんちやう [名] 勸善懲惡の略

寛濶 くわんくわつ [名] ゆるく廣きこと

願解 ぐわんげ [名] 神佛に祈願して事の叶ひたる時

豁然 くわつせん [副] ぱれぱれと。さつぱりと

鑠鑠 くわくしやく [副] 年老ひてなほ壯健なること

煌煌 くわうくわう [副] きらきらと

緩緩 くわんくわん [副] ゆるゆると

廣廣 くわうくわう [副] ひろびろと

廣漠 くわうばく [副] ひろびろと

恍惚 くわうこつ [副] ぼんやりと。うつとりと

外觀 ぐわいくわん [名] 外見に同じ

外患 ぐわいぐわん [名] 外部より來る心配

灌頂 くわんちやう [名] 墓石に水を灌くこと

灌腸 くわんちやう [名] 大便の通利を促す薬水を注入すること

灌注 くわんちゆう [名] 灌くこと

環状 くわんじやう [名] わの形

頑強 ぐわんきやう [名] かたくなに強きこと

雲霞 くもかすみ [副] 人の見えなくなるまで逃げ行くさま

苦勞性 くらうしやう [名] 些細の事までする性質

巧口者 くちこうしや [名] 物言ひぶりに上手(クチャヤサ)

外稱 ぐわいしやう [名] 文法上の語、こき代名詞の表す事物が局外者たることを示すもの

外出 ぐわいしゆつ [名] 外へ出ること

懷中 くわいちゆう [名] ふところ

回狀 くわいじやう [名] 名宛を連署して順々に廻しやる書狀。回章(クワイシヤウ)

快闊 くわいくわつ [名] 快く覺ゆること

會食 くわいしよく [名] 多人數集りて食事すること

會衆 くわいしゆう [名] 會合の人々

怪力 くわいりきよく [名] 非常に強き力

皇張 くわうちやう [名] 大きくするとひろぐること

口入人 くちいれにん [名] 奉公人の世を業とする人

口喧嘩 くちげんくわ [名] 言ひ争ひをなすこと

口返答 くちへんたふ [名] 口答へに同じ

活字拾 くわつじ [名] 活字を拾ふことを業とする

果報者 くわはうもの [名] しあはせもの

頑是無 ぐわんぜなし [形] 幼くて未だ分別なし

懷舊談 くわいきふだん [名] 懷舊の談話

快速力 くわいそくりきよく [名] 最も速き力

過半数 くわはんすう [名] 總數の半ばすぎ

過失罪 [名] 過失にて犯したる罪

觀覽人 [名] 見物人に同

官有物 [名] 政府の所有物

勸善懲惡 [句] 善をすすむ。惡をこらしむ

鰥寡孤獨 [名] やもめ。みなし。獨りもの。寄へなき者

空前絶後 [句] 前にも後にもなきこと

空前無比 [句] 古來他に比ぶべきものなきこと

空米相場 [名] 正米なを相場を立てて賣買すること

【や】
屋 [接] 屋號を示すに用ふる語

宿 [名] 住宅

遣 [名] 行かす。あたふ

行 [他] 爲す。行ふ。

破 [名] 破るること

奴 [名] 人を罵りて呼ぶ語

止 [他] とどむ。絶つ

病 [自] 病にかかると熱す

燒 [自] 火つき燃ゆ。炙りて

役 [名] 公の用に使はるること

厄 [名] わざわひ

約 [名] ちかひ。契約。つつまり

譯 [名] 漢字の訓

稍 [副] 次第に。だんだん

闇 [名] 暗き夜

瘦 [自] 身細くなる。地味良からず

八百 [名] 數の甚だきこと

野暮 [名] 世情に通ぜぬこと

八十 [數] 多き物事をいふ語

揶揄 [名] からかふこと

野鄙 [名] いやしきこと

宿 [他] 宿さしむ。子をばらむ

雇 [他] 賃錢を與へて人を使ふ

族 [名] 一家の親族

臆 [副] すなはち。そのままに。程なく。まもなく

窶 [自] 瘦せ衰ふ

窶 [他] 姿を變へてやつやつしくす

漸 [副] 辛うじて。やうやうのこと

扼 [他] おさふ。とりひしぐ

疚 [形] ナヤマシに同じ

破 [他] くだく。こぼつ。みだす。敵をまかす

優 [形] みやびなり。風流なり

休 [自] 息ふ。はたらきをやむ。臥して寝ぬ

易 [形] 爲すに難からず

易 [接] ややもすればそれに傾がちなる意を示す

安 [形] 危からず。煩なし

夜陰 [名] 夜。夜分

夜學 [名] 夜學問をすること

夜半 [名] よなか

夜來 [名] 數夜のこのかた

夜景 [名] 夜の景色

夜分 [名] よる。よなか

夜行 [名] よあるき。夜のたび

夜戰 [名] 夜中の戰

夜前 [名] 昨日の宵

夜業 [名] 夜仕事をすること

夜襲 [名] 夜に乗じて敵軍を襲ふこと

冶郎 [名] やさおとこ

矢張やはり〔副〕もとの儘にて。そのまゝにて。
 矢音やおと〔名〕矢の飛び行く音
 矢種やだね〔名〕箠に盛りてある
 矢繼やつぎ〔名〕矢を弦にはめか
 矢並やなみ〔名〕矢のならび。弓
 矢頃やころ〔名〕矢を放つきべき
 矢創やさし〔名〕矢にて射られた
 野蠻やばん〔名〕開化せぬこと
 野人やじん〔名〕田舎の人。禮節
 野心やしん〔名〕ふたごころ

野生やせい〔名〕動植物の山野に
 野戦やせん〔名〕己の身の謙稱。
 野戰やせん〔名〕野拙(ヤセツ)の
 遣場やば〔名〕平場の戦
 遣手やて〔名〕やりすつる處
 家數やかず〔名〕家の數
 家鳴やなり〔名〕家の震ひて鳴り
 家内やうち〔名〕家の内
 屋號やがう〔名〕商人の家の標と
 屋敷やしき〔名〕宅を構へたる一
 區地

家主やぬし〔名〕一家の主人
 屋形やがた〔名〕船の上にかの形
 役目やくめ〔名〕役として務むる
 役儀やくぎ〔名〕やくめ。つとめ
 無益やくざ〔名〕粗にして役にた
 藥價やくか〔名〕醫藥の代價
 藥餌やくじ〔名〕藥に同じ
 譯語やくご〔名〕翻譯の言葉
 山家やまが〔名〕山中にある家
 山氣やまぎ〔名〕山師の心

山子やまこ〔名〕山師の心ある人
 山手やまて〔名〕山に近き地方
 山邊やまべ〔名〕山のほとり
 山路やまぢ〔名〕ヤマミチに同じ
 火傷やけど〔名〕膚の火又は湯に
 疼痛やめる〔自〕惱み痛む
 闇路やみぢ〔名〕暗夜の行路
 鰥夫やもめ〔名〕妻なき男
 寡婦やしめ〔名〕夫なき妻
 瘠地やせぢ〔名〕地味の良からぬ

安利やすり〔名〕利息の安きこと
 安價やすね〔名〕やすき値段
 和やはらぐ〔自〕穩になる
 漫やたらに〔副〕みだりに。むやみに
 僕やつがれ〔代〕わが身の謙稱
 漸やがや〔副〕次第に。だんだんに
 養やしなふ〔他〕はぐくむ。そだつ
 休やすまる〔自〕おちつく
 安やすんず〔他〕やすくなす。おちつ
 宿貸やどかし〔名〕宿を貸すこと

宿替やどかへ〔名〕住處をかふるこ
 宿借やどかり〔名〕家を借りて住む
 宿錢やどせん〔名〕宿屋に拂ふ錢
 宿主やどぬし〔名〕宿のあるじ
 宿引やどひき〔名〕宿屋の手代など
 宿札やどふだ〔名〕宿の外に出でて旅
 宿札やどふだ〔名〕宿のしるしに掲
 宿木やどりぎ〔名〕木の岐などに他
 宿割やどわり〔名〕宿るべき人をそ
 夜中やちゆう〔名〕よなか
 夜會やかい〔名〕夜催す會

夜行 [名] よあるき

夜食 [名] 夕飯のこと

夜色 [名] 夜の景色

遣合 [自] 互に争ふ

遣水 [名] 庭の面などに流しやる水

遣繰 [他] 種々に振替て用ふ

槍玉 [名] 槍の先にてつきあぐるること

喧擾 [形] さわがし。かまびすし

彌猛 [副] 勇みに勇みて

八割 [名] 人體などを寸断すること

約束 [名] ちぎり。とりきめ。物事のしかなりゆくべき定まり

約諾 [名] 承諾して約束すること

約言 [名] つづめていふこと

厄介 [名] 他の厄難を助くる。面倒なる

厄難 [名] わざはひ

厄歳 [名] 饑饉のある年

藥劑 [名] 藥の品

藥種 [名] 藥の材料となるもの

藥方 [名] 藥の材料となるもの

藥用 [名] 藥として用ふる

藥禮 [名] 療治の禮金

役得 [名] 役目につきての得分

譯讀 [名] 翻譯して讀むこと

譯書 [名] 翻譯したる書物。譯本(ヤクホン)

譯解 [名] 翻譯に同じ

扼腕 [名] 腕を掴み抑ふる。と(慷慨する時)

山越 [名] 山を越して行く

山拔 [名] 山腹にある土石の時として崩れ落つること

山盛 [名] 器に堆く盛ること

山別 [名] 半分わけ

山出 [名] 田舎より始めて都會に來たる人

山響 [名] こだまに同じ

燒草 [名] 燃料となるもの

燒原 [名] 家屋敷などの焼けたる後の空地

燒討 [名] 城廓などに火をかけて攻伐つこと

燒接 [名] 陶器の碎けたるを釉にて焼けて接ぐこと

燒付 [名] 陶磁器に藥品にて模様を焼きつこと

燒疵 [名] 陶器に焼付の過にて出來たる疵

燒棄 [他] 火に焼きてすつ

闇討 [名] 闇夜に乗じて不意に人を撃つこと

休日 [名] 事業を休む

休字 [名] 文章中にあるもなきも意味にかかはらぬ文字

安物 [名] やすきもの

藪蛇 [名] 己より手を出して禍を求むるもの

家搜 [名] 恣に人の家に入り物を探すること

優形 [名] やさしき姿

矢叫 [名] 戦の初めに矢を射合ふ時に發する聲

病付 [自] 病氣になる

粉粧者 [名] なまめかし。くよそふ人

彌次馬 [名] 人の尻につまはるもの

柔副 [副] 穩かに

吝副 [副] 物惜みの心深し

雇賃 [名] 雇人に報ゆる賃錢

雇切 [名] 我一手にて雇ふこと。絶えず雇ふ

宿下 [名] 奴婢の主人の許しを得て暫く己が家又は請宿にかへること

遣放 [名] 取締りなきこと

遣込 [他] 言ひ破る

槍衾 [名] 槍を多く並ぶること

繼 [接] なさぬ中を假に定めたるもの意
迄 [辭] 物事の至り及ぶを示すに用ふる語
増 [名] 数の加はること。まさること
舞 [名] 音楽に合せて手足を動し種種の姿態をなすもの
交 [他] 加へ合す
眞似 [他] まれをなす
眞字 [名] 漢字の楷書
忠實 [名] まこと。まじめ
勤勉 [名] 怠らず深切に働くこと
健全 [名] 身體手足健全なること

麻痺 [名] しびること
老成 [自] 大人びて見ゆ
參 [自] 貴き所に參上す
圓 [形] 四面に角なし。輪の如し
丸 [他] 圓くなす
轉 [自] 圓く廻り行く。ころ
廻 [他] めぐる。廻り行く。ころ
惑 [自] まよふ。當惑す
纏 [自] まきつく。からまる
申 [他] 告げまつる

罷 [自] 退き去る
任 [他] 他のするままになす
曲 [自] ゆがむ。眞直ならず。理にはづる
紛 [他] まぜ亂す。似さしむ
迷 [自] 思ひ亂る。まよふ。まぎる。みだる
跨 [他] 兩脚を張りて物を股の間になす
斑 [名] 種種の色の交りたるもの
稀 [副] 珍らしく。たまさかに
祭 [他] 神靈を慰む。神として鎮め崇む
奉 [接] 動詞につけて敬意を示すに用ふ

貧 [形] 生活の道に物足らずあり。金錢財産に乏しきこと
招 [他] 手を俯仰して人を呼ぶ。書狀にて人を呼寄す
學 [他] ならふ。稽古
慢 [自] 自慢す。漫心す
設 [他] こしらふ。用意をなす
詣 [他] まゐる。參詣す
捲 [他] まき上ぐ
枉 [副] しひて。無理に
塗 [自] マミルの訛。濡れ汚る
眞 [名] いつはりならぬこと

實 [副] まことに。じつに
正 [副] ただしく。さしあた
優 [自] すぐれてあり
見 [自] 御目にかかる
交 [自] 入り合ふ。此かれ亂れ合ふ。雜(マザリ)
況 [副] なほさら。いふまでもなく
守 [他] 見詰めてゐる。あらせじと防ぐ
毎戸 [名] 家ごと
毎度 [副] たびたび。たび
毎夜 [名] よごと

味死 [名] 死を極る。漢文五書牌の終り
魔法 [名] あやしき術
前日 [名] まへの日。さき
正面 [名] 正しく向ふこと
圓居 [名] 衆人輪の如く居並ぶ
町家 [名] 商人の家
丸煮 [名] 總べて切らずに其儘にて煮る
丸寝 [名] 帯も解す晝の姿の儘にて寝る
眞西 [名] まことの西
眞顔 [名] まじめなる顔

眞赤 [名] 眞に赤きこと

眞裏 [名] まことの裏

眞上 [名] まことの上

眞際 [名] 事に臨むなり

眞北 [名] まことの北

眞下 [名] まことの下

眞晝 [名] ひるなか

眞向 [名] マムカロに同じ

魔界 [名] 悪魔の住めると

魔除 [名] 悪魔を除くること

不味 [形] 味旨からず。つ

末世 [名] 佛教の語、世の降りて衰たること

末派 [名] 末のわかれ

末路 [名] 人の行末

末技 [名] 茶の湯香道生花などの如きはかなき藝(學藝に對して)

末期 [名] 死にぎは

末座 [名] 末の座

末事 [名] 末の事

末利 [名] すこしの利益

末議 [名] 末の議論

末尾 [名] をはり。すふ

満座 [名] 一座の人々

満期 [名] 期限の満ちたること

慢氣 [名] 慢心に同じ

間板 [名] 愚鈍なる人

間取 [名] 家の室と室との位置

間口 [名] 家地面の前面の幅

間合 [名] へだたり。時のほど

間切 [名] 波風などを切りぬけて行く

間引 [名] 畑の蔬菜の芽出を置き、引抜きて疎になす

繼子 [名] なさぬ子

負目 [名] 負けんとする時

正目 [名] 眞直に揃ひて通りたる木め

摩擦 [名] こすること

磨滅 [名] 摺れてつぶるること

麻酔 [名] 麻薬を服し身體の知覺を失ふこと

枱目 [名] 枱にて量る高

眞面目 [名] 戯れならぬこと

疎 [副] すきま粗く

瞬 [名] めたたき

隨 [副] まかせて

幻 [名] 無き物の姿のあるが如くうつつに見ゆること

圓 [副] まろく

惑 [他] まよはすこと

纏 [自] 一つになる

纏 [自] からみつく

免 [自] 中らぬ様に避く

賄 [名] まかなふこと。用度物をあてむこと。食事をあてむこと

全 [副] すべて。悉く

瞞 [他] まぎらかす。ごまかす

實 [副] いたはりなく。かざりなく

正 [副] たしかに

咒 [名] 神佛の力をかりて禍を攘はんとする術

賄 [自] 賄をなす

益 [副] いよいよ

毎年 [名] (マイネン)に同じ

毎月 [名] (マイゲツ)に同じ

毎夕 [名] 毎夜に同じ

毎朝 [名] マイテウに同じ

毎日 [名] 日ごと

毎夕 [名] ゆふごと
毎晩 [名] 夜ごと
毎毎 [副] たびたび。しばしば
埋伏 [名] 埋もれかくること
埋没 [名] 埋もれて見えなくなる
埋葬 [名] 葬むること
埋骨 [名] 骸骨を埋むること
枚擧 [名] 一つ一つ数へ擧ぐる
枚數 [名] 紙などの如き薄きもの數
味爽 [名] 曉。よあけ。味旦(マイタン)

目映 [形] 光り烈しく輝き、正しく見難し
間合 [句] 時の用になふ
間遠 [形] あひだ遠し
間近 [形] 接近してあり
間違 [自] あやまる。(乖違)
間怠 [形] 手間取りて遅し
間尺 [名] 工匠の語、作事の寸法。間職(マシヨク)
前置 [名] 文章又は談話などにその結構等を概記すること
前方 [名] はじめ。以前。前書(マヘガキ) 前廉(マヘカド)

前貸 [名] 仕拂ふ金錢を其期限前に仕拂ふ
前借 [名] 金錢を先立ちて借りること
前世 [名] センセに同じ
前前 [名] 前に同じ
前側 [名] 前の方
前向 [名] まへをむくこと
交睫 [自] 暫し睡る
侍受 [他] 待ち居て出で迎ふ
待兼 [自] 待遠しく思ふ
待人 [名] 來るべき人を待ちてあること

待伏 [名] かくれて人を待設けて襲ふこと
待厭 [自] 待ちて厭く
町並 [名] 町家の並びたる状
町割 [名] 町の地割
町中 [名] 町の中
丸腰 [名] 腰に刀を帯びぬこと
丸紵 [名] 圓くくけて中に綿を入ること
丸焼 [名] 切らずに焼くこと
圓形 [名] まるき形
全勝 [名] 勝負事に初めよくり終りまで勝續くること

全敗 [名] 勝負事の負け續けること
全取 [名] 残らず取ること
全出 [名] あらばなること
全吞 [名] 噛み砕かずして呑み込むこと
全焼 [名] 家屋家財悉く火災に焼くこと
真盛 [名] まことの盛り
真面 [名] まむかひ
真暗 [名] 真に暗きこと
真先 [名] 最も先なること
真直 [名] 全く直きこと

真平 [副] ひとへに。ひら
真心 [名] まことの心。眞心。圓心
真結 [名] 紐を打違へて解けぬ様に結ぶこと
真中 [名] 正しき中程
真圓 [名] 正しく圓きこと
真南 [名] まことの南
真東 [名] まことの東
又請 [名] 請人の請人に立つこと
又貸 [名] 借りたる物を更に又他に貸すこと
又買 [名] 買ひたる人より又買ふこと

又借 (名) 物を借りたる人より又借りたる人
 又聞 (名) 聞きたる人より又聞くこと
 又候 (副) またふたたび
 又又 (接) なほまた。その上にも
 又者 (名) 家來の家來
 末書 (名) 註釋の書
 末輩 (名) 末のものども
 末勢 (名) 末の勢。勢の末
 末席 (名) 末座に同じ
 末代 (名) 死後の世世

末筆 (名) 筆の末 末毫(マツカウ)
 末流 (名) 末のなぐれ。末のわかれ
 末葉 (名) 末の子孫。末の紙
 末節 (名) すこしの節操
 抹殺 (名) すりけすこと。ぬりけすこと
 萬更 (副) よもや。それで
 萬筋 (名) 織物の縞柄の千筋より一層細きもの
 萬一 (副) ひよつと
 萬劫 (名) かぎりなき世
 萬年 (名) よろづの年

萬能 (名) よろづの藝能
 萬福 (名) 多くの福
 萬善 (名) よろづのよきこと
 萬寶 (名) よろづの寶
 滿悅 (名) 満足して喜ぶこと
 滿身 (名) からだいつばい
 滿員 (名) 人員の満ちふさがること
 滿足 (名) 満ち足れること。十分なること
 滿開 (名) 花の十分に開きたること
 滿腔 (名) ばらいつばい

滿艦 (名) ふれいつばい
 滿載 (名) 荷物を車一杯に積みのすること
 滿朝 (名) 朝廷残らず
 滿山 (名) その山のこらす
 滿水 (名) 水の充分に満つること
 滿腹 (名) ばらいつばい
 滿面 (名) 顔いつばい
 滿室 (名) 室いつばい
 滿園 (名) その一ばい
 滿堂 (名) 堂いつばい

滿庭 (名) 庭いつばい
 滿了 (名) みちをばること
 滿目 (名) 目いつばい
 慢性 (名) 病の全治せずしてながびくもの
 慢心 (名) 自から好しとして誇り驕ぶること
 蔓延 (名) はびこること
 漫漫 (副) 海などの廣く涯なき状に云ふ語
 漫筆 (名) 何くれとなく思ひ付たる儘記したる書物。漫録(マンロク)
 漫遊 (名) くらふら遊ぶこと
 漫滅 (名) 文字のばげきゆること

漫然 (副) みだりに。とりとめなく
 孟浪 (名) みだりなること
 幕間 (名) 芝居にて幕を引きたる間
 秣場 (名) 秣を刈りたる場所
 飯事 (名) 女兒の飯炊の事をして遊ぶこと
 負色 (名) 貢んとする光。貢口(マケグチ)
 眼深 (副) 眼の深くかくるる程に
 孫引 (名) 原書に引らす他章を再び引用すること
 正夢 (名) 實事と合たる夢
 卷狩 (名) 四方より取巻きて狩すること
 卷添 (名) 他の罪に連れて罪に陥ること

忠實 (自) まじめになる。豆やかに働らく。

満作 (名) 五穀のよくみのること

増水 (名) 川などに水量の多くなること

増刷 (名) 追摺に同じ

魔障 (名) 正道を妨ぐるもの

魔術 (名) 不思議なる術

丈夫 (名) 男子のたけくををしきもの

真似事 (名) 物事に似せてなすこと

政 (名) 國の國民を治め一般の公事を取りさばるること

先以 (副) マツに同じ

萬病 (名) 種々の病

満願 (名) 祈願をこめて其數の満ちたること

満場 (名) その場いつばい

瞞着 (名) 人の目をくらまし欺くこと

申上 (他) いひあぐ

申受 (他) 申して請ひ受くること

申立 (名) 官に向ひて申しあぐること

申次 (名) とりつぐこと

申分 (名) いひぶん。非難

前拂 (名) 貨物を受取らぬ先に代金を拂ふ

前廣 (副) かねてより。豫

前通 (名) 前以(マヘモツテ)。前の通り路

前祝 (名) その事の成るべきを豫想して酒など飲みて祝ふ

待明 (他) 待ち居て夜を明す

待暮 (他) 待ち居て日を暮す

待肴 (名) 客の來らぬ中に酒肴を設け置る

待遠 (形) 待つ間久し

待設 (他) 用意して待つ

待迎 (他) 待ち居て迎ふ

申分 (名) いひわけ

面前 (副) めのまへに

枕許 (名) 枕のあたり

負軍 (名) 戦に負くること

負惜 (名) まけたるにまげすと言ひ張ること

實實 (形) まめやかなり。深切にはたらく

雜返 (他) かきまはす

雜散 (形) まげて辨し難くなる

政所 (名) 政を行ふ所

滿天下 (名) 天下残らず

待焦 (自) こひしたいて待つ

區區 (副) さまざまに

丸裸 (名) 身一つの外何も持たぬこと

罷出 (自) まゐる。罷越(ハマカリコス)

曲路 (名) 曲りたる路

曲角 (名) 道の折れ曲る處

迷込 (自) 迷ひてはまる。惑(マケテキ)

又寫 (名) うつしたるを又うつすこと

又頼 (名) 頼まれたること。頼(マカセ)

又隣 (名) 隣の次のとなり

紛 (他) まぎれるやうになす

廻者 (名) 傍に敵の方へ送るもの

廻番 (名) 順に隨ひて勤めること

廻路 (名) 遠き路を取りて行くこと

廻持 (名) 順番に受け持つこと

間合 (名) 急の間に當つること

間拍子 (名) 時のはずみ

實 (副) まことらしく

廻合 (名) 人の運命に吉凶共にその機に巡り合ふこと

廻遠 (形) 行くに近からず事なすに速かならず

待惚 (副) 待ちくたびれて

申開 (他) いひわけをなす

申渡 (他) いひきかず。いひわたす

枕探 (名) 人の睡眠を伺ひて物を盗むこと

紛中 (名) 思ひがけなく中

待草臥 (自) 待ちあぐ

丸棟造 (名) 勾配を中高

眞正中 (名) まことのた

眞正直 (名) まことの正

眞最中 (名) まことの最

眞正面 (名) まことの正

【け】

氣 (名) 香。いきぼり。味。

氣 (接) 気色。けはひ。様子などの意を示す語

氣 (接) 風情。気色などの意を示すに用ふる語

家 (接) 家。筋などの意を示すに用ふる語

卦 (名) 易の算木の面に現はるる象

下 (名) しも。した。賤しきこと。劣れること

刑 (名) 罪人を處分する法律

景 (名) けしき

兄 (名) 同輩の名に代へて呼ぶ語

系 (名) すぢ。血筋。

圭 (名) 榭目の名

藝 (名) 學び得たるしわざ

實 (副) まことに

蹴 (他) 足に力を入れて衝きやる

方 (名) 角ある形。四角

決 (名) とりきめ。さだめ

闕 (名) かけめ。たちぬと。

月 (接) 年の月の順を示すに用ふる語

烟 (名) ケムリの畧

權 (名) 事を處分する力

券 (名) てがた。わりふ

拳 (名) 遊戲の名

乾 (名) 筮の算木に生づる象の名之を天の象とす

賢 (名) かしこきこと

件 (名) ひとくたりのこと

儉 (名) 儉約に同じ

卷 (名) 書物の數冊あるもの順序

兼 (名) かねること。

見 (名) たみこみ。目のつけか

間 (接) 長さを量るに用ふる語

軒 (接) 家屋を數ふに用ふる語。己が住む家の號に添ふる語

腱 (名) 筋のさき

驗 (名) 加持、藥などの効。見え。やうす

弦 (名) 數學の語。圓の中心を貫かすして兩端の圓周に終る直線

言 (名) ことば

元 (名) 曆日又は年號

隙 (名) すきま。不和になること

減 (名) へること。引算に同じ

源 (名) みなもと

嚴 (名) きびしきこと

業 (名) はしわざ。わざ。すぎ

烟 (名) ケムリの畧

消 (名) 燃ゆるを止む。無くならしむ。除く。止む

解 (名) とく。心に分け知る。消す。除く

稀有 (名) めづらしきこと。ふしぎなること

下部 (名) 下の方

下座 (名) 座を下りてうづくまること

下卑げび [名] 心の卑しきこと
 下下げげ [名] 下の下。甚だ劣れること
 下知げち [名] さしづ。いづつ
 怪我けが [名] あやまち
 今日けふ [他] この日。今日
 検見けんみ [名] 秋稻夢の豊凶の状を見、年貢の高を定むること
 敬けい [名] うやまふ
 慶けい [他] いはふ
 穢けがれ [名] けがるること。よこ
 蓋けだし [副] おほかた。もしくは

削けづる [他] 少しづつ殺ぎとる。
 梳けづる [他] 櫛にて髪筋をとがす
 決けつ [自] まる。定まる
 獻けん [他] たてまつる
 現げん [自] あらばる
 現げん [副] あらばに
 嚴げん [名] きびしく
 減げん [自] へる。少なくなる
 烟けい [自] けぶり立つ。薄き烟
 閱けみ [名] あらためて見る

啓けい [他] 申し上ぐ
 毛色けいろ [名] 毛の色
 敬意けい [名] うやまひの心
 敬語けいご [名] うやまひの言葉
 敬具けいぐ [名] うやまひ申すこと
 敬具けいぐ [名] いふ意(手紙など)
 敬畏けいゐ [名] うやまひ畏るること
 敬慕けいぼ [名] うやまひ慕ふこと
 慶賀けいが [名] いはひ
 慶事けいじ [名] よろこびこと
 警固けいこ [名] 非常を警めて固く備へ守ること

警備けいび [名] 非常を警めて守ること
 警悟けいこ [名] 警め悟すこと
 警邏けいら [名] みまはること
 刑期けいき [名] 刑罰を受け居る期限
 刑事けいじ [名] 法律の語。すべてたること
 経緯けいゐ [名] たてとよこと
 経費けいひ [名] 定めの入費
 經紀けいき [名] おきて。きまり
 經理けいり [名] とりはからふこと
 經始けいし [名] 物事を始むること

惠與けいよ [名] めぐみ與ふること
 惠賜けいし [名] めぐみ賜ふこと
 輕侮けいぶ [名] かるんじあなど
 輕微けいび [名] いささか。すこ
 輕視けいし [名] かるがるしく見
 輕步けいほ [名] 軽くあゆむこと
 輕易けいゐ [名] かるんじ侮ること
 景氣けいき [名] ありさま。特に商家に賣買の行はるる程をいふ
 稽查けいさ [名] かんがへしらぶ
 稽古けいこ [名] 古の物事を稽へ知ること。學ぶこと

揭示けいじ [名] かがけて人に示すこと
 掲記けいき [名] かがげ記すこと
 鯨波けいば [名] 大なる波。とき
 競馬けいば [名] 馬に乗り走りて勝敗を決すること
 硅素けいそ [名] 化學の語。元素の一
 氣色けいし [名] みえ。そぶり。容子
 假粧けいざい [名] けしやう。おつ
 下等げとう [名] カトウに同じ
 解毒げどく [名] 毒を消すこと
 區別けいべつ [名] わち

下直 [名] 直段の低きこと
 蹴出 [他] 蹴て出だす
 蹴立 [他] 蹴て起す。蹴て立つ
 氣發 [名] たちのぼるいき
 夏斷 [名] 味を絶つこと
 懈怠 [名] をこたひなまくること
 下段 [名] 下の段
 外題 [名] 書物の名を表紙となへ。なまへ
 雖然 [接] しかしながら
 欺罔 [名] こまかすこと。

下劣 [名] 卑しく劣れること
 懸想 [名] 思をかくること。戀ふこと
 結句 [副] 終に。はてには。却りて。いつそ。
 結句 [名] 詩歌の末の句
 結跏 [名] 足をまげて座すること。あぐら
 結尾 [名] とちめ。をばり。すゑ
 月賦 [名] 月割にて金錢を拂ひ渡すこと
 月下 [名] 月の光の下
 月次 [名] 月なみ
 血氣 [名] 少年の壯なるるはやる心。氣象。年若き人

血嗣 [名] 血筋のあとつき
 決議 [名] 議論を定むること
 決死 [名] 死なんと心に定むること
 決意 [名] 心を定むること
 決起 [名] 意を決して起ること
 闕下 [名] 宮闕の下
 闕字 [名] 文章中に一字又は二字の間を明けおくこと
 解熱 [名] 熱氣をさますこと
 懸念 [名] きにかかること
 貶稱 [他] 他をあしざまにいふ

毛並 [名] 毛のならば。たぐひ
 下落 [名] 物價などの下ること
 快樂 [名] こころよく楽しむこと
 現場 [名] めのまへの容子
 検見 [名] 毛見に同じ。検査に同じ
 拳固 [名] にぎりこぶし
 原價 [名] もとれ
 原語 [名] もとの言詞
 原子 [名] 物理学の語。元素を組立つる分子
 原被 [名] 原告と被告と

原簿 [名] 本もとの帳簿
 原理 [名] 大もとの道理
 原委 [名] 本と、末と
 原始 [名] 物事のはじめ
 現世 [名] 現在の世。この世
 現時 [名] 只今。當時
 權威 [名] 権を執るにつきてのいきほひ
 權利 [名] 法律の語。身に備はりたる権力
 權貴 [名] 權威ある貴き人
 權家 [名] 權勢のある家

健歩 [名] すこやかに歩むこと
 縣治 [名] 縣の政治
 元氣 [名] 精神の健全なること
 元素 [名] 化學上の語
 元始 [名] 起原に同じ
 言語 [名] ゲンギョに同じ
 言路 [名] 上に對して下々の情實を申したる手續
 言辭 [名] ことば
 肩摩 [名] 人の雜沓して肩と肩と擦合ふこと
 兼務 [名] かけもちの役目

兼備 [名] かねび かね 足なきこと
 檢地 [名] けんち 田畑山林宅地等の廣狹を檢め測ること
 檢死 [名] けんし 變死などの死骸をあらたむること
 檢査 [名] けんさ くらへあらたむること
 檢視 [名] けんし あらため見ること
 檢事 [名] けんじ 人民の犯罪をしらべて裁判所へ訴へ出る職
 驗氣 [名] けんき 治療などの効あること
 見解 [名] けんかい 見解に同じ
 見地 [名] けんち 見識に同じ
 劍舞 [名] けんぶ 劍を抜き詩吟に連て舞ひ踊ると

嫌疑 [名] けんぎ 嫌疑に同じ
 嫌疑 [名] けんぎ きたひいむこと
 嫌疑 [名] けんぎ うたがひ
 建議 [名] けんぎ 意見を建てて申し出ること
 堅固 [名] けんこ たくましくなること
 堅持 [名] けんぢ たくもちること
 堅緻 [名] けんぢ 堅く細やかなること
 眷顧 [名] けんこ けをかりみること
 謙辭 [名] けんじ へりくだる言葉
 軒輕 [名] けんぢ まさりおとり
 嶮岨 [名] けんそ げはしきこと

研磨 [名] けんま すり磨くこと。學藝を研究すること
 限度 [名] げんど かぎり。ほど
 喧呶 [名] けんた やかましきこと
 嚴備 [名] げんび きびしきそなへ
 減租 [名] げんそ 年貢をへらすこと
 減價 [名] げんか 直段をへらすこと
 儉素 [名] けんそ 儉約質素なること
 怪現 [名] けんげん 訝りて合點ゆかぬ状する顔色など
 氣振 [名] けいぶり ソブリに同じ
 蹴込 [名] けいこ 蹴て内へ入らしむ

下向 [名] げかう 都より田舎へ行くこと
 業務 [名] げふ 家業のつとめ
 協議 [名] げふぎ 相談
 協和 [名] げふわ 心をあはせて仲よくすること
 俠氣 [名] げふき なたとこぎ
 教義 [名] げうぎ 宗門の主義
 教唆 [名] げうさ すすめそのこと
 教諭 [名] げうゆ 教へ諭すこと
 澆季 [名] げうき 衰へたる末の世
 曉起 [名] げうき あさおき

翹楚 [名] せうそ 衆に抽んで勝れたること
 蹴合 [名] けいあひ 互に蹴合ふこと
 夏解 [名] げつき 結夏の終ること
 下財 [名] げさい 鑛山の語。金掘に同じ
 下作 [名] げさく 品格の賤しく下れるもの
 下山 [名] げさん 山より下ること
 激 [名] げき 自らある
 下御 [名] げぎよ 貴人の馬車などのより下り給ふこと
 擊破 [名] げきは うち破ること
 劇務 [名] げきむ がいそがしきつと

激怒 [名] げきど はげしく怒ること
 氣色 [名] けしき やうす。ありさま
 景色 [名] けしき 目に見ゆる山水のさま
 下書 [名] げしよ したがり
 下車 [名] げしや 車より下ること
 下引 [名] げびき 紙に罪を引くこと
 下卑 [名] げひる 品格卑しくなる
 下品 [名] げひん 下等の品柄
 下賤 [名] げせん 身分の低きこと
 下拙 [名] げせつ 自ら謙遜してとなふる語

四言

慶幸 [名] さいはひ
 慶福 [名] さいはひ
 慶雲 [名] めでたき雲
 慶典 [名] よろこびの儀式
 敬愛 [名] うやまひ愛する
 敬白 [名] うやまひて申す
 敬神 [名] 神をあがめ敬ふ
 敬復 [名] 敬ひて返事する
 敬服 [名] うやまひて従ふ
 敬禮 [名] 敬ひて禮をなす

敬憚 [名] 敬ひてはばかる
 敬諾 [名] 敬ひて承諾する
 契印 [名] 公事類に押す割印
 契約 [名] ちぎり。約束
 契合 [名] 符號に同じ
 鯨飲 [名] 甚だ多く酒を飲むこと
 經營 [名] はかりいとなむこと。物事を工夫すること
 經界 [名] さかひめ
 經行 [名] とほり行くこと。女の月のさわり
 經過 [名] 時の過ぎゆくこと

經濟 [名] 費用を少くし富を増して生活を營むこと
 經水 [名] 女のつきやく
 經世 [名] 世を治むること
 經由 [名] 經ること
 經綸 [名] 天下國家を治めんとする
 經國 [名] 國家を治めんとする
 經歷 [名] 經來りたるためし
 警咳 [名] こわづくり。しほぶき
 警戒 [名] いましむること
 警察 [名] 政府の行政部に屬して社會の安寧秩序を保つ職

警醒 [名] 呼び醒まし戒むること
 警報 [名] いましめのしらせ
 警拔 [名] すぐれたること
 警衛 [名] かため。そなへ
 警告 [名] いましめ告ぐる
 警聞 [名] いましめのしらせ
 形式 [名] たち。かた
 形質 [名] 物のたち
 形勢 [名] ありさま。いきほひ
 形跡 [名] 物事のありし痕あと

形體 [名] なりかたち。す
 形容 [名] 物事の形を譬へて云ひ現すこと
 形影 [名] 形と、影と
 形貌 [名] かたち。すがた
 形便 [名] 形の上の便利よきこと
 驚駭 [名] おどろくこと
 驚愕 [名] おどろくこと
 驚走 [名] 驚き走ること
 驚嘆 [名] 驚きなげくこと
 驚浪 [名] 大波

驚雷 [名] 大なる雷
 驚動 [名] 驚きさわぐこと
 啓行 [名] 旅だつこと
 啓龕 [名] 開帳に同じ
 啓發 [名] 智力などを開くこと
 啓蒙 [名] 童蒙に教へて智を開くこと
 啓沃 [名] 智力を開きみちびくこと
 溪水 [名] たの水
 谿壑 [名] 深きたに
 谿谷 [名] たに

谿間 [名] 谷のあひだ

迎合 [名] 人の意を迎へて諂ひ従ふこと

迎接 [名] 人の来るを迎ふること

迎撃 [名] 敵を迎へて戦ふこと

迎撃 [名] 敵を迎へて撃つこと

迎謁 [名] 貴人を迎へて謁見すること

迎送 [名] 迎ふると、送ること

迎降 [名] 敵を迎へて降ること

迎年 [名] 新年を迎ふること

迎歳 [名] 迎年に同じ

兼程 [名] 兼行に同じ

嚴格 [名] 厳しくおごること

嚴寒 [名] きびしき寒さ

嚴禁 [名] きびしくさしとどむること

嚴科 [名] きびしきとがめ

嚴刑 [名] きびしきおきて

嚴譴 [名] きびしきせめ

嚴酷 [名] きびしきこと

嚴暑 [名] きびしき暑さ

嚴正 [名] 嚴重にて正しきこと

嚴談 [名] きびしきかりあひ

嚴罰 [名] きびしき罰

嚴命 [名] きびしきおほせ

嚴密 [名] ぬけめなく嚴重にすること

嚴令 [名] きびしき命令

嚴守 [名] 嚴重に守ること

嚴厲 [名] きびしくはげしきこと

嚴訓 [名] きびしきおしへ

嚴明 [名] きびしくてあきらかなること

減額 [名] 數をへらすこと

減員 [名] 人員をへらすこと
減税 [名] 租税をへらすこと
減刑 [名] 刑罰を軽くすること
減水 [名] 水量の減ること
減等 [名] 法律の語罪人の罪を軽くすること
減耗 [名] へらすこと。へらすこと
減損 [名] へらすこと
減省 [名] へらしはぶること
減殺 [名] へらすこと
獻金 [名] 金錢を獻上すること

獻貢 [名] みつぎものをたてまつること
獻盃 [名] 盃をさすこと
獻納 [名] たてまつること
獻品 [名] 品物を獻納すること
獻言 [名] 上へ對して己が意見を申し立つこと
獻策 [名] 謀をたてまつること
獻替 [名] よき事を申立て悪しき事をすつること
喧嘩 [名] かまびすしきこと。いさかひ。
喧噪 [名] やかましきこと

喧囂 [名] 喧嘩に同じ
喧騰 [名] 喧噪に同じ
喧傳 [名] やかましきこと
賢才 [名] 賢徳あり才智あること
賢察 [名] 推察の敬語
賢命 [名] 他人の命令の敬稱
賢徳 [名] 賢明なる徳
賢明 [名] かしこくて物事に明かなること
賢慮 [名] 他人の考の敬稱
賢聲 [名] 賢徳ある評判

賢名 [名] 賢聲に同じ
 賢能 [名] かしこくてはた
 建白 [名] 政府などに對し
 建言 [名] 建白に同じ
 建國 [名] 新たに國を興し
 建設 [名] 作り設くること
 建築 [名] きづき建つること
 建營 [名] 建築に同じ
 建造 [名] 建築に同じ
 建立 [名] 建つること

建策 [名] はかりごとをた
 教育 [名] をしへそだつる
 教誡 [名] をしへいましむ
 教訓 [名] をしへさとすこ
 教化 [名] をしへてよき道
 教科 [名] 教授する科目
 教授 [名] をしへさづくる
 教則 [名] 教授の次第
 教導 [名] をしへみちびく
 教室 [名] 教授する室

教法 [名] みちのをしへ
 僑居 [名] かりすまひ
 僥倖 [名] こぼれさいはひ
 曉天 [名] あげがたのそら
 驕慢 [名] おごりたかぶる
 俠客 [名] をとこだて
 協定 [名] 相談して定むる
 協約 [名] 協議の上約束す
 協賛 [名] 同意してその事
 協心 [名] 心を合はするこ

協同 [名] 心を合せて共に
 脅迫 [名] おどしつくるこ
 挾撃 [名] 敵を兩方よりは
 狹隘 [名] せまくろしきこ
 狹小 [名] せまくちひさき
 憲法 [名] 政府の施政方針
 憲言 [名] 葉てほんとなる言
 軒舉 [名] たかくうへにあ
 研鑽 [名] みがき究むると
 研精 [名] みがき究むると

件件 [名] かなじな。かど
 慳貪 [名] 己が物ををしみ
 嶮蕪 [名] 腹立ちたる容子
 蠲除 [名] 租税を免ずると
 蹇諤 [名] 正しき議論をな
 希求言 [名] れかひの意
 烟 [名] 氣に苦しく感ず。
 毛深 [名] 毛多く生へてあ
 劇震 [名] 地震の甚だしく
 劇戰 [名] はげしきたたか

劇變 [名] はげしきかはり
 劇爭 [名] はげしく争ふと
 劇飲 [名] 甚だしく酒を飲
 劇界 [名] 演劇の世界
 劇壇 [名] 演劇者の社界
 激昂 [名] さからひて立
 激動 [名] はげしくく
 激勵 [名] さからひはげま
 激甚 [名] はげしきこと
 激闘 [名] はげしく闘ふと

激發 [名] はげしくおこる
激烈 [名] 極めてはげしきこと
激論 [名] はげしき議論
逆鱗 [名] 天皇の御怒り
逆説 [名] むかへて説くこと
建勳 [名] てがらをたつること
顯著 [名] あらばなること
顯績 [名] めだつてがら
顯達 [名] めだちて立身すること
縣令 [名] その縣のおふれ

縣立 [名] 縣の支配の下に建てられたる者
牽制 [名] ひきつけて自由にさせぬこと
牽束 [名] 拘泥に同じ
牽引 [名] ひきつくること
牽累 [名] ひきつけて自由にせぬこと
眷屬 [名] うからやから
眷戀 [名] こひしく思ふこと
眷遇 [名] めをかけてあつこと
眷愛 [名] めをかけて愛すること
謙遜 [名] へりくだること

謙退 [名] 謙遜に同じ
謙恕 [名] へりくだりて思ひやりのあること
謙和 [名] へりくだりて、柔和なること
倦臥 [名] くだびれて臥すこと
倦怠 [名] うみておこたること
涓滴 [名] しばりの物事
涓埃 [名] 少すのほり物事
圈點 [名] 文章の妙所杯に記す○●の類
儉約 [名] 金錢の出入を約束すること
儉歲 [名] ききんどし

儉勤 [名] てつづまやかにしてよく勤むること
儉樸 [名] てつづまやかにして飾らぬこと
儉薄 [名] 儉約にしてゆたかならぬこと
遣發 [名] 人をつかはしやること
遣送 [名] 人を送りやること
迎引 [名] 迎へ引くこと
迎寒 [名] 陰曆八月の異稱
迎候 [名] 迎へてうかがふこと
鷄姦 [名] 男色に同じ
鷄旦 [名] 正月元日の異稱

鷄鳴 [名] 曉に鷄の鳴くこと
鷄群 [名] 鷄のむれ
鷄肋 [名] 鷄のあばら骨のむれ
慧眼 [名] 眼力のするどきこと
慧黠 [名] わるがしこきこと
慧巧 [名] すばやくたくみなること
輕舉 [名] かるがるしきふること
輕減 [名] 減じて軽くすること
輕忽 [名] かるがるしきこと
輕罪 [名] 法律の語。輕き罪のこと

輕躁 [名] かる／＼しきこと
輕裝 [名] 身がるのいでた
輕卒 [名] かるはづみ
輕薄 [名] 思慮舉動のおちつたこと。又信實を蕪さぬこと
輕風 [名] そよそよと吹く風
輕便 [名] 手がるきこと
輕信 [名] かるがるしく人の言を信ずること
輕動 [名] かるがるしく動くこと
輕烟 [名] かるき烟
輕裾 [名] かるきすそ

輕揚 けいやう [名] 輕るくあがること

輕祿 けいろく [名] 輕き祿

輕寒 けいかん [名] うす寒きこと

輕賤 けいせん [名] 輕くいやしきこと

輕刑 けいけい [名] 輕き刑罰

輕進 けいしん [名] かるがるしく進むこと

輕蔑 けいべつ [名] かるんじあなどること

輕約 けいやく [名] かるがるしく約束すること

輕暖 けいだん [名] 薄暖かきこと。輕くて暖かなること

螢雪 けいせつ [名] 螢と雪。勞苦して學業を勵むこと

桂月 けいげつ [名] 陰曆八月の異稱

傾國 けいこく [名] 傾城に同じ

傾城 けいせい [名] 美人の稱。轉じて遊女の稱

傾斜 けいしゃ [名] かたむきゆがむこと

傾首 けいしゆ [名] 首を傾くること

傾折 けいせつ [名] かたむき折ること

傾倒 けいとう [名] かたむきたふること

傾覆 けいふく [名] ひつくりかへること

傾側 けいそく [名] かたむくこと

傾頰 けいけん [名] かたむきくづること

傾排 けいはい [名] おしたふすこと

傾向 けいかう [名] 物事の一方に傾き向ふこと

繼續 けいぞく [名] つづくこと

計策 けいさく [名] はかりごと

計算 けいさん [名] はかりかぞふること

計謀 けいぼう [名] はかりごと

計較 けいかう [名] はかりくらぶること

頃日 けいじつ [名] このごろ

頃來 けいらい [名] このごろ

頃刻 けいこく [名] 暫しの間

藝林 げいりん [名] 學藝社會

藝道 げいどう [分] 藝術のみち

藝能 げいのう [名] 藝に堪能なること

藝苑 げいえん [名] 藝林に同じ

藝文 げいぶん [名] 學問

勁節 けいせつ [名] 氣質の強きこと

勁健 けいけん [名] つよくてすこやかなこと

勁風 けいふう [名] つよき風

惠投 けいとう [名] 人に物を送ること

惠送 けいそう [名] 惠投に同じ

惠風 けいふう [名] 陰曆三月の異稱

惠鮮 けいせん [名] めぐむこと

惠民 けいみん [名] 人民をめぐむこと

惠育 けいいく [名] めぐみ養ふこと

惠愛 けいあい [名] めぐみいたはること

境内 けいがい [名] さかひのうち

境界 けいがい [名] さかひ

刑法 けいぽう [名] 法律の語。罪人に科する法律

刑名 けいめい [名] 刑罰の名稱

刑律 けいりつ [名] 刑法に同じ

刑殺 けいさつ [名] 刑によりて人を殺すこと

刑辟 けいへき [名] つみ

刑戮 けいりく [名] 罪に行ふこと

圭角 けいかく [名] かどだつこと

禊月 けいげつ [名] 陰曆三月の異稱

掲載 けいさい [名] かがげ載すること

稽首 けいしゆ [名] 頭を地につけて拜すること

稽考 けいかう [名] かんがふること

稽顙 けいそう [名] 稽首に同じ

撃手 [名] 手をさしあぐる
撃折 [名] 立ながら腰を屈めて禮をする
逕庭 [名] かけへだたる
景物 [名] 春夏秋冬その折々の風情を添ふるもの
景物 [名] 商家に店開き、賣出しの特賣品に添へて客に贈るもの
京品 [名] 景物に同じ
京洛 [名] みやこ
係累 [名] 身に係るわづらひ
係縛 [名] しぼること
奎運 [名] めてたき世上の氣運

系統 [名] ちすぢ
繫獄 [名] 牢屋に繋がる
繫泊 [名] 船をつなぐこと
携帶 [名] たづさふること
携行 [名] 携へて行くこと
携提 [名] 提携に同じ
蹠跚 [名] 動きさまよふ
毛茛 [自] 紙等の揉まれて毛の如きもの立
蹠放 [他] 蹠て開く
蹠飛 [他] 蹠つて飛ばし遣る

蹠散 [他] 蹠つて散らす
蹠違 [名] (ゆきちがひ。俗語)
下着 [名] 都より田舎の地へ到り着くこと
下略 [名] 文章などに下の文句を省きて書
蹠返 [他] 蹠て元へ遣る。幾度も蹠る
蹠倒 [他] 蹠て倒す
桁行 [名] 工匠の語。一棟の家の長さない
氣高 [名] 氣品よし
雖然 [名] 然しながら
血痕 [名] 血のつきたるあ

血稅 [名] 徴兵の異稱
血戰 [名] 血を流して戦ふこと。烈しき戦
血判 [名] 誓詞などの名の下に指を刺して其血を捺すこと
血盆 [名] 口などを開きたるさまを形容したる語
血涙 [名] 血の涙
月曜 [名] 七曜の一、日曜
月刊 [名] 毎月に刊行すること
月經 [名] 子宮より毎月一めぐりて血の下ること
月朔 [名] ついたち

月謝 [名] 月毎に送る謝禮の金
月水 [名] 月經に同じ
月夕 [名] 陰曆八月の異稱
月旦 [名] 毎月朔日。品評
月報 [名] 毎月報知すること
月末 [名] 月の末
月迫 [名] 月末に迫りたる日の稱
月俸 [名] 月給。毎月のお料
月明 [名] 月のあかるきこと
月老 [名] 月下老人の略

月影 [名] 月のかげ
月暈 [名] 月のかさ
闕腋 [名] わきあけ
闕如 [名] 闕き省くこと
闕席 [名] 集會、學校などの席に出でぬこと
闕損 [名] かけそんすること
闕典 [名] 書物の闕けて備はらぬこと
闕文 [名] 文章の中に闕けたる文句
闕員 [名] 人員の足らぬこと
闕望 [名] 望みのかくると

闕勤 [名] つとめをやすむ
結合 [名] くみあひ。より
結果 [名] 事のできばえ
結構 [名] くみあつる。心かまへ好きと
結社 [名] なかまを立つる
結制 [名] 制戒を結ぶこと
結束 [名] たばぬること。しばぬこと。
結隊 [名] 集り隊を組むこと
結黨 [名] なかまを立つる
結末 [名] とちめ。をばり

結約 [名] 契約を結ぶこと
結論 [名] 議論を結ぶこと
結伴 [名] なかまを立つる
結託 [名] くみあふこと
決行 [名] 心を定めて行ふ
決策 [名] 計を定むること
決算 [名] 勘定の仕上げ
決心 [名] 念を一途に定むること
決戦 [名] 死を決して戦ふ
決斷 [名] とりきむること。確と定むること

決定 [名] とりきまること
決闘 [名] 互に恨みあふ事
決隙 [名] 隙などの缺けた
決去 [名] 別れ去ること
決獄 [名] 公事をさばくこと
決裂 [名] さげやぶること
決答 [名] きまりたる返事
穴居 [名] 土中に穴を掘りて住み居ること
潔齊 [名] ものいみ
潔白 [名] 眞白なること。正しきこと

潔癖 [名] きれいすき
潔廉 [名] いさぎよく慾なきこと
潔行 [名] いさぎよき行ひ
傑作 [名] 詩文等の出来のすぐれたるもの
傑物 [名] すぐれたるもの
缺乏 [名] 物の缺けて乏しきこと
欽隙 [名] 壁罅などのすき
欽漏 [名] 足らぬこと。かけもれ
訣別 [名] わかること
訣宴 [名] わかれのさかも

訣飲 [名] わかれの宴
厥冷 [名] 警肅の語、身體の冷かになること
桀黠 [名] てあらくわること
健氣 [副] 妙に、しく神
險惡 [名] 道のけはしきこと
險難 [名] 險阻に同じ
險隘 [名] けはしくてせまきこと
險阨 [名] けはきこと
險艱 [名] 險阻に同じ
險要 [名] 險阻にて要害の

險道 [名] けはしき道
原案 [名] 元のかんがへ。本のまゝの文案
原因 [名] 事のおこり
原稿 [名] したがり
原形 [名] もとのかたち
原告 [名] 訴訟を起す方
原質 [名] 元になるもの。したちのもの
原人 [名] 人間の未だ發達せざる時の境界
原文 [名] 原のまゝの文章
原由 [名] もとのわけから

原態 [名] もとのすがた

原則 [名] もとよりきまりたるきまり

見解 [名] 文章の意味の解し方。みどころ

見参 [名] 面をあはすこと

見識 [名] 考へ、みこみ。キグラキに同じ

見當 [名] みあて。めあて

見物 [名] みものをするも

見聞 [名] 見ると聞くと

見任 [名] 現在の役目

檢察 [名] しらべ。ぎんみ

檢閱 [名] あらため見ると

檢疫 [名] はやり病をしらぶること

檢算 [名] 運の結果の正否をためす算法

檢斷 [名] しらべ定むると

檢按 [名] しらぶること

檢覈 [名] しらぶること

檢定 [名] あらためて好しと定むること

檢分 [名] 役人などの物事に立合ひてあらため見ること

檢校 [名] あらたむること

眩暈 [名] 目のくらむこと

眩惑 [名] くらみまどふと

眩亂 [名] 目ちられぬこと

玄月 [名] 陰曆九月の異稱

玄間 [名] 大空

玄言 [名] 深き道理をこめたる言葉

玄謀 [名] 深きはかりこと

幻影 [名] 事實ならぬものを事實のやうに思はしむること

權要 [名] 權勢ある要路にあること

權衡 [名] 秤のおもりと秤と。物事の釣合

權限 [名] 權利、權力などのかぎり

權勢 [名] いきほい。けん

權柄 [名] いきほひ。いせ

權變 [名] 變に應じてからに事をはからふ

權謀 [名] 一時かりに行ふはかりごと。い

權道 [名] その時かりに行ふ道

權譎 [名] いつはること

權幸 [名] 權威ありて寵愛せらるること

現役 [名] 現在役務につき

現行 [名] まのあたりに行ふこと

現銀 [名] 現金に同じ

現效 [名] まのあたりのき

現金 [名] 現に所持してある金

現金 [名] 物を買ふにまのあたりを代を挑ふこと

現形 [名] いまのかたち

現今 [名] いま。ただいま

現在 [名] まのあたり

現實 [名] 實際のまゝなること

現存 [名] 現に存在すること

現任 [名] 現在任ぜられてある官

現物 [名] まのあたりにある物

懸崖 [名] げはしききし

懸隔 [名] 遠くかけ離れたること

懸絶 [名] 懸隔に同じ

懸念 [名] きがかり。しん

懸軍 [名] 遠くかけ離れたる處にある軍勢

懸磬 [名] 物の盡きはつること

懸車 [名] 仕官をやめて隠居すること

懸命 [名] いのちがけ

乾綱 [名] 政事のおぼづな

健康 [名] すこやかなること

健全 [名] 健康に同じ

健啖 [名] すこやかに食ふこと

健在 [名] まめにあること

健忘 [名] 病によりて物忘れすること

健闘 [名] すこやかにたうこと

健腕 [名] すこやかなる腕前

堅硬 [名] かたきこと

堅確 [名] かたくてしつかりしたること

堅忍 [名] 堅くこらへ忍ぶこと

堅牢 [名] かたきこと

堅脆 [名] かたきともろきこと

堅請 [名] しひてたのむこと

言行 [名] 言葉と行ひと

言語 [名] ことば

言貌 [名] ことばつきとやうすと

言文 [名] 言葉と文章と

言論 [名] 議論に同じ

言動 [名] ものいひとたちふるまひと

言明 [名] いひあかすこと

言責 [名] 諫言などすべき責任

劍道 [名] 劍術に同じ

劍法 [名] 劍術に同じ

劍難 [名] 刀傷の災難

劍擊 [名] 劍にて打ち合ふこと

兼學 [名] 種々の學問を兼ねる

兼勤 [名] 二つ以上役目を兼ねて勤むること

兼日 [名] 日を兼ねる。數日に渉ること

兼帶 [名] かねと之とを兼ねる事。かけ持

兼題 [名] 數日前に出し置きて詠ましむる和歌の題

兼任 [名] 數職に任せらるること

兼併 [名] 合せて一つにする

兼約 [名] かねて結びたる約束

兼通 [名] かねてこれとこれとに兼ねて通ずること

兼濟 [名] かねこれとこれを兼ねる

兼行 [名] 二日路を一日に行ふこと

擊柝 [名] 拍子木をうつこと

擊沈 [名] 軍艦などを撃ちて沈むること

擊碎 [名] うちくだくこと

擊退 [名] うちて退くること

擊殺 [名] うち殺すこと

檄文 [名] 軍兵などを徴すふれがき

闕寂 [名] ものさびしきこと

消印 [名] 消したるしるしに押す印

下宿 [名] やどさがり。長く旅宿すること

下職 [名] 下等なる職業

下卑藏 [名] 意地のきたなきこと

假粧 [名] 紅白粉にて顔をよそほふこと

假裝 [名] 美しく繪模倣なものを施せる物の名に添へる語

假病 [名] 病ありと偽はるること

結了 [名] をはるること

減少 [名] へりて少なくなること

輕少 [名] わづか。すこし

輕妙 [名] 文章の筆ゆき軽くて美妙なること

輕佻 [名] かるがるしきこと

稽留 [名] とどまること

原料 [名] 物事のたねとなるもの

兼業 [名] 二つ以上の業を兼ねること

玄妙 [名] 幽玄にて且つ精妙なること

言笑 [名] 話し又は笑ふこと

檢了 [名] しらべをはるること

喧擾 (名) さわがしきこと
 研究 (名) みがききはむる
 負焉 (副) 遠くへだたりた
 熒熒 (副) やびか〜とカ
 輕快 (名) 輕くて速かなる
 輕量 (名) かるきめかた
 輕重 (名) (ケイチャウ)か
 輕捷 (名) はしこきこと
 輕禁銅 (名) 法律の語禁
 警鐘 (名) 火事などの起り
 たる時つ〜鐘。

計畫 (名) はからひ。もく
 計畧 (名) はかりごと。
 景况 (名) つばりのてだて
 景色 (名) ありさま。やう
 啓白 (名) 山水、風物など
 形象 (名) 啓上(ケイジャ)
 形状 (名) ウ、申し上ると
 敬稱 (名) 敬ひていふ時の
 敬聽 (名) 敬ひてきくこと

敬承 (名) つゝしみてうけ
 藝術 (名) たまはること
 傾注 (名) 學び得たるしわ
 傾聽 (名) 意をその方に傾
 傾立 (名) 意を注ぐこと
 蹴立 (名) 耳を傾けて聞く
 削取 (名) 物をけたつ如く
 決然 (副) 意を定めて
 月評 (名) 削りて取り除く
 結局 (名) 一月毎にその月
 結氷 (名) の出來事。批評
 氷のほること

血色 (名) 顔の色
 闕官 (名) その官に任すべ
 闕畧 (名) き人の闕けてあ
 決着 (名) はぶくこと
 傑出 (名) きまりのつくこ
 軒別 (名) ひいづること
 蹇蹇 (名) のきごとに
 涓涓 (副) 足の不自由なる
 喧喧 (副) さまにいふ
 泣然 (副) 水などの流るゝ
 涙の落つるさま

現然 (副) まのあたり
 現象 (名) あらばれて見ゆ
 現狀 (名) る所
 現職 (名) まのあたりのあ
 儼然 (副) りさま
 儼然 (副) おごそかに
 縣會 (名) 現在の官職
 兼官 (名) 本官の外に兼ね
 言外 (名) きて會議するこ
 減縮 (名) ことばのほか
 減量 (名) へらしちゝむる
 かさのへること

權略 (名) はかりこと
 權力 (名) いかほひ。ちか
 謙讓 (名) ら
 健勝 (名) へりくだりてい
 顯職 (名) ふ時の稱
 賢良 (名) すこやかなると
 建議案 (名) 貴官職
 嚴重 (名) 才徳すぐれたる
 幻術 (名) こと
 懸賞 (名) おごそかなると
 賞を與ふる方法
 を設けて募集す

憲章 [名] おきて

勤賞 [名] 功を賞して官などを賜ふこと

牽強 [名] 無理にこじつくること

劇職 [名] はげしき職務

劇曲 [名] 芝居にあはべ芝居のふし

擊攘 [名] うちばらふこと

協力 [名] 力を合はする

協會 [名] 衆人心を合せてよりあふこと

協商 [名] 相談すること

脅従 [名] おびやかされて従ふこと

狹量 [名] 度量の狭きこと

教會 [名] 耶蘇教の會場

教誨 [名] をしへたとすこと

教場 [名] 學校の教授をなす室

曙光 [名] 夜明けの光り

曉鐘 [名] 夜明の鐘

曉色 [名] 夜明のけしき

形容格 [名] 文法上の語の用格の名

經常歲入 [名] 毎年定額に入る收額

敬禮式 [名] 敬禮を施す式

鑷合 [名] 物のはつばつにあふこと

決勝点 [名] 勝負を定むるところ

見識張 [自] 見識あるふりを装ふ

權柄附 [名] 權柄がましく物を言ひ又は行ふこと

牽強附會 [名] むじつにこじつくること

教育學 [名] 教育のことを學問

教授法 [名] 教授する方法

經 [自] 過ぎゆく。越え行く。【ふ】
[自] 移り進む

歩 [接] 田地の面積を計るに用ふる語

譜 [名] 系圖。音樂の曲節の次第を起したるもの

傳 [名] かしづき

不 [接] 他語の上に付て其意義を打消すに用ふる

武 [名] ををしき勢を用ふること。いくさ

部 [名] 物事の一方の所。類を以て別るる所

分 [接] 物の長さを計るに用ふる語

太 [接] ふとく大なる意を示すに用ふる語

縁 [名] 物のへり。めぐり

振 [名] 出抜にて以前より馴染も約束もなきこと

降 [名] 雨のふること

古 [接] ふるきといふ意を示すに用ふる語

觸 [自] さわる。よる。染む

狂 [自] 心みだる。かたよる

分 [接] 物の重さを量るに用ふる語

分 [名] 身の程。身分

文 [名] あやもやう。學藝を修むること

封 [名] とぢめにしるしをつけおくこと

吹 [他] 口より氣を吐き出す風動く。水わき上る

福 [名] さいはひ

副 [名] そへもの

幅 [接] 掛物を數ふるに用ふる語

殖 [自] おほくなる

臥 [自] 横になりて寝る

伏 [自] 下にかくる。ひそむ

俯 [自] 下を向く

附 [他] 手渡しす。従はしむ

補 [他] 職に任す

賦 [他] くばる。わりつくる。詩をつくる

不意 [名] 思ひよらぬこと

不圖 [副] 思ひかけぬ
 不治 [名] 病の癒えぬこと
 不利 [名] 利益ならぬこと
 不和 [名] なかたがひ
 不可 [名] よからぬこと
 不雅 [名] 風雅ならぬこと
 不虞 [名] 思ひかけぬこと
 不軌 [名] 謀叛を企つるも
 不義 [名] 義に背くこと。
 不時 [名] 時ならぬこと

不次 [名] 次第にはづるる
 不貲 [名] 財産の多くある
 無異 [名] 異變のなきこと
 無爲 [名] することなき
 無事 [名] 仕事なきこと。
 武威 [名] 武の威光。たけ
 武事 [名] たけしわざ
 武備 [名] いくさのそなへ
 扶持 [名] たすくること
 扶疎 [名] まばらなること

府下 [名] 府のもと
 附加 [名] つけ加ふること
 附與 [名] あたふること。
 布施 [名] 僧に施す品物
 太 [形] 圍み大なり。肥えた
 古 [形] 多く年を歴たり。新
 舊 [他] 捨つ
 震 [名] ふるふこと。ゆるぎ
 振 [他] ふる。ふり動かす。
 揮 [他] 用ひ動かす

節 [他] 節にて物を振ひ渡す
 深 [形] 下へ遠し。ふけて有。
 蒸 [他] 湯氣をとほし 熱せ
 觸 [他] ふれ弘む
 扮 [自] いでたつ。みづくる
 諷 [他] 遠まほしにいふ。そ
 封 [他] 封をなす
 含 [自] 花まだ開けず。口に
 脹 [名] ふくれたること。内
 復 [自] りかへる。もどる。く

服 [自] 心からつき従ふ。身
 伏 [自] 負けて従ふ。かくる
 耽 [自] 深はまり。おぼる
 很 [自] 憤りて命に従はず
 防 [名] ふせぐこと
 煤 [他] けぶらしむ
 不意氣 [名] いきならぬ
 不陸 [名] ふそろひ
 不拔 [名] 抜けぬこと
 不犯 [名] 女と交はらぬと

不法 [名] 道にはづれたる
 不偏 [名] かたよらぬこと
 不滿 [名] 心に不満足なる
 不便 [名] たより悪きと。
 不同 [名] 同じからぬこと
 不撓 [名] たゆまぬこと
 不徳 [名] 徳のかけたると
 不當 [名] 道理にかなはぬ
 不倫 [名] 倫理にそむける
 不慮 [名] 思ひかけぬこと

不穩 (名) おだやかならぬこと
 不覺 (名) 心の慥かならぬこと。怠りてだしぬかること
 不學 (名) 學力なきこと
 不諧 (名) 和諧せぬこと
 不堪 (名) 藝に堪能ならぬこと
 不用 (名) 用なきこと。いらぬこと
 不斷 (名) たえまなきこと
 不例 (名) 例ならぬこと。病むこと
 不廉 (名) 直段の安からぬこと
 不足 (名) 足らぬこと。かけたること

不遜 (名) 謙遜ならぬこと
 不通 (名) 解せられぬこと。理
 不埒 (名) 法に遵はぬこと
 不亂 (名) みだされぬこと
 不向 (名) むかぬこと。似合しからぬこと
 不運 (名) 不遇(フケワ)ふしあはせ
 不能 (名) 才能のなきこと
 不屈 (名) 屈せぬこと
 不群 (名) 多くある中にくれてあること
 不滿 (名) 心に満足せぬこと

不敬 (名) うやまはぬこと
 不稽 (名) 考なきこと
 不潔 (名) きたなきこと
 不服 (名) 従はぬこと。得心せぬこと
 不孝 (名) 親によく事へぬこと
 不幸 (名) 幸なきと親しき人の死にたること
 不得手 (名) 得手ならぬこと。熟練せぬこと
 不縁 (名) 嫁婿の縁遠きと縁組の離るること
 不出來 (名) できのわるきこと
 不貞寢 (名) 心に不平あすにれてゐること

不敵 (名) 膽太くて物を畏れぬこと
 不腆 (名) 粗末なること
 不安 (名) 安らかならぬこと
 不作 (名) 作物のよくみのらぬこと
 不才 (名) 才氣のなきこと
 不參 (名) まぬらぬこと
 不吉 (名) めでたからぬこと
 不義理 (名) 義理のかけたること
 不明 (名) 明らかならぬこと
 不思議 (名) 思ひばからしきこと。れぬほど怪

不實 (名) 親切ならぬこと
 不日 (副) 日數ただすして
 不審 (名) いぶかしきこと
 不仁 (名) なさげの心なきこと
 不信 (名) まことにせぬこと
 不便 (名) あはれむべきこと
 不敏 (名) さとからぬこと
 不問 (名) 開きたださぬこと
 不正 (名) 心、行の正しからぬこと
 不筋 (名) 筋道に背けると

無音 (名) おとづれをせぬこと
 無道 (名) 道にはづれたること
 無禮 (名) 禮儀にはづれたること
 無雙 (名) たぐひなきこと
 無骨 (名) 不作法なること
 無粹 (名) 通人ならぬこと
 無沙汰 (名) たよりをせぬこと
 無念 (名) 心付かざりしこととを悔ゆる語
 無難 (名) さばりなきこと
 無賴 (名) 生業を顧す法度を畏れず振舞と

無勢 [名] 人数の少なきと
 撫育 [名] 愛し育つること
 浮浪 [名] さすらふこと
 浮薄 [名] 氣象のかるかる
 浮沈 [名] うくと沈むと榮ゆると衰ふると
 浮言 [名] 浮説(フセツ)根なしこと
 浮遊 [名] ここかしこうか
 浮華 [名] はなやかに飾ること
 浮名 [名] うきな
 浮泛 [名] うかぶこと

浮世 [名] うきよ
 武張 [名] たけさまをあらはす
 武道 [名] 武士の道
 武斷 [名] 武力を以て事をよく決断すること。勢
 武勇 [名] 猛くて強きこと
 腐敗 [名] くされたたるる
 腐心 [名] いたく心配すること
 腐爛 [名] くされたたるる
 赴任 [名] 勤めある地へ赴くこと
 侮蔑 [名] あなどりないがしるにすること

侮謾 [名] あなどること
 侮言 [名] あなどりたる言
 俘虜 [名] とりこ
 腑脱 [名] 物事にぬかりあること(俗語)
 部類 [名] 部に分ちたる種類
 部分 [名] 組をそれぞれに分つこと
 部分 [名] 物の中の一つのわち
 部署 [名] てくばり。てはす
 舞樂 [名] 舞に屬する音楽
 扶翼 [名] 扶助(フジョ)たすくること

二重 [名] 二つかさなれること
 二子 [名] 一産に二子を生まふこと
 二目 [名] ふたたび見ると受ること
 負擔 [名] 物を背に負ふこと。事を身に引受ること
 布達 [名] 諸省、府縣廳より遍く國民に傳ふる命令
 布設 [名] 地に作りつくること
 附託 [名] あづくること
 附帶 [名] つき伴ふこと
 附近 [名] あたり
 附隨 [名] つき従ふこと

譜代 [名] 世世家系を繼ぐこと
 佛語 [名] 佛法に関する語
 佛語 [名] 佛蘭西の語
 物故 [名] 死ぬること
 物理 [名] 物体の理法
 物議 [名] 世人のうはさ
 物價 [名] 物のねだん
 普通 [名] つれなみ。世の
 分岐 [名] わかれたること
 分地 [名] 土地を分ちて子弟等に與ふること

分派 [名] えだわかれ
 分賦 [名] ふりわくること
 分泌 [名] 液汁のしみ出づること
 分離 [名] わかれはなるること
 分疏 [名] いひわけする
 文意 [名] 文章の意味
 文雅 [名] 文章のみやびたる道
 文武 [名] 文と武と
 文理 [名] すぢめ。しまもやう
 文話 [名] 文章につきての種々なる話説

文事 [名] 文學の事

紛議 [名] もつれたる議論

紛飛 [名] みだれとぶこと

憤死 [名] いきどほり死ぬること

憤怒 [名] いきどほり怒ること

忿怒 [名] 奮恚(フンイ)いかること

奮起 [名] 氣をふるひ起すこと

風雅 [名] みやびたること

風氣 [名] 風俗氣候

風紀 [名] 風俗の紀律

風情 [名] けはひ。おもむき

風儀 [名] ならはし。しつ

風致 [名] おもむき

風土 [名] 土地の地味と氣候

風波 [名] 風と波と。いさかひ。あらそひ

風靡 [名] 草木の風になびくが如く服従すること

風味 [名] あぢはひ

富貴 [名] 富みて貴きこと

諷刺 [名] それとなく他人の過をさすこと

封鎖 [名] 封すること

服務 [名] 職務に服役すること

服穢 [名] 忌服にあたるるけがれ

不朽 [名] 朽ちぬこと。永く減びぬこと

福祉 [名] 復祉(フクシ)さ

復古 [名] 今の有様を古の如くかへすこと

孵化 [名] 卵のかへること

符驗 [名] しるし。ききめ

符號 [名] しるし

符合 [名] わりふを合せたる如く合ふこと

誣言 [名] いつはりしゆる言葉

敷衍 [名] ひきいばすこと

歩合 [名] 幾つかに分ちたる割合

巫山戯 [名] ふざけること

伏目 [名] うつむくこと

普請 [名] 建築すること

賦性 [名] うまれつき

賦税 [名] 税を課すること

撫綏 [名] 愛して安んずること

不調 [名] 事の調はぬこと

浮流 [名] うかび流るること

無聊 [名] 頼みなきこと。徒然なること

普及 [名] あまねく行き渡ること

懷 [名] 着物と胸との間。物の間に圍まれたる處

古 [名] 古く見ゆ

塞 [名] 蓋となる

再 [名] かされて。二度

不意打 [名] 思ひよらぬ時にうつと

不似合 [名] 似合しからぬこと

不如意 [名] 心のままな活の貧しきこと

不屈 [名] 法を憚らずして犯すこと

不定 [名] 定まらぬこと

不忠 [名] 忠義ならぬこと

不理屈 [名] 理屈にあらぬこと

不良 [名] よからぬこと

不勝手 [名] 勝手によからぬこと。錢廻りのよからぬこと

不可能 [名] 出來ぬこと

不可思議 [名] 思ひ計れぬこと

不揃 [名] そろばぬこと

不勤 [名] 怠ること

不都合 [名] 都合の悪きこと。不當なること

不快 [名] 心よからぬ病。
 不景氣 [名] 景氣のよか
 不手際 [名] 手際の悪き
 不作法 [名] 作法なきと
 不細工 [名] 細工の拙き
 不興 [名] 興味の醒むるこ
 不恭 [名] つつしまぬこと
 不詳 [名] つまびらかなら
 不規則 [名] きまりなき
 不器用 [名] 巧みならぬ

不名譽 [名] 名譽ならぬ
 不身持 [名] 身持の悪き
 不躰 [名] 禮儀を欠くこと
 不精 [名] 精を出さぬこと
 不自由 [名] 自由ならぬ
 不始末 [名] 始末のよか
 不正 [名] 正しからぬこと
 不熟 [名] 果物の熟せぬと
 不首尾 [名] 首尾のわる
 不順 [名] 順序にたがへる

不勝 [名] 心地のすぐれぬ
 不承 [名] 不承知ながら強
 符帳 [名] 商家にて直段を
 附着 [名] つくこと
 附從 [名] つき従ふこと
 振合 [名] 他の例と照り合
 振上 [名] うちふりて高く
 振賣 [名] 品物を振り提げ
 振方 [名] もち扱ひ方
 振捨 [名] 振りはらひて捨
 捨 [名] て去る

振出 [名] ふりだすこと
 振撒 [名] ふりちらす
 振向 [名] かへりみる
 振分 [名] ふりわくる
 振舞 [名] しわざ。おこな
 降出 [名] 降り始む
 深入 [名] すべて物事に溺
 蓋明 [名] 蓋を明くること。
 佛葬 [名] 佛式にて葬ると
 佛式 [名] 佛道の式

佛參 [名] 寺まゐり
 佛法 [名] 佛の教へ
 物品 [名] しなもの
 物質 [名] 物のたち
 物體 [名] 形あるもの
 物騷 [名] 物騒がしきこと。
 沸騰 [名] 湯等の沸たつと
 拂底 [名] 物を拂出して残
 船脚 [名] 船の進み行く度
 船歌 [名] 水夫のうたふ歌

船積 [名] 荷物を船に積み
 分捕 [名] ぶんどること
 文運 [名] 學問の運命
 文學 [名] 書を讀みて學藝
 文化 [名] 文學教化の盛ん
 文藝 [名] 文學に係る一切
 文才 [名] 文學の才智
 文書 [名] かきもの
 文題 [名] 文章の題
 文壇 [名] 文學界(アンカイ)
 文學の社會

文通 [名] 手紙のおとづれ
文體 [名] 文章の體裁
文法 [名] 文章の法則
文筆 [名] 文章をつづるゝ
文墨 [名] 詩文書などのと
文明 [名] 文學教化よく整ひて世の盛んに
文面 [名] 文章の上の趣
文例 [名] 文章の書き方の例
文案 [名] 文章のしたかき
文華 [名] かつさり

分課 [名] 受持を分つこと
分科 [名] 一類の學科を更に小分すること
分限 [名] 分際(フンザイ)身のほど
分散 [名] ちりちりに分ること
分身 [名] 分魂(フンペン)子を生むこと
分設 [名] 分ちて設くること
分擔 [名] それづゝに分けて負擔すること
分段 [名] 物事の段落
分配 [名] わけくばること
分別 [名] 物事の類をわくまへ考ふること

分類 [名] 多くの物を種類によりて分つこと
分裂 [名] 分ち裂くること
分明 [名] 明らかになること
分毫 [名] 分寸(フンセン)極めて少しの數
分解 [名] とき分つこと
分崩 [名] 世の亂れること
分袂 [名] 遠く別れ去ること
紛紜 [名] 事のもつれ亂れること
紛失 [名] 亂れて失ふこと
紛亂 [名] 紛錯(フンサク)亂れること

紛爭 [名] 亂れ争ふこと
紛闘 [名] みだれて闘ふこと
紛雜 [名] いらまざること
奮激 [名] 烈しく心を奮ひ起すこと
奮進 [名] ふるひ進むこと
奮闘 [名] ふるひ闘ふこと
奮發 [名] 心を奮ひ起すこと
奮勵 [名] ふるひげむこと
噴火 [名] 火をふき出すこと
粉骨 [名] 骨を折りて働く

粉碎 [名] 碎きて粉にすること
粉壘 [名] こなみぢんにすること
忿懣 [名] いかること
忿爭 [名] 怒りて争ふこと
忿嫉 [名] 怒りにくむこと
憤怨 [名] 憤恨(フンゴン)憤り怨むこと
憤惋 [名] 憤慨(フンカイ)憤りなげること
聞達 [名] 名譽と顯達と
封目 [名] 封じたる合せ目
風采 [名] 人から。やうす

風鑑 [名] 風采容貌を見て知ること
風塵 [名] 世の亂れさわぐこと
風災 [名] 暴風の災
風邪 [名] かぜひき
風說 [名] 世のうばさ
風俗 [名] ならひ。ならはし。衣服の裝ひ
風體 [名] なりふり。すがた
風聞 [名] 世のとりざた
風韻 [名] 風雅なるあぢはひ
風趣 [名] おちむき

諷諫 [名] それとなく諫むること
福分 [名] 祝賀の品物など、祝賀の時などに分ちて贈ること
福引 [名] 祝賀の時などに分ちて贈ること
福音 [名] 救主の來臨の消息
福德 [名] 福分(フクブン)
服役 [名] 役につくこと。懲役を動かすこと
服装 [名] みなり
服罪 [名] 罪に服すること
服藥 [名] 薬を飲み用ふる
服用 [名] 衣服を着ること。薬を飲むこと

服膺 [名] 心に止めて忘れぬこと
複寫 [名] 先に寫したるものを更に寫すこと
複數 [名] 二つ以上の數
複製 [名] かさなり雜ると
腹心 [名] 同一のものを重ねて製すること
腹痛 [名] 心の底まで打明すこと
復籍 [名] 腹の痛むこと
復讀 [名] もとの戸籍にかへること
復命 [名] 書物をさらへ讀むこと
復命 [名] 使者の返答を得て歸りて告ぐる

復興 [名] ふたたび盛になること
復席 [名] もとの席へ歸ること
復奏 [名] ふたたび奏すること
副啓 [名] 添へて申すといふこと
副書 [名] そへの文書
副署 [名] 姓名を書き添ふること
覆轍 [名] 車の倒れたるあと。事を仕損じたる後
覆沒 [名] 船などのくつがへりしづむこと
覆審 [名] くりかへして吟味すること
伏讀 [名] 伏して讀むこと

伏在 [名] かくれをること
伏拜 [名] 伏して拜すること
伏謁 [名] 貴人に對面すること
伏奏 [名] 伏して奏問すること
輻湊 [名] 諸方より一處に寄りあつまること
幅員 [名] ひろさ。ばば
府會 [名] その府の議員の會議すること
相應 [名] 形につかばし。つりあひてあり
巫山戲 [名] 自) たばむる
吹暴 [名] 自) 風甚しく吹く

吹出 [名] 自) 涌き出て出づ。堪え兼ねて息を吹き笑ふ
吹降 [名] 風まじりに雨降ること
吹捲 [名] 吹きめぐる
吹寄 [名] 風の吹きよするを合せ集むること
拭取 [名] ぬぐひてとる
踏込 [名] 強くふむ。人の家などに闖入す
踏締 [名] しかと踏む
踏立 [名] 自) ふみてたつ
踏分 [名] 他) ふみいりてひらく
節付 [名] 歌などに曲節をつくること

撫恤 [名] いたはりめぐむこと
扶植 [名] たすけたつること
腐蝕 [名] くさること
侮辱 [名] あなどりはずかしむること
負傷 [名] ておひ。けが
分業 [名] 業を分けて營むこと
焚燒 [名] 焼くること
風習 [名] ひ
風潮 [名] 世事のなりゆき
風流 [名] みやび。すき

風教 [名] 世のをしへ

復讐 [名] かたきうち

復習 [名] さらひをするこ

復舊 [名] もとのとほりになること

不老不死 [名] 老いずること

不得策 [名] 得策ならぬこと

不得心 [名] 得心せぬこと

不透明 [名] 透明ならぬこと

不注意 [名] 注意せぬこと

不恰好 [名] 恰好わるきこと

不用心 [名] 用心わるきこと

不釣合 [名] つりあはぬこと

不満足 [名] 満足せぬこと

不貞腐 [名] やけを起すこと

不手廻 [名] 手廻りのわるきこと

不體裁 [名] 體裁のわるきこと

不適當 [名] 適當せぬこと

不愛想 [名] 愛想なきこと

不安心 [名] 安心せられぬこと

不安排 [名] 味のよからぬこと

不案内 [名] 案内を知らぬこと

不行儀 [名] 行儀のよからぬこと

不器量 [名] 器量のなきこと

不面目 [名] 面目を失ふこと

不仕合 [名] 仕合せわるきこと

不相應 [名] 釣合はぬこと

不親切 [名] 深切ならぬこと

不承知 [名] 承知せぬこと

不品行 [名] 品行のわるきこと

不正確 [名] 正確ならぬこと

不穿鑿 [名] 穿鑿の行き届かぬこと

振返 [名] 病が直りかけて又もとへかへる

振散 [名] ふりてちらす

振廻 [名] 振て廻す。物を處々へ持て歩く

降暮 [名] 日暮まで降り續く

降籠 [名] 雨雪など降りて人の外出を止む

降頻 [名] しきりに降る

古臭 [名] 甚だ古し

古古 [名] 極めてふるし

震聲 [名] ふるふ聲

無腑甲斐 [名] 氣概ない

無遠慮 [名] 遠慮なきこと

貳心 [名] 思ふ心の二様なること

觸廻 [名] 觸を傳へあるく

打通 [名] ぶつとほすこと

打飛 [名] 打ちてなげ飛ばす

物色 [名] 物の色。形と色とを索むること

物理学 [名] 理学の一般に

普通學 [名] 世間一般に通ずる學問

船遊 [名] 船に乗りて遊ぶ

船送 [名] 船に載せて送る

船廻 [名] 船にて送り届くる

船卸 [名] 新造の船を右めて水に卸し浮ぶ

船便 [名] 船のたより

船装 [名] 船を乗り出す支度

船渡 [名] 船にて人、物を渡すこと

糞詰 [名] 大便の滞りて通ぜぬこと

紛紛 [名] 物事の乱れもへれたる状に云語

芬芬 [名] 香の烈しき状に

憤然 [名] 心中に怒る状に

文會 [名] 文章杯を作りあふ爲に設たる會
文章 [名] 言葉を連らねて記したるもの
文飾 [名] かざること
文略 [名] 文句をばぶくこと
文弱 [名] おとなしく弱きこと
分割 [名] 分ちてさかひをたつること
分明 [名] 明かなること
分乘 [名] わかれて乗ること
分量 [名] かさ。めかた
扮飾 [名] 身をかざりたつること

風光 [名] 風色(フウシヨク)けしき
風評 [名] うばさ
馥郁 [副] 香の薫るさまに
復職 [名] もとの職へかへること
復活 [名] いきかへること
服従 [名] したがふこと
筆遣 [名] 筆を用ふる方法
吹返 [自] 風吹きてもどす
吹戻 [多] ふきもどすこと
吹通 [名] 風の吹き通すこと

噴上 [自] ふきて沸きあが
拭掃除 [名] 室内などを除すること
踏躰 [他] ふみあらす。ふみつふす
踏慣 [他] ふみてなるるや
伏拜 [他] ひれふして拜む
不調法 [名] つたなきこと
不料簡 [名] あしき心が
不明瞭 [名] 明瞭ならぬこと
不人情 [名] 人情にはづれたること
不取締 [名] 取締らぬこと

不知案内 [名] 案内を知らぬこと
不養生 [名] 養生をよくせぬこと
不行状 [名] 行状のよからぬこと
不行届 [名] 行届かぬこと
不性不性 [副] やいやいや
船改 [名] 船をくらべ改むること
分別盛 [名] 物事の道理をまふる年頃
紛失物 [名] まぎれ失せたる物
風俗歌 [名] 國々の風俗を歌へる歌

風袋倒 [名] 目方あるやうに見えてや見ゆるもの
袋叩 [名] 多人數にて一人を圍みてうちたたくこと
無腹藏 [形] つつみかくすことなし
副食物 [名] 飯の菜として食ふもの
此 [代] 最も近き事物を指示する語
小 [接] ちひさき細かなる僅等の意を示す語
濃 [接] 色の深き意を示すに用ふる語
戸 [接] 家數を數ふるに用ふる語

箇 [物] 物を數ふるに用ふる語
期 [名] とし。をり
御 [接] 他の事物に冠せて敬意を示すに用ふる語
後 [名] のち。あと
故 [接] 死せる人の姓名に冠らせていふ語
子 [接] 女子の名の下に添へて用ふる敬語
頃 [名] とし。時分
事 [名] わざ。しわざ。わけ
言 [名] ことば。物いひ

如ごと (助) ごとく。やうに

担こね (他) かきまぜてれる

凝こる (自) かたまる。寄りあつまる。一心になる。

懲こる (自) 過を悔いて後を戒む

括こる (他) 行李を作る。荷造りをす

是こは (代) 此、斯、之などの字(代)をも用ふ。最も近き事物を指していふ語

籠こむ (自) こもる。入る。人群り集まる

根こん (名) ねもと。事をなすに久しく堪え忍ぶ精神の力

獻こん (接) 西宴に盃を他にさす度数を示す語

今こん (名) いまのと云ふ意を示す語

功こう (名) いさを。てがら。

公こう (名) おほやげ。おもてむき。爵の名

公こう (接) 貴人の姓名に添へて尊稱に用ふる語

侯こう (名) 爵の名

紅こう (名) べにぞめ。くれなゐ

口こう (名) 人数を數ふるに用ふる語

此この (代) これなる。これの

扱く (他) 扱き落す。むしる

漕く (他) 漕を押しして舟をやる

焦こく (自) やけて黒くなる

石こく (接) 柁目を數ふるに用ふる語

極ごく (副) すぐれてこのうへな

乞こふ (他) 他に物を與へよと求む

請こふ (他) 事を願ひ望む

戀こふ (他) したひ思ふ

媚こふ (自) へつらふ。姿やさしく色めきてあり

聲こふ (名) 物の響の耳に感ずるもの

肥こふ (自) ふとる。太くなる

越こふ (名) 物の上に過ぎて行くまさる。過ぐ

濃こし (形) 色染めて深し。水分少し。茂く多し

期こし (自) かれて思ひ設く

古意こい (名) 古風の意

古雅こが (名) 古風にて雅致あること

古語こご (名) ふるきことば

古歌こか (名) ふるき歌

古史こし (名) 古代の歴史

古記こき (名) ふるきかきもの

古稀こき (名) 七十才の異稱

古儀こぎ (名) 古の儀式

故意こい (名) ことさらにする

故事こじ (名) 古への事。古より言傳へたること

語路ごろ (名) 言語、文章のいひまはし

語尾ごび (名) 文法上の語、言葉のしり

此者こは (代) これは

此方こち (代) こなた。こちら

此處ここ (代) 最も近き場所を指していふ語

糊塗こぬ (名) 事のはつきりとせぬこと

護持ごぢ (名) まもりたもつと

小間こま (接) 手がる細かなる等の意を示す語

孤負こふ (名) そむくこと

狐疑こぎ (名) 疑ひてためらふこと

鼓舞こぶ (名) 心を引立つること

誇負こぶ (名) じまんすること

後手ごて (名) 事をするに人に後るること

後世ごせ (名) のちのよ

御座ござ (名) 座の敬語。貴人の席。おまし所

胡坐ござ (名) あぐら

固辭ごじ (名) かたくなむと

轉ころよ (自) まるぶ。ころがる(俗語) 姪賣をたす

毀 こはし [名] こはすこと

強 こはし [形] かたし。つよし

怖 こはし [形] おそろし

拒 こばむ [他] 支へ防ぐ。抑へ止む

凍 こぼる [自] 水、油の類寒氣にあひて凝り固まる

零 こぼす [他] 漏らし落とす。くつがへし捨つ

零 こぼす [自] 苦情をいひて嘆く

如 ごとし [助] 物事を準へ比べてそれと同じといふ意を現す語

殊 ことごとし [副] 別段に。とりわけて一段と

毎 ごとし [接] 物事の各、然ある意を示す語(人毎に)

焦 こがる [自] 焼けて黒くなる。戀ひ慕ふ

應 こたへ [名] ひびき。ききめ

答 こたへ [名] こたふること

堪 こたへ [名] こらへ。たもつ

舉 こぞる [自] 悉くそろふ

刮 こそぐ [他] こすりけづる

懲 こらす [他] 懲るるやうにす

凝 こらす [他] 一方に寄せあつむ。凝るやうになす

混 こんが [自] まざる

困 こらす [自] こまる。なやむ

薨 こらす [自] 死ぬ。みまかる

候 こたへ [他] さふらふ。伺候す

肥 こふす [他] こえしむ。ふとらしむ

困 こらす [自] くるしむ

心 こころ [名] 動物の、事を考へ判断するなどの能力

跣 こむ [自] せやくまる。かがむ

凍 こぼる [自] 寒さに侵されて身こぼる

爰 こゝに [副] この場合に

此 こゝに [副] この處に

擦 こする [他] 押しつけてする

欠

欠

叩謝こうしゃ [名] 頭を地にたれて
 洪大こうだい [名] 大なること
 洪益こうえき [名] 大なる利益
 洪織こうせん [名] 大なると小なる
 洪恩こうおん [名] 大なる恩
 寇仇こうきり [名] 寇讎(コウシウ)
 恒久こうきう [名] 永きこと。久し
 攻撃こうげき [名] せめうつこと
 攻奪こうだつ [名] 攻めて奪ふこと
 攻守こうしゆ [名] せむると、守る

攻取こうしゆ [名] せめてとること
 攻陷こうかん [名] 攻め陥ること
 攻討こうたう [名] 攻め討つこと
 興奮こうふん [名] 心を奮ひ起すと
 興衰こうすい [名] 興ると衰ふると
 興亡こうぼう [名] 興ると亡ぶると
 興廢こうはい [名] おこるとすたる
 購讀こうどく [名] 書物などを買ひ
 購買こうばい [名] 購求(コウキウ)
 倥傯こうぜん [名] いそがはしきこ

此方このかた [代] その時より後。
 此度このたび [名] こたび。こんど
 此後このち [名] これより後
 此頃このころ [名] 此程(コノホド)
 極極ごくごく [副] きはめて
 極惡ごくあく [名] 極めて悪しきこ
 極隨ごくずい [名] この上なく
 極製ごくせい [名] 極上の製造
 極内ごくない [名] 極めて秘密なる
 極熱ごくねつ [名] 極めて熱きこと

極貧 [名] 極めて貧しきこと
 極品 [名] 極めてよき品
 極樂 [名] 極めて楽しきこと
 極信 [名] 極めて信實なること
 國安 [名] 國の安らかなるること
 國運 [名] 國の運命
 國益 [名] 國の利益
 國恩 [名] その國に生れて恩に於てある恩
 國學 [名] その國の學問
 國權 [名] 國の權。國の勢

國憲 [名] その國の憲法
 國際 [名] 國と國との交際
 國產 [名] その國の産物
 國粹 [名] その國の長所
 國政 [名] 一國の政事
 國勢 [名] 一國の形勢
 國稅 [名] 政府に納むる稅
 國籍 [名] 國家の保護を受くべき資格
 國體 [名] くにがら
 國風 [名] その國の風俗

國亂 [名] 一國中のみだれ
 國用 [名] 政府の國事に費す費用
 國論 [名] 國人一致の論
 黑影 [名] 黒き影
 刻薄 [名] むごく辛きこと
 刻心 [名] 心に忘れぬやうにとめおくこと
 刻削 [名] きりきざむこと
 刻暴 [名] むごく
 酷烈 [名] きびしきこと
 酷刑 [名] むごき刑罰

酷責 [名] きびしく責むること
 告發 [名] あげき告ぐること
 告戒 [名] 告げ戒むること
 告問 [名] 安否をたづぬること
 心得 [名] 心得ること。さとり
 心根 [名] 心の底。心の奥
 漕出 [名] 舟を漕ぎて岸を離れ出づ
 故郷 [名] ふるさと
 沽脚 [名] 賣り拂ふこと
 込合 [名] あまた群がる

腰揚 [名] 着物を腰の邊に縫込置くこと
 腰細 [名] 腰の細やかなること
 故障 [名] さはり。さしつかへ
 呼稱 [名] 呼びとなふること
 扈從 [名] 其人のともをなす
 媚附 [名] 媚びて従ふ
 悉 [副] すべて。みな
 志 [名] こころざすこと。おしるしとしての贈物
 試 [副] もいのためしに
 意 [名] 心の動くおもむき。おもひこみ

快 [形] こころよし。病癒えてあり
 轉轉 [副] 物のころがり行
 衣更 [名] 時候のかはる毎に
 恐恐 [副] おそろしく思ひながら
 强强 [形] かつし。あらし
 強意見 [名] きびしく意見すること
 壞物 [名] こはれたる品物
 異様 [副] ことなるさまに
 殊更 [副] わざと。わざわざ
 事事 [形] 仰山なり。たいそうらし

詞質 [名] 他の言へる言葉
を後の證據に取ること

懲懲 [副] 深く懲りたるさまに
いふ語

凝性 [名] 物事に深く心を
傾くる性質

焦死 [名] 火に焼けて死ぬ
ること。戀に煩ひて死ぬること

小寄合 [名] 小人数の寄
合

小口刻 [名] 木のたてめ
にする彫刻

小口切 [名] 小口より漸
次に切りゆ

小商 [名] いささかなる商
賣

小才覺 [名] ちよつとし
たる才覺

御用物 [名] 官府、貴人
などの用に供する物の敬稱

御用達 [名] 官府貴人の
入して用をたすこと

御尤 [副] 他の言葉の理あ
る時にいふ語

忽然 [副] 忽焉(コツエン
ト)たちまうに

粉粉 [副] 粉の如く細かに

骨頂 [名] この上もなきこ
と

根限 [副] 氣根のあるかぎ
り

根比 [名] 互に精根を比べ
あふこと

混混 [副] 水の涌き流れつ
きざるさまにいふ語

混沌 [副] かつまらすに。
まららかに

懇懇 [副] れんごろに。く
れんぐれと

懇情 [名] れんごろなる心

懇願 [名] ひたすら願ひ望
むこと

滾滾 [副] 渾渾。混混に同
じ

困却 [名] くるしむこと。
なやむこと

困辱 [名] 苦しみ辱めらる
ること

根性 [名] こころだて。こ
ころれ。

今回 [名] このたび。こん
ど

今生 [名] 今の世に生れ出
でてあること

言上 [名] 申し上ぐること

業晒 [名] 世間に恥を晒す
こと

口外 [名] 言葉に出して語
ること

口上 [名] 言葉にて事を言
ひ傳ふること

口述 [名] 口にて述ぶるこ
と

公評 [名] 世間の人人の評
判

公會 [名] おほやけの會議

公證 [名] おほやけなる證
明

公共 [名] 世上公衆のとも
にする事

工匠 [名] たくみ

後患 [名] のちのうれへ

後悔 [名] 前に行ひたる事
を後に悔ゆること

興行 [名] 見物人を集めて
芝居相撲など行ふこと

興隆 [名] さかりに興ると

恒常 [名] あたりまへ。つ
れ

構外 [名] かまへの外

厚情 [名] あつきなさけ

功名 [名] 功を立て名を揚
ぐる事

酷評 [名] おだやかならぬ
批評

酷虐 [名] むごきこと

黑白 [名] 黒と白と。善き
と悪しきと

困入 [名] 甚だ困る

細細 [副] こまかく。小さ
く。くぼしく

焦臭 [形] 焦げたる臭あり

固形體 [名] 分子間の凝
集力強くて固まれるもの稱

心寄 [名] 心を傾くること
ひいきすること

心好 [名] 悪意なき代りに
氣働きなきこと

心遣 [名] 思ひをばらすこ
と

心病 [名] 思ひわづらふこ
と

心持 [名] 心に感ずるぐあ
い

心附 (名) 心をつくること

心附 (名) 思ひ得ること。

心立 (名) こころばへ

心添 (名) 他人に思案をそへて教ふること

心組 (名) かねて思ひ設く

心柄 (名) 心のさま

心掛 (名) 心掛くこと

心置 (自) 心のさまにならす。心配す

心置 (名) 心がかり

心入 (名) おもひこみ。氣をつくること

心意氣 (名) 心ばへ。心

凍死 (名) 寒氣に犯されて死ぬること

聲變 (名) 音聲の變ること

聲聲 (副) 多くの人が聲をそへて

請願 (他) 請ひ求む

媚附 (自) 柔かきものが他の儘固まる

屑屑 (副) 寛大ならぬ状にいふ語

小競合 (名) 少しせりあふこと

擦付 (他) 力を入れてぬりつく

戸數割 (名) 戸毎に割りなことを課すること

強談判 (名) 手ひどき談判

溢幸 (名) 思ひがけぬ幸福

事細 (副) 委しく。詳かに

事少 (副) 用事をばふきて手軽く

不爲事 (句) 物事を氣にかけぬさま

詞咎 (名) 他の言ひ損ひを告むること

詞遣 (名) 物いふさま

詞違 (名) いひちがへ

詞争 (名) 口論すること

殊外 (副) 常にかはりて。思ふに違ひて。

言新 (副) 言語新らしく

凝固 (自) 集りて固くなる。一途に思ひ込む

古往今來 (副) 昔も今も後世

骨相學 (名) 骨相を見て人の性質運命などを知る學問

粉微塵 (副) 粉の如く細かく

堪情 (名) こらへ忍ぶ意地

腓返 (名) 腓の筋肉のひきつるること

金輪際 (名) その底まで。どこまでも

金剛力 (名) 仁王の如き大力

混合物 (名) まじりもの

懇親會 (名) 懇親を結ぶ爲に開く會

言語同斷 (名) 言葉にきやうもなきこと

公賣處分 (名) 人民の財産を公賣に附すること

公民權 (名) 公民たる權利

口述試験 (名) 口頭にて問題を答をなさしむること

口頭辯論 (名) 原被告口頭にて辯論せしむること

國民分限 (名) 國民たる身分

心可笑 (形) 心中にてをてあり

心弱 (形) 氣強からずあり

心用意 (名) 心がまへ

心懷 (形) 他の心をゆかしと思ひてあり

心安 (形) 安心なり。きづまじ

心安立 (名) 親きになれて遠慮なきこと

心待 (副) もしやと心の中にて待ちて

心任 (名) 思のままに

心細 (形) 頼み少く思はれてあり。物淋し

心殘 [名] 思ひ切れぬこと
心強 [形] きづよし
心遣 [名] こころくばり。
心便 [名] 心の中いたのみ
心後 [名] 心の臆すること
心静 [副] おちつきて
心障 [名] 心にさばること
心苦 [形] きづかほし。心
心構 [名] かわて心に待ち
心變 [名] 思ひの他へ移る

心懸 [名] きがかり。きづ
心覺 [名] 心に忘れぬこと
心急 [名] 心のせかること
心當 [名] おしほかりの見
心得違 [名] 思ひ誤りて
心一杯 [副] 心のままに
不心 [副] 本意にあらずし
無許心 [形] おぼつかな
於是 [接] このゆゑに。こ
古今獨歩 [名] 昔より
 間にたぬしなきこと

請願 [副] こひれがふには
會 [名] 佛の祭などにて多人
榮 [名] さかえ。ほまれ
鋭 [名] するどきこと
詠 [名] うたふこと
彫 [他] ほりつく。ちりばむ
悅 [名] うれしがること。う
謁 [名] 貴人にまみゆること
閱 [名] 他の著書などをあら

笑 [自] 笑を含む。少し笑ふ。
縁 [名] づきあひ
椽 [名] 母屋の端。えんがは
艶 [名] あだめきて優美なる
宴 [名] 酒食歌舞などして興
圓 [名] まろきと。金錢の高
苑 [名] その。には
冤 [名] 無實の罪を被むるこ
醉 [自] 酒を飲みて心うかる
得 [副] ややもすれば

驛 [名] うまや。宿場
益 [名] まうげ。とく。世の
笑 [名] 笑を含むこと
依怙 [名] 一方へのみ盡
映 [自] 反對してうつる
畫 [他] 繪に寫す
謁 [自] 貴人にまみゆ
選 [他] 見分て抜きとる
偉 [形] すぐれたり。仰山な
艶 [副] はなやかに。あだめ

怨 [他] うらむ
劄 [他] 突きこみて廻す
壓 [名] 笑ふ時指にて押した
英語 [名] 英吉利西國の言
英氣 [名] するどき氣象
英志 [名] すぐれたる志
英姿 [名] すぐれたる姿
英武 [名] すぐれてたけだ
英偉 [名] すぐれたること
英智 [名] すぐれて智慧あ

榮枯 [名] さかゆると衰ふ
榮譽 [名] よききこえ。ほまれ
叡智 [名] すぐれてするどき智慧
詠歌 [名] 歌を詠み作ること
穎悟 [名] かしこきこと
贏利 [名] 残りの利益
贏餘 [名] 物のあまり
銳利 [名] するどきこと
銳氣 [名] するどき氣象
營利 [名] 金銭のまうけを計ること

會得 [名] その意を悟り得たること
餌飼 [名] 鳥獸などを餌を與へて飼ひならすこと
枝葉 [名] 枝と葉と。物事の本分ならぬこと
笑壺 [名] 笑ひ興じ。最中なること
悦喜 [名] よろこぶこと
緣起 [名] きざし。しるし。祝ひ。ことぶき
緣故 [名] ゆかり。ちなみ
厭棄 [名] いとひすつること
厭苦 [名] いとひくるしむこと
延期 [名] 期限を延ばすこと

延祚 [名] 天皇の御位の永く續き給ふこと
冤死 [名] 無實の罪を被りて死ぬること
演義 [名] 書物などの意義を敷延してとくこと
遠路 [名] 遠き路
遠志 [名] 遠大なる志
遠邇 [名] 遠きと近きと
援護 [名] たすけまもること
衍字 [名] あまり字。餘計なる文字
依怙地 [名] かつたいぢ
回向 [名] 讀經して亡者の追福を祈ること

四言

驛路 [名] うまやぢ。しゆくば
會式 [名] 寺院に於て行ふ佛事
柄漏 [名] 雨水の傘の柄を傳ひてもること
衣紋 [名] 衣服の襟を合せたる部分
曳聲 [名] 力を入るる時にエイと發する聲
英學 [名] 英吉利西の書物を研究する學問
英文 [名] 英國の文字にて記したる文章
英式 [名] 英吉利西國の法式
英才 [名] 極めてすぐれたる才
英斷 [名] 思ひ切りよく決斷すること

叡感 [名] 天皇の感じ給ふこと
叡聖 [名] 天皇のかしこくましますこと
叡聞 [名] 天皇の聞こし召し給ふこと
永訣 [名] ながきわかれ
永世 [名] 永代(エイタイ)ながき世。かぎりなき世
永續 [名] ながくつづくこと
永眠 [名] 死ぬること
永久 [名] 永く久しきこと
永安 [名] 久しき間の太平
永制 [名] 永代のさきて

銳進 [名] するどく進むこと
銳敏 [名] さとくするどきこと
銳鈍 [名] するどきとにぶきと
影向 [名] 佛敎の語。佛などの姿を現すと
詠吟 [名] 詩歌などをうたふこと
詠進 [名] 歌を詠みて朝廷奉ること
榮華 [名] 官位高く福祿盛なること
榮養 [名] 身のやしなひとなること
榮幸 [名] しあはせよくさかゆること
榮達 [名] しあはせよく出世すること

榮顯 [名] さかへてほまれを受くること
榮進 [名] しあはせよくて位官杯の進むこと
榮轉 [名] しはせよくて他のよき役に轉ずること
營繕 [名] つくろひ。冬復
營立 [名] 造り建つること
營業 [名] なりはひ。よわたり
盈虚 [名] みつるとかくなる
衛生 [名] 衣食住に注意して身の健康を害せぬこと
衛戍 [名] まもること
映射 [名] 光のうつること

襟付 [名] 襟のやうす
選抜 [名] えりぬくこと。えりぬきたる物
選取 [名] えりとること
悦服 [名] よろこび従ふこと
閱覽 [名] しらへ見る
謁見 [名] 高貴の人にまみゆること
縁組 [名] 夫婦又は養子女等の縁を組むこと
縁切 [名] 親子、兄弟、夫婦断つこと
縁引 [名] 親族の關係あること
縁付 [名] えんづくこと

縁盡 [名] 縁次第にすること
縁談 [名] 夫婦又は養子女などの縁を結ばしむる相談
延焼 [名] 火災のもえひろむること
延引 [名] 約したる日限より延びたること
延見 [名] 面會を求むる人を延き入れてあはむること
延壽 [名] 壽命をのげすこと
延滞 [名] 物事の延び滞りてはかどらぬこと
沿革 [名] 世態のうつりかへり
烟塵 [名] ちりほこり
烟燄 [名] けむりとほのぼ

鉛槧 [名] 文筆にたづさはること
演藝 [名] 落語、講談、芝居杯總て遊藝の稱
演劇 [名] 芝居
演説 [名] 素人の前にておの意見述べること
演奏 [名] 音楽をかなづること
演題 [名] 演説の題目
演壇 [名] 演説する人の立つところ
艶言 [名] あだめきたる言葉
艶書 [名] いろぶみ
艶麗 [名] つや／＼としてうるはしきこと

艶聞 [名] 色めきたるうはさ
艶粧 [名] やさしきよそはひ
冤罪 [名] 冤枉(エンソウ)無實の罪
鹽分 [名] しほけ
鹽稅 [名] しほの稅
炎暑 [名] 夏のあつさ
炎熱 [名] 暑中のあつさ
炎火 [名] さかんにもゆる火
厭世 [名] この世を厭ふこと
厭聞 [名] 聞きあくこと

宴飲 [名] さかもり
宴佚 [名] 遊び楽しむこと
宴樂 [名] 酒を飲みて楽しむこと
宴安 [名] たのしみ安んずること
遠行 [名] 遠くへ行くこと
遠望 [名] 遠く隔りたることを見る
遠景 [名] 遠見のけしき
遠足 [名] 運動のために遠路を歩むこと
遠來 [名] 遠方より來ること
遠慮 [名] 遠きおもんばかり。人に對して物事を控日にすること

遠謀 [名] 遠く謀ること

遠隔 [名] 遠く隔たること

遠大 [名] 遠く大なること

遠因 [名] 物事の生ずるもとの遠きこと

援助 [名] すぐひたすこと

圓形 [名] まろき形

圓満 [名] 十分に満ち足りてあること

圓徑 [名] 圓きもの。さしわたし

園藝 [名] 庭園を築造する技術

宛然 [副] さながら

宛轉 [名] 動きさまのやさしきこと

怨望 [名] うらめしく思ふこと

怨言 [名] うらみの言葉

怨恨 [名] うらむこと

怨隙 [名] うらみてなつかあしきこと

淵源 [名] ふちとみなもと物事の基く所

淵然 [副] 静かなる状に。深き状に

掩滯 [名] 物事の滯ること

掩殺 [名] 不意に撃ちて殺すこと

得手物 [名] 最も上手なるもの

易學 [名] うらなひの學問

會釋 [名] うなづくこと。あいさつ

僻事 [名] よからぬこと

僻物 [名] 似て非なるもの

營營 [副] 心身を勞する状に。いふ語

永遠 [副] 遠く永く。すま

永住 [名] ながく住むこと

榮職 [名] ほまれある官職

榮辱 [名] ほまれを受くる。とばづかしめを受くる

榮爵 [名] ほまれある爵位

影響 [名] 影と響と。ある事柄の他の事にまでひびくこと

選出 [他] えらびて取り出す

選嫌 [名] 好き嫌ひのこと

緣遠 [形] 夫婦の縁を得ること遅し

延長 [名] 長く延ばすこと

宴會 [名] 友人知人など相集りて酒宴を開くこと

圓滑 [名] 交情、談判などの穩かにさだたぬこと

婉曲 [名] やさしくやはらかなること

得手勝手 [名] 我儘なること

醉潰 [自] 大酔して身も動かぬやうになる

醉腐 [自] あくまで酔ふ

醉心地 [名] 酒に酔ひたる時の心地

榮譽引受 [名] 法語第三者なす手形引受の稱

營養分 [名] 身の養ひとなるもの

延命息災 [名] 命なげなすこと。災難

演說會 [名] 演説をなす集むること

園遊會 [名] 多くの客を招きて庭上にて饗應すること

手 [接] 手づから行ふ意を示すに用ふる語

出 [名] 出づること。かさの多きこと

邸 [名] やしき

悌 [名] よく兄につかふること

亭 [名] あづまや。小き家の稱

程 [名] ほど。ほどあひ。路のり。ゆくて

貞 [名] 女のみきを

照 [名] 日光のさすこと。光澤のあること

出 [自] いづ。あらはる

點 [名] 目じるしにつくる小すべきふし。く圓き標。人の非難

奠 [名] まつり

傳 [名] 人の一代の事を記したるもの

朝 [名] 朝廷。御代。

調 [名] 音楽の調子

兆 [名] きざし。しるし

兆 [接] 億の十倍。數へ盡せぬ大數にいふ語

條 [名] すぢ。くだり。に就きて。に因りて

牒 [名] 官府のまはしふみ

帖 [接] ある一定の枚數を束ねたる紙を數ふる語

貼 [接] 紙に包みたる散藥を數ふる語

疊 [接] 疊を數ふるに用ふる語

出端 [名] 立ち出づるとた

出來 [名] 顯れ出づ。作て成る。すること

手間 [名] その事をなすに費す暇

呈 [名] あらはす。人に物を贈る

徹 [名] とりのく。とほる

朝 [名] 朝廷へ來る

街 [名] 他人に誇り示す。みせびらかす

照 [名] 物に光を與ふ。見合す

敵 [名] あひてとなること

適 [副] かなふ

恬 [副] 氣にもかけぬ状にいふ語

吊 [名] 死者をとぶらふ

調 [名] とりしらぶ。ととのふ

牒 [名] 官府のふだを送りやる

朝賀 [名] 正月元日朝廷へ來りて祝賀を申すこと

朝儀 [名] 朝廷の儀式

朝威 [名] 朝廷の威力

朝野 [名] 朝廷と民間と

朝意 [名] 朝廷のおみこみ

調査 [名] 取調ぶること

調子 [名] 樂器の音の程合

調味 [名] 食物に味を添ふる

調理 [名] 程よく事を整へ治むること

調賦 [名] んぐつもの。ねんぐつもの

調和 [名] ととのへやはらぐこと。程よく和合すること

弔詞 [名] くやみの意を記せる詞

弔慰 [名] 死者をとぶらふこと

條理 [名] 事のすぢみち

嘲罵 [名] あざけりののしること

貼付 [名] 糊などにてはりつけること

跳舞 [名] をどりまはる。はねをどると

跳起 [名] はれおきること

諜知 [名] うかがひ知ること

手活 [名] 手づから花を花瓶にさすこと

手入 [名] つくろひ。なほし

手筈 [名] てくばり。てじゆん

手張 [名] 仕事おのが分に過ぐ。手に餘る

手褒 [名] 自分をほむること

手捕 [名] 素手にて捕ふる

手落 [名] まちがひ。てぬけ

手置 [名] 心を用ひて取扱ひ置くこと

手負 [名] 戦ひて劍を負ふこと

手分 [名] 仕事をわけてめい／＼にする

手業 [名] 手にてする仕事

手輕 [名] たやすきこと

手數 [名] てまの多くかか

手柄 [名] いさを。ほまれ

手出 [名] 我より先づ仕事に關係すること

手段 [名] しかた。てくだ

手練 [名] はかりごと
手附 [名] 手のさま。人の仕事をするもの
手詰 [名] 厳しく詰め寄すること
手蔓 [名] てがかり。つて
手馴 [名] 手なれたること
手並 [名] わざのほど。う
手延 [名] なすべき事の機に後ること
手癖 [名] 手にてなすわざにつきたるくせ
手管 [名] 人をあつかふか
手實 [名] 手細工に巧なること。まめには

手真似 [名] 手にてそのまねること
手振 [名] 手に何物も持たぬこと
手頃 [名] おのが力になるほどの物事
手込 [名] 他の承諾なきに又は持物を損すること
手明 [名] ひまなること
手當 [名] そのために支度する金銭
手荒 [名] 扱ひ方のあらきこと
手利 [名] 手技の敏くて巧なること
手切 [名] その事につき關係を絶つこと

手廣 [名] 手びろきこと
手引 [名] 他の手を引きて導くこと。案内
手持 [名] 物の取扱ひ
手許 [名] 手の届くあたり
手製 [名] てづくり
手狭 [名] 家などの狭きこと
手透 [名] 仕事のひま
出入 [名] いづるといふと受て出入すること
出花 [名] 茶を煮たる初めに香味のよきと
出端 [名] 外出せんとするに及ば

出張 [名] 出張ること
出掛 [名] 出でんとする時
出初 [名] 初めて出でること
出合 [名] 互に出會ふこと
出切 [名] 残らず出づ
出際 [名] 出立のきは
出水 [名] 降雨のため川に増すこと
出過 [名] 分を越えてさし出づること
定價 [名] 定まりたる價
定期 [名] 定まりたる期限

定義 [名] すべて事實の意を現はしたるもの
定理 [名] 物事の定まりたる道理
定議 [名] 定まりたる議論
定規 [名] さだめの規則
帝位 [名] 帝祚(テイソ)天皇の御位
低價 [名] 價のやすきこと
低語 [名] ひそびそばなし
低飛 [名] ひくくとぶこと
貞固 [名] かたくただしきこと
貞雅 [名] しとやかなること

偵選 [名] しのびまはり
偵知 [名] 探偵して知ること
偵視 [名] うかがひ見ること
提起 [名] ひつさげ起すこと
提議 [名] 提出したる議論
程度 [名] ほどあひ
廷議 [名] 朝廷にての評議
抵牾 [名] つきあたること
停止 [名] とどむること
睇視 [名] 諦視(テイシ)見つむること

底止 [名] とどまること

呈示 [名] しめすこと

失興 [自語] 興がさむる(俗)

哲理 [名] 靈妙なる道理

徹夜 [名] 夜どほし

天意 [名] 天のこころ

天下 [名] あめがした。世界。其國內の稱

天氣 [名] そらのけはひ

天資 [名] 天賦(テンプ) うまれつき

天地 [名] 天と地と。物の上下。うへした

天理 [名] 天然の道理

天利 [名] 貸金の利子を貸す時元金の中より引去ること

轉語 [名] なまれることば

轉地 [名] 場所をかふるこ

轉徙 [名] うつること

電話 [名] 電話機によりて遠方の人と談話すること

傳語 [名] ことづて

傳知 [名] 聞き傳へて知る

傳播 [名] つたはりひろまること

添加 [名] そへ加ふるこ

添附 [名] そふるこ

點示 [名] 指し示すこと

點汚 [名] よごれ。けがれ

諂諛 [名] こびへつらふこと

敵意 [名] 敵討せんとする心

敵視 [名] 敵と思ふこと

適意 [名] 心になふこと

適宜 [名] ほどよきこと

適度 [名] ほどになふこと

適否 [名] かなふと、かなはぬと

四

溺死 [名] 水に溺れて死ぬること

手 [副] わが手にて。自身に

貼用 [名] はりつけ用ふる

朝恩 [名] 天子の恩

朝參 [名] 朝廷へ参ること

朝命 [名] 朝廷の命令

朝憲 [名] 朝廷にて定められたる法律

朝謁 [名] 天子に見ゆること

朝譴 [名] 朝廷よりの譴責

朝裁 [名] 朝廷の裁判

朝政 [名] 朝廷の政事

朝聘 [名] 朝廷より召し出さるること

調印 [名] 印を押すこと

調合 [名] 薬などを盛ること

調和 [名] ととのへやはら

調進 [名] あつらへものゝ調のへ参らすこと

調達 [名] 金子品物などを取り揃て送ること

調停 [名] 仲直りすること

調伏 [名] 人を呪ふこと

調法 [名] 用ひて便利なること

調諧 [名] やばらぐこと

調整 [名] ととのふること

調製 [名] ととのへつくる

超過 [名] 他に超ゆること。程を過ぐるこ

超歳 [名] 年を超ゆること

超群 [名] 群にすぐれてあること

超越 [名] すぐるること。こゆること

超進 [名] こえて進むこと

超世 [名] 世にすぐれたること

超絶 [名] たちまさること

超遷 (名) のぼりうつること
超然 (副) ぬきんでて。たちこえて
超脱 (名) ぬきんずる事。とびこゆること
超倫 (名) 普通にすぐれたること
條分 (名) 細かに分るること
條件 (名) くだり。事のかど
條約 (名) 條目を設けて約束すること
條緒 (名) すぐみらのつくこと
彫刻 (名) ほりものをする
彫嵌 (名) ほりはむること

嘲弄 (名) あざけりなぶること
弔祭 (名) 弔ひ祭ること
兆候 (名) きざし。しるし
肇造 (名) はじめて造ること
挑戦 (名) 戦をしかくること
挑剔 (名) えぐりくじること
挑發 (名) おだつること
糶糶 (名) 米をうりかひすること
眺望 (名) ながめのぞくこと
眺臨 (名) 下を見おろすこと

跳躍 (名) をどりあがること
凋弊 (名) おとろへやぶること
凋衰 (名) しほみ衰ふること
嘲笑 (名) あざけり笑ふこと
手不入 (名) 手のかからぬこと。未だ一度も用ひざること
手放 (名) 手を添へずしてあること
手早 (形) 事をなすに疾し
手始 (名) 事をするはじめ
手近 (形) 手の届くばかりに近し
手違 (名) することの違ひたること

手緩 (形) なすこと鋭からず
手後 (名) その時機におくれたること
手覺 (名) てごころを覺えて居ること
手渡 (名) 手づから親しく授くること
手懸 (名) よすが。てづる
手堅 (形) なすこと慥かにてあやふからず
手輕 (形) なすにたやすし
手加減 (名) よき程あひ
手助 (名) 他の仕事を助くること
手握 (名) 食物を箸を用ひすに手にてつかむこと

手作 (名) 手づから作ること
手傳 (名) 他の仕事をたすくること
手續 (名) その事をなす順序
手都合 (名) 手もとの都合
手習 (名) 文字をかくこと。なまなぶこと
手馴 (他) てなづけてならす
手懐 (他) なづけてしたします
手手 (名) おのおの。めいめい
手向 (名) てむかふこと
手薄 (形) 取扱方不親切なり

手内 (名) たなごころ。うでまへ
手配 (名) したく。そなへ
手廻 (名) その事の起らぬ前に支度すること
手招 (名) 手にて招くこと
手枕 (名) 腕を曲げて枕にする
手間賃 (名) 仕事の料に取る錢
手間取 (自) ひまがかか
手強 (形) 相手として勝ち難し
手厚 (形) れんごろなり
手當 (名) 手に觸れ當る。手に觸るる感じ

手餘 (他) もてあます
 手荒 (形) 扱ふことあらし
 手障 (名) 手に觸るる感じ
 手探 (名) 暗夜などに手先
 手細工 (名) 手先にてす
 手厳 (形) しわざきびし
 手綺麗 (名) てぎはのよ
 手酌 (名) 酒を飲むに手づ
 手仕事 (名) 手にてする
 手酷 (形) ていたし。てづ

手廣 (形) 構廣し。なす
 手控 (名) 手許に控として
 手縛 (名) ざつ。こた。こん
 帝京 (名) みやこ
 帝國 (名) 皇帝の知し召す
 帝道 (名) 天皇の行はせ給
 定額 (名) 定まりたるたか
 定見 (名) 定まりたる見識
 定限 (名) 定め。かぎり
 定數 (名) 定まりたる數。
 自然の運命

定說 (名) 定まりたる説
 定則 (名) 定律(テイリツ)
 定例 (名) 定まりたる規則
 定論 (名) 常のさだめ
 定論 (名) 定まりたる議論
 低音 (名) 低聲(テイセイ)
 低減 (名) ひくき聲
 低廉 (名) へらすこと
 低頭 (名) 頭をさぐる
 低落 (名) 物價などのさが
 停學 (名) 學問すること
 止むること

停車 (名) 車をとどむること
 停滯 (名) とどまほること
 停廢 (名) やむること
 停立 (名) 立ちどまること
 庭訓 (名) 親のをしへ
 庭前 (名) 庭除(テイザヨ)
 貞烈 (名) みさをただしき
 貞操 (名) 貞節(テイセツ)
 貞心 (名) ただしき心
 貞實 (名) 女のみさをただし
 しくまめなること

提携 (名) ひつさぐる事
 丁寧 (名) んごるなること
 締結 (名) 締約(テイヤク)
 聽許 (名) ゆるすこと
 聽認 (名) ききいれること
 啼哭 (名) なきかなしむこと
 啼號 (名) なきさげぶこと
 遞信 (名) 宿つぎにて信
 遞送 (名) 次第に繼ぎ送る
 遞減 (名) 次第に減すること

抵抗 (名) はむかひ。てむ
 抵當 (名) ひきあてにする
 邸宅 (名) いへやしき
 體裁 (名) ありさま。すが
 挺身 (名) 衆人の中より獨
 りぬき出でて先
 訂正 (名) 誤字などを調べ
 替廢 (名) かはりすたること
 碇泊 (名) 碇をおろしてと
 碇泊 (名) まること
 逮縛 (名) からめとること
 睇眄 (名) かへりみること

泥酔 [名] 甚だしく酔ふこと

出拂 [自] 残りなく出で行

出稼 [名] 郷を去り他所に往きて稼ぐこと

出替 [名] 入るものと出るものとありて代り合ふこと

出鱈目 [名] 眞偽にかまかまかせて語ること

出揃 [名] 悉く揃ひて出づること

出會 [自] ふと出であふ

出来事 [名] ふと起りたる事柄

出来様 [名] 出来たる有様

出来高 [名] あがりだつた出来上りの體裁

出来榮 [名] 出来上りのよきこと

照合 [自] 双方より光り合ふ。比べて互に合ふ

照付 [自] 烈しく照る

鐵心 [名] かたき心

哲學 [名] 宇宙に於て無形研究する高尙なる學問

徹底 [名] そこまでとどくこと

徹去 [名] 取り去ること

迭代 [名] 入りかはること

天運 [名] 自然のまはりあはせ

天淵 [名] 兩者の大に差あるに譬へて云語

天恩 [名] 天のめぐみ

天工 [名] 天のしわざ

天候 [名] そら模様

天災 [名] 天のわざはひ地震風洪水火災等

天才 [名] 生れつきの才智

天壽 [名] 定りたる壽命

天授 [名] 天より授かること

天瑞 [名] 天然のめでたきしるし

天性 [名] 天質(テンシツ)うまれつき

天生 [名] 自然に生ずること

天然 [名] おのづからなること

天罰 [名] 天のとがめ

天命 [名] 天然のめぐりあはせ

天覽 [名] 天皇のみそなはすこと

天幸 [名] 自然のさいはひ

轉壓 [名] まるばしておしつけること

轉閱 [名] 書物などをくりかへし見ること

轉居 [名] 住居を他へ移すこと

轉訛 [名] 言葉のなまること

轉送 [名] 荷物を宿次にて送ること

轉貸 [名] 他人より借りたるものを又他人へ貸すこと

轉替 [名] くりかふること

轉動 [名] ふしまるぶこと

轉變 [名] 物事の移りかはること

轉學 [名] 師、又は學校を變へて學ぶこと

轉任 [名] 他の官職に轉ずること

轉用 [名] くりかへ。ゆうづう

轉運 [名] まはりめぐること

傳受 [名] 藝術の奥義などを傳へ受くること

傳言 [名] 傳聲(デンセイ)ことづて

傳寫 [名] 文字のまたうつし

傳説 [名] うばさ

傳染 [名] うつりつたはること

傳道 [名] 道を傳ふること

傳達 [名] 人より人へ傳へること

傳聞 [名] 人づてに聞くこと

傳法 [名] 佛法を傳ふること

傳命 [名] 傳令(デンレイ)命令を傳ふること

傳來 [名] 傳へ來ること

傳覽 [名] 傳へて見ること

傳送 [名] 傳へ送ること

傳信 [名] 信を傳ふること

展閱 [名] ひらきけみする

展舒 [名] のばすこと

展覽 [名] 物を陳列して見

展開 [名] のべひらくこと

田間 [名] 田圃のほとり。

田作 [名] 田を作ること

電信 [名] 電信機によりて通ずる音信

點火 [名] 火をともしること

點檢 [名] しらぶること

點茶 [名] 抹茶を湯にたつ

點頭 [名] うなづくこと

典型 [名] おきて。てほん

典賣 [名] 質賣すること

典禮 [名] ぎしき

添削 [名] 詩歌文章などを

顛倒 [名] さかさまになる

顛跌 [名] つまづくこと

顛覆 [名] ひつくりかへる

顛末 [名] はじめをばり

顛墜 [名] くつがへりおつ

殄戮 [名] ほろぼしつくす

殄殺 [名] ころしたやすこ

纏綿 [名] からまること

纏綿 [名] からみつくこと。情緒の長きこと

靦慚 [名] 面をあからめてはづること

靦顏 [名] はぢて面をあからむること

店頭 [名] 店前(テンセン)みせ

規候 [名] れらひうかがふ

甜言 [名] あまきことば

恬安 [名] やすきこと

恬靜 [名] しづかなること

恬淡 [名] 心靜かに慾心少なきこと

敵對 [名] てむかひ。はむ

適應 [名] よくかなふこと

適心 [名] 心になふこと

適切 [名] よくあてはまる

適當 [名] そのものによく

適任 [名] そのつとめによ

適法 [名] 法になふこと

適用 [名] あてはめ用ふる

適例 [名] その事によくか

適齡 [名] 其事業に従事す

適合 [名] よくかなふこと

摘要 [名] 肝要の處を摘み

摘載 [名] 肝要の處を摘み

摘撮 [名] 肝要の處を摘む

擧發 [名] あばくこと

溺淫 [名] 女色におぼる

溺没 [名] おぼれて死ぬ

溺水 [名] 水におぼるこ

的實 [名] まこと

的察 [名] よくみぬくこと

的例 [名] よくかなへる例

的確 [名] たしかなること

滌蕩 [名] あらひきよむ

擢用 [名] ねきんでて用ふ

擢拔 [名] めきあぐること
 滴落 [名] したたりおつる
 靦面 [副] まのあたりに
 倜儻 [名] すぐれてあること
 手一杯 [副] なし得るか
 手捷 [形] なすこと手早く
 手餘 [句] おのが力にては自由にならず
 手丈夫 [名] すべて堅固なること
 手柄顔 [名] ほこりがほ
 手序 [副] その事を行ふついでに

手附金 [名] 手附として賣主に渡す
 手慰 [名] てあそび。てす
 手賄 [名] わがてにてする
 手間仕事 [名] 手間賃
 手前味噌 [名] おのがかりをほむること
 手拵 [名] 手づから拵ふるへたるもの
 手過 [名] 手にてあやまつ
 手切金 [名] 手切をなす爲に出す金

手短 [副] かいつまみて
 手拍子 [名] 手を打て拍
 爲體 [名] 體たるの延。ありさよ。すがた
 逮逮 [副] 快きさまにいふ
 定款 [名] 法律の語、社團
 定量 [名] きまりのかさ
 定準 [名] れらひを定むること
 提供 [名] 差出して示すこと
 提出 [名] さし出すこと
 呈上 [名] 人に物をおくる

禎祥 [名] さいはひ
 牴觸 [名] さしさばり。さしつかへ。
 諦聽 [名] たしかに聞くこと
 鄭重 [名] てあつきこと。ねんごろなること
 程量 [名] めかた
 低氣壓 [名] 氣壓の低くなること
 下手 [句] しはじむ。著手
 盡手 [句] 力のとどくだけ
 出手 [句] その事に關係す
 出來上 [名] できあがる

出來心 [名] ふと起れる
 出來初 [名] 出來たる初
 鐵面皮 [名] 恥を知らぬこと。あつ
 撒却 [名] とりはらふこと
 撤回 [名] とりかへすこと
 寺參 [名] 寺へ行きて祖先の墓などを拜す
 恬然 [副] おちつく状にい
 天爵 [名] 天性うけ得たる
 天職 [名] 天より受たる職
 天下 [名] 天下にただ

轉換 [名] いかはること
 轉借 [名] 人の借りたる物を又借すること
 轉宿 [名] やどをかふるこ
 轉職 [名] 職務をかふるこ
 轉住 [名] 居所をうつすこ
 點定 [名] しらべ定むること
 點辱 [名] はづかしむること
 纏着 [名] まつばること
 展觀 [名] ひろげて見るこ
 適然 [副] たまたま。ふと

的然 (副) あきらかに
偶然 (副) いちじるく。はなやかに
觀面 (副) めのまへに。
躑躅 (名) たちどまること
適中 (名) 正しくあたること
適從 (名) 従ふこと
謙說 (名) さしてぐちない
不出不入 (名) 損も得も無
超乘 (名) 乗りこゆること
肇春 (名) 春のはじめ

條款 (名) 簡條。條件
定期預 (名) 期限を定め預けること
徹頭徹尾 (副) 始めより終りまで
照合 (他) 比べ合せて見る
轉挺舞 (名) 雀躍して喜ぶこと。繁忙の思をなすこと
天氣豫報 (名) 氣候を豫め報ずること
天長地久 (名) 天地のくはらぬこと
天真爛漫 (名) 生れたまに虚飾を加へざること

轉地療養 (名) 居所を病を養ふこと
調子外 (名) 言語、動作の通常に異なること
展覽會 (名) 書畫器物などを衆人に見する會
出合頭 (名) 双方より出るはづみ
出來損 (名) 出來損ふこと。出來損ひたるもの
手持無沙汰 (名) こともなく徒然なること
【あ】
唯 (感) 應ふる聲

當 (他) 觸れしむ。さはらす。合はす。かなはず
豈 (副) 何として。どうして。いかで
饗 (名) 酒肴などにてもてなすこと
跡 (名) 歩みたる所。ゆきまき。去りたる方
後 (名) のち。うしろ。しりへ。前に過ぎたること
味 (名) 食物の舌に當る感じ。物事に關しての感情
有 (名) あること。現在する
在 (自) をり。すめり。生きなからへてあり
或 (接) たしかにその名を定めずして物事をさすに用ふる語
荒 (自) あらくなる。烈しくなる。これくづる

徒 (名) ばかりめなること。實なきこと
當 (名) あつること。まと。
充 (他) あてはむ。割りつく
中 (他) 目的にとどかず。推量して得
厚 (接) 厚き意を示すに用ふる語
熱 (接) あつき意を示すに用ふる語
新 (名) あたらしきこと
粗 (接) あらき、まばらなるなどの意を示すに用ふる語
編 (他) くみ合す。くみて織る。書籍を作る

明 (自) 閉ぢられたるものがひまになる
明 (名) あくること。夜のあくること
飽 (自) 満ち足る。満足す
厭 (自) 厭はしくなる。いやになる
上 (他) 上の方に進めやる。調子を高くす。さしあぐ
舉 (他) 手に持ちて高くす
揚 (名) 衣服の長きところをひだをとりて縫ひつけおくこと
揚 (他) 弘む
昂 (他) 高直にす

悪 [名] あしきこと
合 [自] かねとこれとが一つ
逢 [自] 互に相見る。面をあ
敢 [他] しひてなす。推して
浴 [自] 湯水などを自らわが
宛 [名] わりあつること。あ
浅 [接] あさき、うすき、す
悪 [形] よくあらず。わるし
間 [名] あひだ。事と事との
遇 [名] あふこと

合 [接] 同じき、相当したる
相 [接] 互に、共になどの意
彼方 [代] かなた。あちら
嗚呼 [感] 物事に感じて發
阿諛 [名] こびへつらふこ
愛 [他] く思ふ。大切に思ふ
合 [他] 彼と此と共にす。一
淡 [形] 濃からず。うすし。
發 [他] 土を掘りて物を出
敢 [副] 押しきりて。強ひて

喘 [自] 疲れてせはしく呼吸
歩 [名] あるること
哀 [名] あはれむべきこと
青 [自] 青くなる
明 [形] あきらかなり
明 [名] 光線の作用によりて
明 [他] かくすところなく
上 [名] あがること。上達す
崇 [他] たふとぶ
驤 [自] 馬はれまはる

徒 [副] むなしく。うはきに
價 [名] れだん
能 [自] することを得。なし
與 [他] やる。つかはす
邊 [名] めまはり。ほとり
邊 [接] 其物事に遠ざからぬ
當 [名] あたること。探索の
遊 [名] 遊ぶこと。ながさみ。
集 [他] 多くの形を一つとこ
厚 [形] 薄からず。濃かなり。

預 [名] あづくること
壓 [他] おさへつく
荒 [自] あらくなる。あれだ
粗 [形] こまやかならず。ま
嵐 [名] あらく吹く風。雨風
否 [副] いな。しからず
洗 [他] 物を水にすすぎて清
案 [名] 案すること。かんが
案 [副] かねてよりの考へに
焙 [他] 火にあてて乾かす。火

怪 [名] いぶかし。うたがは
甘 [形] 砂糖の味あり。にぶ
嬌 [自] 恩に馴れてわがまま
餘 [名] あまりたるもの。
舉 [副] のこらす。こぞりて
揚 [他] 油にて煮る。遊女を
仰 [他] 上へ向く。たふとぶ
翻 [名] あふるること。風に吹
溢 [自] こぼる。餘りて出づ
炙 [他] 火の上にかざして程

浅 [形] 深からず。薄し。少
漁 [名] あさること。すなど
呆 [自] 思の外なるに驚きて
歩 [名] あゆむこと
間 [名] 彼と此との中。うち。
欠伸 [名] 倦怠を生ぜし時
愛護 [名] 愛して守護する
愛慕 [名] 愛し慕ふこと
愛顧 [名] ひいきすること
間 [副] によりて。がゆゑに。
欠伸 [名] 倦怠を生ぜし時
欠伸 [名] 倦怠を生ぜし時
欠伸 [名] 倦怠を生ぜし時

愛撫 [名] 愛しいたはること
哀訴 [名] なげきて訴ふる
哀慕 [名] 悲しみ慕ふこと
嗟哉 [感] 事の將に起らん
嗟哉 [感] とする時驚きて
嗟哉 [感] とする時驚きて
嗟哉 [感] とする時驚きて
嗟哉 [感] とする時驚きて
嗟哉 [感] とする時驚きて
嗟哉 [感] とする時驚きて

足搔 [名] あかくこと
足蹶 [名] 足にてけこと
徒名 [名] うはきの名。い
可惜 [接] 惜しき、惜むべ
可惜 [接] 惜しき、惜むべ
可惜 [接] 惜しき、惜むべ
可惜 [接] 惜しき、惜むべ
可惜 [接] 惜しき、惜むべ
可惜 [接] 惜しき、惜むべ

厚着 [名] 衣服を重ねて着
呆氣 [名] 驚きてあきるる
暑氣 [名] 病の名、暑中に
歩行 [名] あゆむこと。轉
安意 [名] 安氣(アンキ)心
安危 [名] やすきとあやふ
安否 [名] やすきとしから
安置 [名] やすらかにす
安堵 [名] 安心して住居す
安撫 [名] やすんじいたは

安座 [名] 安らかに座りて
暗夜 [名] くらき夜
暗愚 [名] おろかなること
晏起 [名] 朝遅く起きること
諳記 [名] そらにおぼゆる
盤坐 [名] 足の字をも用ふ
盤坐 [名] 足を組みて座る
倦厭 [自] うみつかる
惡意 [名] 悪き事をたくむ
惡事 [名] あしきしわざ
呪嘔 [他] たのします。な

文目 [名] すぢみち。げぢ
雨間 [名] 雨の降り止みた
甘味 [名] 甘き味
數多 [副] 數多く。たくさ
當所 [名] 心あてとする
宛名 [名] 手紙にあてて送
浅氣 [名] つつしみひかへ
浅手 [名] 輕き傷
浅處 [名] あさきところ
編目 [名] あみ合せたるも

相子 [名] 互にかちまけの
きなこと

相圖 [名] 豫め約しおきて
ある方法にて事
を知らずこと

焦心 [自] 心を忙し立。
ちつ。せきたつ

愛 [形] かはゆらし。いとほ
し

憐 [他] ふびんに思ふ。いつ
くしむ

暴 [自] 亂暴をなす

哀 [副] いたましく。ふびん
に

味 [他] 味を試む。物事の意
義を深く考ふ

或 [副] または。それならず
ば。もしや。何とか
せば

仰 [名] あふむくこと

赤 [自] 赤くなる

曉 [名] 夜のおくる頃

贖 [名] あかふこと。あが
なふもの

明 [形] 暗からず。あきらか
なり。その道のこと

恰 [副] まことによく。ちや
うど

新 [形] 古くないこと

徒 [自] あだあだしく見ゆ。
色めく

暖 [名] 寒暑の中を得たる程
合

遊 [自] 遊ばしむ。爲し給ふ

操 [他] 巧にあつかふ。程よ
くあしらふ

肖 [自] 物に觸れて似る

遍 [形] 至らぬくまなし

餘 [副] はなはだしく

甘 [他] 意に適ひて好しと思
ふ。満足す

仰 [自] 上を向く

憧 [自] 心落ちつかず。思ひ
あまる。胸をこがす

欺 [他] 人を偽る。すかす。

淺 [形] あきるるばかり。み
すぼらし

嘲 [他] そしる。わるくいふ。
思をばらす

扱 [名] あつかふこと。あつ
か仕方

熱 [名] あつしと思ふこと

預 [名] あづかること

與 [自] かかはる。おなじ仲
間に入る

集 [名] あつまること

詔 [名] あつらふること。あ
つらへたるもの

適 [感] 賛美に發する語

侮 [他] みさげがるんす。馬
鹿にする

新 [副] あたらしく

改 [名] あたらしくするこ
と。しらべ

糾 [他] 繩をよる。二つの物
を交へ合す

商 [名] あきなふこと。しや
うばい

諦 [他] 明かに悟る。念を絶
つ。思ひ切る

秋 [自] 秋らしくなる

挨拶 [名] こたへ。應答。

愛育 [名] かはゆかりてそ
だてること

愛敬 [名] 大切にしてうや
まふこと

愛讀 [名] 好んで讀むこと

愛國 [名] おのが國を大切
に思ふこと

愛想 [名] 人をもてなすに
愛情あること。

現 [副] あらはして。つつま
すに

現 [他] あらはになす。かく
れなくす

著 [他] 書を作る。著述す

荒 [自] あらあらしくなる

争 [名] あらそふこと

怪 [名] あやしく思ふこと

過 [名] しそこなひ。まちが
ひ

誤 [名] あやまること。しそ
こなひ。詫をする事

危 [形] 禍に近づきてあり。
あぶなし

操 [名] あやつること

愛念 あいねん (名) 心持 こころもち 思ふ おもふ
 愛慾 あいよく (名) 愛情の甚だ深き あいじょうのしんたふかき
 愛憐 あいれん (名) いづくしみあは いづくしみあは
 愛幸 あいかう (名) 氣に入りてかば きに入りてかば
 愛養 あいやう (名) けがらひりて養 けがらひりてやう
 愛日 あいじつ (名) 光陰を惜むこと こういんをおぼしむこと
 哀悼 あいたう (名) いたみかなしむ いたみかなしむ
 哀別 あいべつ (名) かなしきわかれ かなしきわかれ
 哀愍 あいきん (名) あはれみ哀むこ あはれみあはむこ
 哀樂 あいらく (名) かなしみとたの かなしみとたのしみ

哀戀 あいれん (名) かなしみしたふ かなしみしたふ
 哀痛 あいつう (名) かなしみいたむ かなしみいたむ
 哀戚 あいきき (名) かなしみうれふ かなしみうれふ
 隘陋 あいろう (名) せまくて見苦し せまくてみ苦し
 隘狹 あいけふ (名) せまきこと せまきこと
 曖昧 あいまい (名) 分明せぬこと めいめいせぬこと
 合目 あひめ (名) 二つの物を合せ ふたつのものをあはせ
 合印 あひいん (名) 引合せのために ひきあはせのために
 合宿 あひやど (名) 共に同じ宿屋に ともに同じしゆくやに
 無敢 あへなし (形) はりあひなし はりあひなし

後口 あとくち (名) 物事の残の部分 ものごとのかのぶぶん
 後先 あとさき (名) あととさきと あととさきと
 後腹 あとばら (名) 産後に腹のいた うぶごのいた
 後引 あとひき (名) 飽くことをしら あつくことをしら
 後役 あとやく (名) のちの役。つき のちのやく。つき
 跡方 あとかた (名) 跡に残りたるし あとにのこりたるし
 有明 ありあけ (名) 月天にあるうち つきあまにあるうち
 有合 ありあふ (自) 正にその場にあ ただよそのばにあ
 有金 ありがね (名) 現在手許に所持 いまてのあてに所持
 有切 ありきり (副) あるかぎり。あ あるかぎり。あ

有丈 ありたけ (副) そこにあるかぎ そこにあるかぎり
 有様 ありさま (名) やうす やうす
 有高 ありだか (名) そこにあるかぎ そこにあるかぎり
 有付 ありつき (名) ありつくこと ありつくこと
 蒼冷 あそざむ (自) 顔色青くなる かおいろあおくなる
 赤色 あかいろ (名) 赤きいろ あかきいろ
 赤耻 あかはぢ (名) かくれなくあら かくれなくあら
 赤斑 あかぶち (名) 赤きまだら あかきまだら
 赤丸 あかまる (名) 赤く丸かきたる あかくまるかきたる
 垢染 あかじむ (名) 垢に染まりてよ あかになじまりてよ

垢抜 あかぬけ (名) あかぬけするこ あかぬけするこ
 徒言 あだごと (名) 徒口(アダグチ) あだぐち
 彼式 あれしき (名) 實のなき言葉 まことなきことば
 彼方 あれち (名) あれほど。あれ あれほど。あれ
 彼方此方 あれちこち (名) あなた あなた
 厚皮 あつかわ (名) 耻を耻と思はぬ ちをちとおぼはぬ
 壓伏 あつぷく (名) 壓抑(アツヨク) あつおし
 壓倒 あつたう (名) おしたふすこと おしたふすこと
 壓制 あつせい (名) つけてやりにおし つけてやりにおし
 壓搾 あつさく (名) おしてしぼるこ おしてしぼるこ
 壓迫 あつぱく (名) おしせまるこ おしせまるこ

軋轢 あつれき (名) 互にすれあふこ たがひにすれあふこ
 幹旋 あつせん (名) せわすること せわすること
 生惜 あいにく (感) ああにくきかな ああにくきかな
 荒立 あらだつ (自) あらくなる。心 あらくなる。こころ
 荒増 あらまし (副) おほった。たい おほった。たい
 荒業 あらわざ (名) あらあらしきし あらあらしきし
 粗粗 あらあら (副) ざつと。大概に ざつと。たいてい
 粗蒔 あらまき (名) 田を耕さず種 うらをかうさずこ
 新物 あらもの (名) あたらしきもの あたらしきもの
 所有 あらかる (形) あるかぎりの。 あるかぎりの。

當事 [名] 頼みにする事
當附 [他] あて行ふ。割り付く
當飲 [名] 他人の酒をあてにしてのむこと
當填 [他] 程よくまはらしむ
當物 [名] なぞの類。物をあつること
朝朝 [副] あさごと
朝起 [名] 朝早く起ること
朝駈 [名] 朝早く他出すること
朝方 [名] 朝のころ
朝立 [名] 朝早く旅路に出でたこと

朝風 [名] 朝海上のなきたること
飽足 [自] 十分に足る
飽満 [名] 飽くほど満つ
壓方 [名] いやになりたる氣味
壓果 [自] 全く厭く
噉喙 [自] 口を開閉す
足跡 [名] 地に印したる足の裏の跡
足音 [名] 歩み行く音
足癖 [名] 足につきたるくせ
足摩 [名] 烈しく足を踏み

足止 [名] 人の他に行くを止むること
足並 [名] 足取をそろへて行くこと
足馴 [自] あゆみなる
足早 [名] 足のはこびの早きこと
足踏 [名] 足のふみさま
接遇 [名] あしらふること
相擊 [名] 互にうちあふと互に打死する事
相生 [名] 諸共に生立ち行くこと
相對 [名] 互に向ひあふこと
相乘 [名] 共に乗ること

相番 [名] 共に番ずること
相引 [名] 互に引合ふこと。男女密會して情を通じ合ふこと
相惚 [名] 男女の互にほれあふこと
相持 [名] 互に持ち合ふこと
汗染 [自] 汗が物にしみつ
汗發 [自] 汗が肌にしむ
押判 [名] かきはん
押開 [名] おし開くこと
押送 [名] おし送ること
鑿殺 [名] みなころしすること

快快 [名] さかんなること
快鬱 [名] 心のほればれせぬこと
暖 [副] 寒からずに。親密に
豫 [副] まへかたより。かれ
改 [自] にかはる。うつる。新になる。よくなる
革 [自] 病重くなる
剩 [副] あるがうへに。そのうへに
鮮 [副] あきらかに。はつきりと
明 [副] くもりなく。あきらかに
變隄 [副] 明かならぬ狀に

藹藹 [副] 樹木の茂れる狀などにいふ語
暖曖 [副] かならぬ狀にいふ語
靄靄 [副] 雲の集まれる狀にいふ語
愛敬 [名] かばゆげのあること
愛郷 [名] おのが郷里を大切に思ふこと
愛玩 [名] 大切ににして遊ぶこと
愛情 [名] 愛するところ
愛重 [副] 愛し重んずること
愛誦 [名] 愛して讀むこと
哀傷 [名] かなしみなげくこと

合物 (名) 合せたるもの。音楽を合奏すること

合語 (名) 合圖に用ふる言葉

合性 (名) 彼此互に氣の合ひたること

反對 (副) うらかへに

接遇 (名) あへしらふこと。とり扱ひ

後退 (名) 後へ退くこと

後拂 (名) 物を買ひ代其價を後にて拂ふこと

後戻 (名) 來し方へ引き返すこと

後廻 (名) 後にまはすこと

當年 (名) 作物などのよくとれたる年

當前 (名) よのつれ。必ず然あるべきこと

遊事 (名) 遊びのしわざ

預金 (名) あづけたる金錢

預物 (名) 預けたるもの

淡泊 (副) うすく。あはく。さつぱりと

熱苦 (形) 暑さ。だしくて苦し

鐵面皮 (形) 耻。耻ともせずあり

無呆氣 (形) 物足らず。十分ならず

壓力 (名) おさへつくる力

無味氣 (形) 無益なり。面白味なし

在在 (副) はつきりと。分明に

在來 (名) もとよりありしままなること

有餘 (自) 用ひてあまる

有體 (副) ありのままに

有難 (形) 世にあること希なり。忝なし

有限 (副) ある限りを盡して。のこらず

青黒 (形) 青ばみて黒し

青光 (名) 青く光るつや

穴賢 (感) 恐れ多きこと。かな。勿體なきこと

穴探 (名) 人の關點をさがすこと

穴住居 (名) 地に穴を掘りて住むこと

荒荒 (形) 甚だ荒し

荒稼 (名) あらきかせぎ

荒行 (名) 修験者などのすゑるあらき行

粗粗 (形) 極めて粗末なり

粗積 (名) おほかたにはかみること

粗磨 (名) あらあらしく磨くこと

洗張 (名) 衣服を洗ひ板にて乾かすこと

惶急 (形) あはてたるさまなり

赤黒 (形) 赤くて黒みあり

赤裸 (名) 衣を脱ぎて肌のこと

垢脱 (自) 垢ぬけて美しくなる

上下 (名) あがるとおろる

明先 (名) 明りのさしくる前の方

頭數 (名) 人數

頭割 (名) 人數に應じて物を割り付る

頭勝 (名) 體にくらべて頭の大なること

當合 (自) たたかふ。きりあふ

安閑 (副) なすこともなく

案出 (名) 考へ出すこと

案外 (名) 思の外なること

暗弱 (名) 身弱く性質愚なること

暗誦 (名) そらよみ

齷齪 (副) 物事にかかはりてこせこせと暇なき状態にいふ語

暴行 (自) 悪しき所行をなす

惡病 (名) 性の惡しき病

惡名 (名) わるき名。惡しき評判

惡性 (名) 惡き生れつき。女色にふけると

悪逆 [名] 道に逆ひたる悪しき行

悪行 [名] 悪しき所行

悪様 [副] わろきやうに

雨上 [名] 雨の晴れたる後

雨籠 [名] 降雨のため外出せず家に籠り居ること

雨晒 [名] 物を雨に晒しおくこと

雨支度 [名] 雨に濡れぬ用意

雨宿 [名] 雨の止むまで木蔭などに休むこと

雨模様 [名] 雨降り出るとする景色

餘物 [名] あまりたるもの

數多度 [副] たびたび

明渡 [他] あけて人に渡す

明渡 [自] 夜全く明けはな

明放 [名] あげばなすこと

明放 [他] 開きたるままに閉ぢず

明廣 [他] おしあけて廣くす

明拂 [他] 戸障子などを悉く開く

吐瀉 [名] 吐き又はくだすこと

油熬 [名] すべて食物の油にて熬つくること

油濃 [形] 油氣多し

油切 [自] 油浮び滿つ。油の如き汗出づ

油染 [名] 物に油のしみつくこと

油付 [自] 油氣つく

當擦 [名] あてこすること

當擦 [自] 面前にて他の事の非を誇る

當填 [自] ほどよくはまる

嬋妍 [副] 品よく。美しく

朝朗 [名] 夜のあけがた

味早 [副] 朝早く。夜の明け果てぬに

淺淺 [形] あさはかなり

嘲笑 [他] あざけりて笑ふこと

秋景色 [名] 秋の景色

厭性 [名] 物事にあき易き性質

惘顔 [名] あきれたる顔

足固 [名] 足の歩みを健にする

足揃 [名] 人馬の足を揃へて列を整ふこと

足遣 [名] 足の動かしぶり

足馴 [名] 歩み方の稽古

足早 [副] 足の歩み早く

足休 [名] 足を休むること

網代編 [名] 網代に編むこと

網代形 [名] 網代の形をなせるもの

相手取 [他] 相手となす

間食 [名] 三度の食事の外に物を食ふこと

間柄 [名] つづきあひ

愛想盡 [名] 人に對してすげなくすること

愛別離苦 [名] 親しみ人と別れる苦み

合鏡 [名] 二つの鏡に後の方を寫し見ると

合縁奇縁 [名] おのづからなる縁。ふしぎなる縁

鮑結 [名] 紐の結び方の名

跡片付 [名] 物事の終りを片付くこと

無跡形 [形] 跡も形もなす。在りたる姿見えず

後手段 [名] 後にてする手段

後先不見 [名] 物事に考なきこと

後祭 [名] 祭禮の終りたる次の日。事の終りたる後

無後先 [形] 物事の次第なし

彼方此方 [代] あなた

有所有 [句] あるかぎりありとあらゆる

有儘 (副) あるままに。あ

難有涙 (名) 尊き喜ばし
出る涙

難有迷惑 (名) 忝なき
却つて、迷惑なること

青物市 (名) 青物を賣買
する市

赤紫 (名) 色の名、紫の赤

明様 (副) あらば。あきら

當外 (名) 當ると外ると
成敗すると失敗

當障 (名) しかかりあひ。さ

當狂言 (名) 評判好て大
入なる狂言

當推量 (名) 理もなくお

當寸法 (名) 目的も無て
事をすると

邊近所 (名) わが家の近

遊行 (自) 遊びてあるく

遊暮 (他) 遊びて日を暮ら

遊仕事 (名) 身を入れぬ
仕事

預賃 (名) 物を預りたる料
として取る金銭

預物 (名) 預りてあるもの

厚化粧 (名) 化粧を厚く
つくること

暑氣中 (名) 暑氣に犯さ
れたること

洗濯 (副) 残らず。悉く

安眠防害 (名) 夜中人
防ぐること

肖物 (名) あやかりたるも

扇遣 (名) 扇をつかふこと

商物 (名) 賣買する品物

商人氣質 (名) 少しの
銭も無

惘返 (自) 甚だしくあきら

編物細工 (名) 編物の
細工

足序 (副) あるきついでに

足任 (副) 足の進むにまか

足柏子 (名) 足ぶみして
拍子を取る

足達者 (名) 健なること

相相傘 (名) つの傘をさ

相對盡 (名) 二人にて事

【さ】

差 (名) たがひ。ちがひめ

左 (名) 文章の上にて次にあ

然 (副) さやうに

座 (名) すわる場所

菜 (名) 飯に添へて食ふも

才 (名) 智識のはたらき

才 (接) 榘目を示すに用ふる

財 (名) たから。金銭

材 (名) 材木。材料

歳 (接) 年を數ふるにいふ語

最 (名) もつとも勝れたること

齊 (接) 住居の室の名に添へ
て用ふる語

在 (接) その土地に居る意を
あらはすにいふ語

劑 (接) 調合したる薬の名に
添へていふ語

災 (名) わざはひ

細 (名) こまかなること。ほ

際 (名) をり。とき

債 (名) おひめ。借財

里 (名) 平地にて人家のある
處。わが實家を指し

去 (自) 居所を離れて行く。
遠ざかる。なくなる

然 (接) 確にそれと指し定め
ぬ意を示すに用ふる語

戲 (自) たはむる

棹 (接) 箆筒長持などを數ふ
るに用ふる語

逆 (名) 上下轉すること。さ
かさまなること

嚙 (副) 他の上を思ひやるに
札 (接) 手形證文などを數ふ
冊 (接) 綴ぢたる書物を數ふ
雜 (名) まじりたること。細
新 (名) あたらしきこと
覺 (自) 眠が止む。迷が晴る
冷 (自) 熱きものがひややか
醒 (自) 酒の酔がなくなる
褪 (自) 色がわるくなる
消 (自) 興が消ゆ。樂がなくな

産 (名) 子を生むこと。人の
算 (名) うらなひ。計り企つ
讚 (名) 人の徳などをほめて
斬 (名) 刑の名、首を切るこ
艘 (接) 船を數ふるに用ふる
相 (名) みえ。かたち。人相
雙 (名) ならび。つい
雙 (接) すべて二つにて一組
裂 (自) 切れて分る。はなれ
咲 (自) 花の蕾開く

避 (他) 物事に觸れ、又は逢
下 (他) 上より下へやる。低
提 (他) 手に持ちて下ぐ
策 (名) はかりごと
作 (名) つくること。こしら
様 (名) 物事のなりたち。か
様 (接) 他人の姓名に添へて
鏗 (自) さびを生ず
荒 (自) 甚だしくなる。古く
荒 (名) 物事の古びて價値を

扱 (接) 上の意をうけて下に
先 (名) 物の最も前なる部
亘 (自) 寒くなる。冷ゆ。澄
實 (副) まことに。じつに
差 (他) 指にて其方を示す。
差 (自) 潮が満ち来る。物が
刺 (他) つきこむ。突き入る
令 (助) 他に動作をなさしむ
坐 (自) すわる。まきぞへに

差異 (名) 差違。ちがひめ。
座位 (名) 座次(ザシ)座す
沙汰 (名) 官府の指令。お
左右 (名) ひだりとみぎ
狭間 (名) 物の間のすきま
詐欺 (名) いつはりあざむ
些事 (名) すこしの事柄
坐視 (名) 坐ながら見てを
如此 (副) そのごとく。さ
捌 (名) さばくこと

捌 (他) 亂れたるを直す。理
障 (名) さしつかへ。さは
觸 (名) さばること。ふる
覺 (名) さとること。推し量
諭 (他) をしへてさとらしむ
聰 (形) 覺ること。敏くて恰
騒 (自) 静かならず。落ちつ
盛 (名) 時を得て繁昌すること
下 (名) 物にかかりて垂るる
搜 (他) さぐりもとむ

賢さとし [形] かしこし。すぐれてあり
 嶮さかし [形] けはしきこと
 榮さかえ [名] さかゆること
 逆さかふ [自] 順はず。もとる。さ
 境さかひ [名] 界。物と物と相合ふ
 定さだむ [他] 判ちぞむ。治む。平
 誘さそふ [他] 勧めて共に行ふ。い
 嚙さでな [副] その通りにまあ。さ
 授さづく [他] 手渡しす。與ふ
 颯さつと [副] 俄かに。すぐに

雜ざつと [副] あらまし。おほかた
 察さつす [他] 推し量る。思ひやる
 晒さらし [名] さらすこと
 更さらば [副] 一尙。たえて。少し
 然さらば [副] しからば。さあらん
 浚さらふ [名] さらふこと
 寒さむし [形] 熱しの反對。ひやや
 贊さんす [他] たすく
 讚さんす [他] ほめたたふ
 算さんす [他] 數ふ

散さんす [他] ちらす
 産さんす [自] うまる
 參さんす [自] まぬる
 讒ざんす [他] かげにて人をわるく
 劊さくり [名] さくること。握るこ
 探たぐり [名] さぐること。さがす
 噓うそ [名] 呼吸の度毎に氣管つ
 鬆さくし [形] たやすし。もろし
 覺さます [他] 眠のさむるやうに
 醒さます [他] 酒の酔をなくす

冷さます [他] 熱きものを冷かにす
 消さます [他] 興を失はしむ
 扱さて [感] さてさて
 扱さて [接] なほ又。その外に
 支さたふ [他] 持ちこらふ。とどむ。
 刺ささ [自] おのづからさしたる
 捧ささぐ [他] 手にて高くさしあ
 先さき [副] まへがた
 指さして [副] それほど。別段
 淋さびし [形] 静かにて心細し

荒さびれ [名] さびるること。おと
 摩さする [他] 手にて軽くこする
 叫さけぶ [自] はげしく大聲に呼ぶ
 細工さいく [名] すべて諸器具を
 細思さいし [名] くはしく考ふる
 細事さいじ [名] いたさかなること
 細微さいび [名] こまかなること
 才氣さいき [名] 才の氣色に現は
 才智さいち [名] 才と智慧と
 祭事さいじ [名] 祭祀(サイシ)ま

祭資さいし [名] 祭典に費すいり
 再度さいど [名] ふたたび
 再思さいし [名] ふたたび考ふる
 再議さいぎ [名] ふたたび議する
 在世さいせ [名] 世の中に生きて
 猜疑さいぎ [名] うたがふこと
 猜忌さいき [名] うたがひいむこ
 災異さいい [名] わざはひ
 最微さいび [名] 極めてこまかな
 最後さいご [名] 最も後なること

最期 [名] 命を果つる期。しにぎは
 歳費 [名] 一年間の入費
 碎破 [名] くだき破ること
 債務 [名] 借りたる物を返す義務
 差等 [名] 等級のちがひ
 差配 [名] 仕事をそれぞれに分擔すること
 差別 [名] けちめ
 差出 [名] さしいづること
 差荷 [名] さしになひにしたる荷
 差目 [名] 物差しにもりたる寸尺の度

坐拜 [名] すわりて拜禮すること
 坐席 [名] すわる場所
 坐折 [名] くじくこと
 作法 [名] 物事を行ふ仕方
 作用 [名] はたらき。しわざ
 作場 [名] 物を製造する處
 作毛 [名] 稻穂のみのり
 作意 [名] 物を製造する意匠
 作事 [名] 家の建築
 作為 [名] 作り設くること

詐謀 [名] いつはりのほか
 詐取 [名] いつはりて取ること
 茶道 [名] 茶の湯の道
 酒氣 [名] 酒のにほひ
 逆手 [名] 刀など逆につかふこと
 倒木 [名] 材の木理を逆に用ふること
 查覈 [名] しらぶること
 査定 [名] しらべて定むること
 嗟嘆 [名] なげくこと
 然則 [接] さあれば。しかれば

茶禮 [名] 茶をたつる禮式
 早速 [名] 事に臨みて速に行ふこと
 雜魚寢 [名] 男女打交りて寝ぬること
 雜務 [名] さまざまのつとめ
 雜費 [名] さまざまのいりめ
 雜多 [名] 種類入り雜りてあること
 雜事 [名] さまざまの事
 雜具 [名] さまざまの道具
 殺氣 [名] 殺伐のけはひ。荒荒しきけしき
 座並 [名] 座形(ザナリ)座のならび

座右 [名] 座の右。座の側
 座敷 [名] 家の内の客を通して應接する所
 座持 [名] 座興をそふるたぬに種種の戯なことをすること
 復習 [名] さらふこと
 産氣 [名] 子をうまんとするけはひ
 産後 [名] 出産の後
 山務 [名] 寺の事務
 參賀 [名] まゐりて祝を申すこと
 參座 [名] 寄合の席へ參り加はること
 參知 [名] その事柄をあづかり知ること

參與 [名] その事柄にあづかり加はること
 殘部 [名] 残りたる部分
 殘餘 [名] のこり。あまり
 殘務 [名] 残りたる事務
 讒訴 [名] 人をそしり訴ふること
 讒誣 [名] 讒毀(ザンキ)をしること
 散飛 [名] 飛び散ること
 散布 [名] ちりしくこと
 散步 [名] あそびあること
 散位 [名] 位のみありて職のなきこと

酸味 [名] すき味
 酸鼻 [名] むご事を見て
 讚美 [名] 讚譽(サンヨ)は
 篡位 [名] 位をうばふこと
 暫時 [名] しばしの間
 慙愧 [名] 心に耻づること
 慙懼 [名] 心に耻ぢ且つお
 懺悔 [名] 過去の罪をうち
 錯誤 [名] あやまり。まち
 瑣末 [名] いささかなること

裂目 [名] 物の裂けたると
 左社 [副] さやうにこそ
 鎖國 [名] 國を鎖すること
 鎖港 [名] 港をとざすこと
 蹉跌 [名] つまづくこと
 些細 [名] わづかなること
 指圖 [名] 指し示して人に
 棧敷 [名] 物見のために高
 鄙劣 [名] みすぼらし
 掃除 [名] 掃ひきよむること

創意 [名] 思ひつき。考へ
 創始 [名] 物事のはじめ
 創基 [名] 物事の基を始む
 造意 [名] かんがへ。工夫
 造爲 [名] つくること
 造語 [名] 新たに造りたる
 造作 [名] しかた。しわざ
 造次 [名] いそがしき間
 喪家 [名] 不幸のある家
 喪位 [名] 位をうしなふこと

葬儀 [名] 葬りの儀式
 相違 [名] ちがひ
 相馬 [名] 馬のよしあしを
 相思 [名] 相互に思ふこと
 草廬 [名] くさのいほり
 壯時 [名] さかんなる時
 壯圖 [名] さかんなるくは
 壯思 [名] さかんなる思ひ
 壯志 [名] さかんなる志
 壯武 [名] さかんにとけだ
 けしきこと

桑榆 [名] 夕暮の日影。人
 装置 [名] しかけ
 操觚 [名] 文章を作るにい
 查收 [名] あらためて取受
 查照 [名] しらべあはすこ
 些少 [名] いささか。すこ
 幸 [名] よきことにあふと
 遮 [名] へだてささふ。ささ
 轉 [名] 聲をつづけて鳴く。
 騷 [名] 静かならずあり。か
 まびすし

倒 [名] 前の後になり、上の
 盛 [副] 時を得て。勢よく
 逆 [自] 順ならず。従はず
 定 [名] さだまること。鎮ま
 定 [副] かならず。きつと
 去 [名] サリヌルの音便、過
 妨 [名] さまたぐること
 候 [自] 動詞、形容詞にそへ
 障 [自] さばり起る。故障生
 幸先 [名] よきこととしら
 せ

苛責 (他) ちからく責む。い
 然雖 (接) さあれども。さ
 先程 (名) さつき。先刻
 采目 (名) 双六の采に刻め
 の大さきさ
 細工場 (名) 細工をする
 場所
 最愛 (名) 最もかほゆがる
 最新 (名) 最も新らしきこ
 最初 (名) 最も初めなるこ
 最前 (副) さきに
 最大 (名) 最も大なること

最近 (名) 最も近きこと
 最要 (名) 最もかなめなる
 最高 (名) 最も高きこと
 最少 (名) 最も少なきこと
 最小 (名) 最も小さきこと
 最底 (名) 最も底きこと
 最善 (名) 最もよきこと
 最悪 (名) 最もあしきこと
 最貧 (名) 最も貧しきこと
 罪案 (名) 罪科のケ條

罪科 (名) 罪戻(ザイレイ)
 つみとが
 罪過 (名) つひあやまち
 罪業 (名) 罪となる業。犯
 したる罪
 罪惡 (名) 罪となる惡事
 罪跡 (名) 罪のあと
 歲入 (名) 一ヶ年間の收入
 採集 (名) とり集むること
 採掘 (名) ほりとること
 採取 (名) とること
 採納 (名) とりをさむること

採決 (名) それをよしとし
 て採り用ふるこ
 採擇 (名) えらびとること
 採藥 (名) 藥草を取ること
 採用 (名) とりもちふるこ
 再緣 (名) 二度目の縁組
 再應 (副) ふたたび
 再考 (名) ふたたび考ふる
 再任 (名) ふたたび官に任
 ずること
 再來 (名) 再び來ること
 再興 (名) 再びおこすこと

再勤 (名) 二度目のつとめ
 再演 (名) 再び演ずること
 再感 (名) 病の再び發する
 こと
 再再 (副) たびたび。しば
 しば
 再舉 (名) 再び事を起すこ
 と
 再建 (名) 再び建つること
 再醮 (名) 再び嫁入するこ
 と
 再三 (名) 二度も三度も
 再生 (名) いきかへるこ
 と。よみかへること
 再拜 (名) 二度拜すること

再發 (名) 再びおこること
 再伸 (名) 再白(サイハク)
 再び申し述べと
 災害 (名) 地震洪水などの
 わざはひ
 災難 (名) わざはひ
 在勤 (名) そこに勤めてあ
 ること
 在國 (名) 國元に居ること
 在世 (名) 世に生きてある
 間
 在留 (名) そこに留りてぬ
 ること
 在宅 (名) 家に居ること
 在番 (名) 番に當りて勤め
 てあること

在役 [名] 役目を勤めてあ
 在來 [名] ありきたり
 才覺 [名] 才のはたらき。
 工夫して索むと
 才學 [名] 才智と學問と
 才幹 [名] 智のはたらき
 才藝 [名] 才智と藝能と
 才能 [名] 才とはたらきと
 才筆 [名] 文章を作るに巧
 なること
 才辯 [名] 巧みなる辯舌
 細瑾 [名] わづかなるます

細見 [名] くはしくしらべ
 示したるもの
 細則 [名] 細かなる規則
 細大 [名] こまかなると、
 おほいなること
 細末 [名] 粉の如く細かな
 ること
 細密 [名] 甚だこまかなる
 こと
 細説 [名] こまかに説くこ
 と
 裁決 [名] 裁判して決定す
 ること
 裁許 [名] 裁決して許可す
 ること
 裁定 [名] 裁判のきまるこ
 と
 裁判 [名] 訴訟の曲直をさ
 げき定むること

裁縫 [名] たちぬひのしこ
 歳計 [名] 一歳中の會計
 祭式 [名] 祭典(サイイテン)
 祭の儀式
 祭政 [名] 祭事と政事と
 祭壇 [名] 祭を行ふ壇
 祭禮 [名] 神のまつり
 債權 [名] 法律の語、特定
 とする財産權
 財產 [名] 人の所有するた
 財政 [名] 金錢の出納のこ
 とを取扱ふこと
 財寶 [名] 財化(サイクラ)

財物 [名] たからもの
 財源 [名] たからの出るも
 と
 齊戒 [名] ものいみ
 催告 [名] 法律の語、催促
 の趣、告ぐるこ
 催促 [名] うながすこと
 催折 [名] くだけをるこ
 と
 妻帯 [名] 妻をもつこと
 際限 [名] かぎり。をほり
 際涯 [名] かぎり。はて
 洒掃 [名] ふきさうぢ

彩色 [名] いろどり
 猜忍 [名] それみてむごき
 心なふること
 賽錢 [名] 神佛へささぐる
 錢
 然計 [副] それほど
 然様 [副] そのとほりに
 然而 [接] しかして。その
 様にして
 里方 [名] おのが生れたる
 方の家
 座中 [名] 寄合の一座の中
 座興 [名] 集會の席上など
 にそふる興
 座上 [名] 寄合の席の上

作略 [名] はかりごと
 作柄 [名] 出來上りたる模
 様
 作物 [名] すべて田畑に植
 ゑつくるもの
 作得 [名] 作物の納租した
 る後の得分
 作文 [名] 文章を作るこ
 と
 作例 [名] 詩歌文章などを
 作るにつきて示
 したる例
 作製 [名] つくること
 作成 [名] つくること。仕
 上ぐること
 猿智慧 [名] こざかしき
 智慧
 棹入 [名] 間竿を入れて地
 の間敷を計ると

酒盛さか さか [名] 寄合ひて酒飲か
 逆立さか さか [自] 逆さかさまになり
 逆捻さか さか [名] ねち返すこと
 逆捲さか さか [自] 流つに逆さかひて波立
 境目さか さか [名] 物の境のところ
 盛場さか さか [名] 人の寄り集る處
 戲事ざれ ざれ [名] たばふれたると
 早早さつ さつ [副] 早く急ぎて
 雜考ざつ ざつ [名] 種しゆの考かへたる
 雜居ざつ ざつ [名] 種しゆの人の打うち

雜件ざつ ざつ [名] 種しゆの物事
 雜品ざつ ざつ [名] 種しゆの品
 雜貨ざつ ざつ [名] 種しゆの貨物
 雜纂ざつ ざつ [名] 種しゆの事を書き
 雜種ざつ ざつ [名] 種しゆの種しゆ類
 雜沓ざつ ざつ [名] 人の多くこみあ
 雜報ざつ ざつ [名] 種しゆなる出し來る事
 雜駁ざつ ざつ [名] いろいろの物
 殺戮さつ さつ [名] ころすこと

殺伐さつ さつ [名] 人の氣風のあら
 刷新さつ さつ [名] すつぱりとあら
 刷行さつ さつ [名] 印刷して發行す
 早速さつ さつ [名] すみやかに
 撮影さつ さつ [名] 寫真を寫すこと
 宛然さな さな [副] あたかも。ちや
 粗糙ざら ざら [自] ざらざらとする
 洵然じゆん じゆん [副] 物の水中に落ち
 三復さん さん [名] たびたびくりか
 三嘆さん さん [名] いくたびも感嘆すること

三角さん さん [名] 三つ角かくある形
 參考さん さん [名] まじへ合あせて考か
 參向さん さん [名] まねり向むふこと
 參候さん さん [名] 参まりて候かふこと
 參詣さん さん [名] 神佛にまうづる
 參列さん さん [名] 参まりて列れ席せきする
 參堂さん さん [名] 人の家へ來きるこ
 參贊さん さん [名] 他たより力ちからを添そへ
 參集さん さん [名] 人の來きり集あるこ
 慘憺さん さん [名] ものがなしきこ
 考かふること

慘悽さん さん [名] いたましく悲かなし
 慘酷さん さん [名] むごたらしきこ
 慘害さん さん [名] むごく害がいするこ
 慘烈さん さん [名] むごくきびしき
 慘殺さん さん [名] むごたらしく殺ころ
 慘怛さん さん [名] いたましく悲かなし
 山居さん さん [名] 山中にすまひす
 山水さん さん [名] 山と水とある景けい
 山巔さん さん [名] 山のいただき
 山腹さん さん [名] 山の頂と麓との

山麓さん さん [名] ふもと
 散財さん さん [名] 金かねを費つすこと
 散在さん さん [名] そちこちに散ちり
 散失さん さん [名] 散ちりて失なくなる
 散髮さん さん [名] 髪かみを散ちらすこと
 散漫さん さん [名] ばつととしてとり
 散亂さん さん [名] ちりみだるるこ
 産額さん さん [名] 物の産う出でする高たか
 産科さん さん [名] 婦人の産うに關かし
 産術さん さん [名] たる事を取と扱あふ
 産業さん さん [名] なりひひ。世渡

産前 [名] まだ子をうまぬ
 産物 [名] その土地より産するもの
 算勘 [名] 算盤にて計算すること
 算數 [名] 計算したる數
 算當 [名] 算へあつること
 算段 [名] 手段を工夫すること
 算用 [名] 數へつものこと
 殘額 [名] 差引たる残りだ
 殘關 [名] 缺け残りて足らぬこと
 殘暑 [名] 秋まで残れる暑

殘留 [名] 残りて留まること
 殘照 [名] 入日の光
 殘生 [名] 残りの命
 殘忍 [名] むごたらしきこと
 殘念 [名] 念の残ること
 殘物 [名] のこりもの
 殘害 [名] そこなふこと
 殘熱 [名] のこりのあつさ
 酸性 [名] 酸氣を含みたる性質
 讒言 [名] かげにて人を惡

讒構 [名] 讒言して罪におとすこと
 讒謗 [名] そしること
 算入 [名] 數に加ふること
 斬罪 [名] 刑の名、首を切るもの
 斬新 [名] 極めて新らしき趣向
 斬首 [名] 斬頭(ザントウ)首を切ること
 斬伐 [名] 切ること
 斬殺 [名] 切り殺すこと
 賛成 [名] その事に同意して助くること
 刪正 [名] けづりただすこと

删除 [名] けづりのぞくこと
 讚歎 [名] ほめそやすこと
 竄伏 [名] にげかくること
 慙覲 [名] はづること
 篡奪 [名] うばひとること
 纂錄 [名] あつめしるすこと
 燦爛 [名] きらめくこと
 雙眼 [名] ニツの眼
 雙頭 [名] ニツ相並びてつきたる頭
 雙輪 [名] ニツの輪

雙線 [名] ニツの線
 雙身 [名] ニツのからだ
 雙方 [名] これと、かれと
 草稿 [名] したがき
 草創 [名] 事業を起し初むること
 草昧 [名] 世の未だ開けぬこと
 草草 [名] いそがばしく、もてなし手薄く
 爭論 [名] あらそひ。いさかひ
 爭鬪 [名] たたかひ。あらそひ
 爭奪 [名] 争ひうばふこと

藏蓄 [名] をさめ貯はふること
 造營 [名] 家屋を建築すること
 造作 [名] 物を造ること
 造船 [名] 船を造ること
 造幣 [名] 貨幣を造ること
 造詣 [名] わざの高妙の地に進むこと
 造兵 [名] 兵器を造ること
 造言 [名] つくりごと
 造立 [名] 造り立つること
 造建 [名] 家屋などをつくること

造酒 [名] 酒を造る。と
 造設 [名] 造り設くること
 相好 [名] かほつき。にん
 相應 [名] つりあふこと。
 相識 [名] ちかづき。しり
 相續 [名] 家督をうけつぐ
 相對 [名] 相向ひてあるこ
 相當 [名] よくあてはまる
 相談 [名] 話しあふこと
 相傳 [名] 傳はること。承

遭遇 [名] その事に出合す
 遭際 [名] 出であふ
 遭難 [名] 遭災(サウサイ)災難にあふこと
 壯健 [名] すこやか。たつ
 壯大 [名] 大きくていかめ
 壯舉 [名] いかめしきくば
 壯絶 [名] 極めていかめし
 壯麗 [名] つかめしきこと
 壯心 [名] さかんなる心

壯佼 [名] つかめしきこと
 壯勇 [名] いかめしきこと
 創建 [名] 寺社などをばじ
 創造 [名] 新に物事をたく
 創立 [名] 初めて設くるこ
 創痕 [名] きすあと
 創制 [名] 初めて作るこ
 創設 [名] 初めて設くるこ
 創開 [名] 初めて開くこ
 創定 [名] 初めて定むるこ

想見 [名] おもひやること
 想像 [名] おしはかり。思
 想望 [名] おもひのぞむこ
 早婚 [名] 未だ年の行かぬ
 早早 [名] 中結婚するこ
 早世 [名] 世を早くすると
 早旦 [名] 朝早きこと
 早計 [名] 早まりたる考
 早晚 [名] おそいければや
 早達 [名] 早く届くこと

早成 [名] 早く出来ること
 掃蕩 [名] はらひのくるこ
 掃殄 [名] 掃ひのけて絶ち
 掃去 [名] はらひ去ること
 贓罪 [名] ぬすみものなど
 葬式 [名] 葬禮(サウレイ)
 葬埋 [名] 葬ること
 葬送 [名] とむらひ
 喪心 [名] きぬけのするこ
 喪失 [名] 喪亡(サウバウ)失ふこと

喪亂 [名] 亂れ亡ぶること
 騷動 [名] あらそひ。さわ
 騷壇 [名] 詩人文人のなか
 操行 [名] みさをと行ひと
 操守 [名] 心に堅く守るこ
 雜言 [名] 種類の悪口
 裝填 [名] しかげをして物
 錯亂 [名] 入り交りて亂る
 錯綜 [名] 錯雜(サクザツ)入りまじること
 錯愕 [名] 甚だしく驚くこ

索居 [名] わびすまひ
 削除 [名] けづりのぞくこと
 削籍 [名] 名籍を削り去ること
 削減 [名] けづりへらすこと
 搾取 [名] しぼりとること
 册立 [名] 詔によりて立つること
 分明 [副] はつきりと。はれやかに
 彷徨 [自] ゆきまよふ。さすらひあるく
 扱扱 [感] 深く感じたる時に發する語
 扱置 [他] その儘にしておく

私語 [自] 聲をひそめて語る
 先駈 [名] 萬事に群をぬき出でて第一となること
 先方 [名] さきのかた
 先頃 [副] このあひだ。さきだつて
 先先 [名] 過ぎし時。未だ來らぬ時
 先立 [自] 前に立つ。さきに立ちて行く
 先觸 [名] 豫め事を觸れ知らせおくこと
 先程 [副] 暫し前に。いま
 咲分 [名] 一株の木に種種の色の花咲くこと
 差上 [他] 高くあぐ。たてまつる

差足 [名] 音のせぬやうにあること
 差當 [他] うちつけにす
 差合 [名] 差しあふこと
 差出 [自] 分をこえて前へ出づ。ですぐ
 差入 [自] いらこむ
 差置 [名] さしおくこと
 差掛 [他] 上よりさしかさす
 差換 [他] とりかふ
 差汲 [自] 眼に涙を含む
 差繰 [名] やりくり

差越 [名] さしこすこと
 差込 [名] さしこむこと。さしいるる。つきいる
 差詰 [副] 目のまへに。まのあたり
 差付 [他] さしあててすりつく
 差繼 [自] 後に續く
 差引 [名] さしひくこと
 差向 [副] とりあへず。めのまへに
 差向 [自] その方へ向く
 差寄 [自] 側近く寄る
 刺物 [名] すきまなく縫ふもの

鎖籠 [他] 戸締りをなす
 詐術 [名] いっぱりの術
 詐稱 [名] 名などをいっはりてとなふる
 坐職 [名] 坐りぬてする職業
 坐食 [名] ぬぐひ
 挫傷 [名] くちきて傷つく
 流離 [自] よるべなくてさまよふ
 流石 [副] さうは思ふもの。本分に恥ぢぬ意にいふ
 逆 [副] うらはらに
 逆 [自] 流れに逆ひて行く

爽 [副] 心よく。さつぱりと。はつきりと。分明に
 幸 [副] 運よく。折よく
 挿 [他] 物の間にはさむ
 麾 [他] 手にて人をまねく
 再返 [自] 再び起る
 再吟味 [名] 再び吟味すること
 再出 [名] 再び出ること
 再會 [名] 再びあふこと
 細工物 [名] 細工したるもの
 在京 [名] 都に居ること

在官 [名] 現今官を勤めてあること
在宿 [名] 家に居ること
在職 [名] 役を勤めて居ること
在住 [名] 住みつきて居ること
在郷 [名] 故郷に在ること
罪状 [名] 罪の事柄
最終 [名] 最も終りなること
最中 [名] 物事のまさかりなること
最良 [名] 最もよきこと
最上 [名] 最も上なること

歲出 [名] 一ヶ年間に支出する費用
災祥 [名] わざはひ
才略 [名] 才智ある計略
才力 [名] 才のはたらき
祭場 [名] 祭のには
際會 [名] 出合ふこと
崔嵬 [副] 山の高大なる状
里神樂 [名] 田舎にて行禮の時に行ふ
里歸 [名] 女の嫁したる後始めて生家へ歸る儀式
里離 [名] 人里を離れたる

里隣 [名] となりむら
座頭金 [名] 高利を取りながら
乍去 [副] しかしながら
無然氣 [形] そのやうな氣色なし
然程 [副] しかあるあひだ
茶話會 [名] 話をなす爲に設くる會
酒機嫌 [名] 酒を飲みたる時の機嫌
酒臭 [形] 酒の臭ひあり
酒浸 [名] 酒の中に浸すこと
逆落 [名] 逆に落すこと

颯颯 [副] 颯然(サツセン)風に吹きて起る聲をいふ
殺傷 [名] 殺すと、きづつと
殺略 [名] 敵を殺し平ぐる
殺掠 [名] 敵を取ること
粗糙 [副] 手ざわりの荒荒しき状にいふ
寒氣立 [自] 身に寒氣を感ず
散散 [副] 残る處なく、甚だしく
燦然 [副] あきらかに
潜然 [副] はらばらと涙を流す状にいふ語
參觀 [名] 参りて觀ること

嶄然 [副] 一段高くぬき出でたる状に云語
參會 [名] 参り合ふこと
參上 [名] まゐること
參酌 [名] 彼はまじへて酌み量ること
參着 [名] まゐりつくこと
散會 [名] 寄合ひ果てて人の退散すること
散懷 [名] うさをばらすこと
算術 [名] 數學の一部、専ら數をばかる術
慘虐 [名] むごたらしく取扱ふこと
産出 [名] 産物の出づること

慘狀 [名] 慘況(サンキヤウ)むごたらしくありさま
讚稱 [名] ほめそやすこと
相應 [副] ふさはしく、よく似合ひて
騷然 [副] さわがしき状にいふ
崢嶸 [副] 山の高き状にいふ語
鏘鏘 [副] 金屬の鳴る音の形容にいふ語
倉卒 [副] 倉皇(サウクラウ)にはかに
早熟 [名] 早く熟する。幼少の時智力の早く發達すること
早出 [名] 早く出ること
裝飾 [名] かざりつけ